

## 第2期横浜市教育振興基本計画（素案）に関する パブリックコメント実施結果【概要版】

### 1 実施結果概要

#### (1) 意見募集期間

平成26年9月11日（金）から平成26年10月10日（金）

#### (2) 意見提出方法

電子メール、郵送、ファクシミリ等

#### (3) 意見提出状況

125通（意見数：374件）

※詳細は「第2期横浜市教育振興基本計画（素案）に関するパブリックコメント実施結果」のとおり

#### (4) 意見への対応状況

「通級指導教室の充実について」（3件）に関する意見など11件（約2.9%）について、ご意見の趣旨を踏まえ、素案を修正します。

ご意見を反映し、素案を修正するもの	11件（2.9%）
素案と同趣旨及び賛同いただいたもの ※激励も含む	59件（15.8%）
ご意見として参考とさせていただいたもの ※質問も含む	268件（71.7%）
その他	36件（9.6%）

※小数点第二位で四捨五入しています。端数処理の関係で合計が100%とならない場合があります。

### 2 計画（原案）に反映する意見

#### (1) 放射線教育について

##### 【意見内容】

- ・「放射線教育」（という表現）が見当たらないのは重大（な問題）です。

##### 【反映の考え方】

- ・放射線教育に関して文部科学省から示された考え方に基づき本市としての取組を行っており、健康や安全に関する教育については、必要性が高まっている危険ドラッグに関する薬物乱用防止の教育ともあわせて、現行の横浜市教育振興基本計画から引き続き取り組みます。

修正箇所	修正内容（追記）
目標1 施策4 重点取組2 食育の推進などによる健康な体づくり （本文）	③健康・安全教育の推進 病気の予防に関する教育や喫煙、飲酒、薬物乱用の防止に関する教育、けがの防止に関する教育、放射線教育等について、関係機関や家庭などと連携して取り組み、健康な体づくりを進めます。

## (2) 通級指導教室の充実について

### 【意見内容】

- ・特別な支援を必要とする児童生徒数の増加に対応して、通級指導教室の拡充をお願いします。

### 【反映の考え方】

- ・通級指導教室や特別支援教室の教育環境を充実させるための取り組みを明示します。

修正箇所	修正内容（追記）
目標 1 施策 5 重点取組 1 特別支援教育推進のための指導体制の充実（本文）	（略） 一般学級において特別な支援を要する児童生徒が増加し、求められる支援が多様化している状況の中で、 <u>通級指導教室や特別支援教室等を活用するとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに対応し、全ての教員が障害特性を理解し、児童生徒の得意なことを引き出し、才能を伸ばす指導・支援を行います。</u>
（教育委員会事務局が取り組む事業）	<u>通級指導教室の教育環境の充実</u>

## (3) 特別支援学校の教員配置について

### 【意見内容】

- ・特別支援学校における教員配置については、同性支援の徹底を図るため、男女比率の是正をお願いします。

### 【反映の考え方】

- ・児童生徒一人ひとりのニーズに対応した取組を工夫します。

修正箇所	修正内容（アンダーライン部分追記）
目標 1 施策 5 重点取組 1 特別支援教育推進のための指導体制の充実（本文）	（略） 一般学級において特別な支援を要する児童生徒が増加し、求められる支援が多様化している状況の中で、通級指導教室や特別支援教室等を活用するとともに、 <u>児童生徒一人ひとりのニーズに適切に対応し、全ての教員が障害特性を理解し、児童生徒の得意なことを引き出し、才能を伸ばす指導・支援を行います。</u>

#### (4) 特別支援学校高等部について

##### 【意見内容】

- ・特別支援学校高等部についての項目が盛り込まれていない。

##### 【反映の考え方】

- ・特別支援学校高等部において自立や社会参加に向けた就労支援等に取り組んでいることを明確にします。

修正箇所	修正内容（アンダーライン部分追記）
目標1 施策5 重点取組1 特別支援教育推進のための指導体制の 充実 (本文)	(略) <u>特別支援学校高等部では、自立 や社会参加に向けた就労支援等の事業も 活用しています。</u>
(教育委員会事務局が取り組む事業)	<u>高等特別支援学校等</u> 就労支援員の配置

#### (5) 教職員の負担軽減について

##### 【意見内容】

- ・子どもたちとしっかりと向き合う教育活動が十分に行えていない理由に、部活動が負担になっていることが挙げられる。

##### 【反映の考え方】

- ・部活動に関する負担の軽減について、取り組んでいきます。

修正箇所	修正内容（追記）
目標3 施策9 重点取組3 教職員の負担軽減に向けた取組 (学校が取り組む事業)	部活動の組織的・計画的な指導体制の構築【新規】
(教育委員会事務局が取り組む事業)	部活動における外部指導者の活用や、科学的・分析的な指導、休業日の設定等、効果的・効率的な指導の検討【新規】

(6) 子どもの安全確保について

【意見内容】

- ・子どもの安全、安心のために警察機関との連携を進めてほしい。

【反映の考え方】

- ・警察等との連携により、子どもの安全確保に取り組みます。

修正箇所	修正内容（追記）
目標4 施策11 重点取組4 区役所や児童相談所、療育センター、 警察や関係機関との連携による児童 生徒支援 (学校が取り組む事業)	◆各学校における取組（例） ○警察等と連携した交通安全教室や交 通安全指導の実施 ○警察等と連携した不審者対応訓練等 の実施

第 2 期横浜市教育振興基本計画  
素案から原案への主な修正か所

【素案の報告時に委員の皆様からいただいた意見や時点修正等による主な修正】

1 登校支援の取組

(施策 3 重点取組 3 いじめ根絶、登校支援に向けた取組)

修正の考え方	修正内容 (追記)
問題行動調査の結果から小学校の不登校児童数の増加が判明し、支援の充実が必要であることから、記載を追加。	【想定事業量】 ハートフルルームの増設 8校 (25年度末) ⇒10校 (30年度末)

2 体力向上に向けた取組

(施策 4 重点取組 1 PDCAサイクルによる「体育・健康プラン」の運営改善)

修正の考え方	修正後 (追記)
学校だけではなく、他事業とも連携して、子どもの運動機会の確保に向けた時間帯を拡大するため、記載を追加。	【教育委員会事務局が取り組む事業】 「はまっ子ふれあいスクール」「放課後キッズクラブ」「放課後児童クラブ」等との「子どもの遊び場」づくりに関する連携【新規】

3 市立高校の中長期的な検討

(施策 6 重点取組 2 特色ある高校づくり)

修正の考え方	修正後 (追記)
市立高校のあり方検討に着手することが必要であることから、記載を追加。	【教育委員会事務局が取り組む事業】 横浜らしい特色ある教育内容を推進するためのあり方検討の実施【新規】

4 教育センター機能の検討

(施策 8 重点取組 1 教師力向上のための研究・研修の仕組みづくり)

修正の考え方	修正後 (追記)
教職員の研究・研修の質を高めるための環境整備として、研究・研修のあり方と合わせて、教育センター機能の再構築に向けて検討することから、記載を追加。	【総合的な研究・研修体制の整備 本文】 研究・研修のために必要な環境整備について、検討していきます。 【教育委員会事務局が取り組む事業】 教育センター機能の再構築に向けた検討【新規】

5 企業研修派遣の実施

(施策 8 重点取組 2 大学や民間企業と連携した教員の学びの支援)

修正の考え方	修正後 (修正)
企業等研修派遣を経験した管理職や教員が各校に複数 (5人以上) 在籍することで、校内で研修成果を共有し、OJTをより組織的に推進するため、H27年度以降の各年の派遣人数を300人から600人に増員。 また、事業量を市民により分かりやすく示すため、単年度あたりではなく、5か年の累計に記載を修正。	【想定事業量】 企業等研修派遣 30年度末の派遣人数を 300人/年から2,700人 (5か年) に変更

## 6 海外研修派遣の実施

(施策 8 重点取組 2 大学や民間企業と連携した教員の学びの支援)

修正の考え方	修正後(修正)
グローバル人材育成を推進するため、小中一貫教育推進ブロックに1人程度の海外研修派遣の経験者がいることが望ましいため、人数を増やした記載に修正。	<b>【想定事業量】</b> 海外研修派遣 30年度末の派遣人数を75人から200人(5か年)に変更

## 7 学校への多目的トイレの設置推進

(施策 12 重点取組 1 安全で安心な教育環境の整備)

修正の考え方	修正後(追記)
防災拠点として利用される学校を、安全で安心して利用できる施設にするために、多目的トイレを設置することとしたため、記載を追加。	<b>【より良い教育環境の整備 本文】</b> 災害対策の観点から、避難場所となる学校への多目的トイレの設置を推進します。 <b>【教育委員会事務局が取り組む事業】</b> 学校への多目的トイレの設置推進【新規】

## 8 学校施設への木材利用の促進

(施策 12 重点取組 1 安全で安心な教育環境の整備)

修正の考え方	修正後(追記)
本市の木材利用の方針とあわせ、学校についても木材を取り入れた温かみのある施設とすることが、より良い学習環境づくりにつながることから、記載を追加。	<b>【より良い教育環境の整備 本文】</b> 「横浜市の公共建築物における木材利用の促進に関する指針」を踏まえ、温かみのある学校施設となるよう、木材利用を進めます。 <b>【教育委員会事務局が取り組む事業】</b> 学校施設の木材利用の促進

## 9 新設校の設置及び学校統合

(施策 12 重点取組 2 学校規模の適正化)

修正の考え方	修正後(追記・修正)
本町小学校第二方面校(仮称)の設置が決まったことから、記載を追加。	<b>【教育委員会事務局が取り組む事業】</b> 本町小学校第二方面校(仮称)の設置【新規】 <b>【想定事業量】</b> 本町小学校第二方面校(仮称)の設置 (25年度末)検討中 (30年度末)開校予定(30年度)
平成26年第二回市会定例会において議決されたため、記載を修正。	<b>【教育委員会事務局が取り組む事業】</b> 上郷中学校・庄戸中学校の「小規模校対策」を「学校統合」に修正 <b>【想定事業量】</b> 上郷中学校・庄戸中学校の学校統合 (25年度末)附属機関から統合について答申を受領 (30年度末)統合校開校(27年4月)

## 第 2 期横浜市教育振興基本計画（素案）に関する パブリックコメントの実施結果

「第 2 期横浜市教育振興基本計画」を策定するにあたって、平成 26 年 8 月 29 日に素案を公表し、市民の皆様及び教職員からのパブリックコメントを実施しました。

このたび、実施結果と本市の考え方をまとめました。

### 第 2 期横浜市教育振興基本計画

「横浜教育ビジョン」（平成 18 年 10 月策定）の理念に基づき、平成 26 年度から平成 30 年度までの教育振興の具体的な教育施策や取組をまとめた基本的な計画（教育基本法第 17 条第 2 項に定める計画）です。

### — 目 次 —

1	実施概要	1
2	意見募集結果	1
3	参考	91
4	資料	91

平成 26 年 11 月  
横浜市教育委員会

## 1 実施概要

「第2期横浜市教育振興基本計画」(素案)及び概要版を配布し、概要版の巻末のはがき等による郵送、FAX、電子メールでご意見をお寄せいただきました。

- (1) 実施期間 平成26年9月11日(金)～平成26年10月10日(金)
- (2) 素案冊子等の配布 295,000部(素案冊子 約2,000部、概要版 約293,000部)
- (3) 配布場所・配布先 各区役所、市民情報センター、図書館、市立学校、PTA、主要鉄道駅等

## 2 意見募集結果

市民の皆様から125通・374件のご意見が寄せられました。

### (1) 意見提出状況

投稿手段	通数
はがき・手紙	18
FAX	19
電子メール	83
その他	5
計	125

区分	通数
保護者	45
その他	36
不明	44
計	125

年齢	通数
10歳代	2
20歳代	0
30歳代	4
40歳代	13
50歳代	15
60歳代	16
70歳代	8
80歳代以上	1
不明	66
計	125

	方面	通数	区 ( )は通数				
			鶴見(7)	神奈川(1)	西(2)	中(5)	南(1)
市内	東部	16	保土ヶ谷(2)	旭(3)	泉(2)	瀬谷(1)	
	西部	8					
	南部	20	港南(2)	磯子(4)	金沢(5)	戸塚(6)	栄(3)
	北部	29	港北(5)	緑(2)	青葉(10)	都筑(12)	
	不明	14					
市外		3					
不明		35					
計		125					



(2) 施策体系別意見数

施策体系		意見数
第1章 横浜市教育振興基本計画について		0
第2章 横浜が目指すこれからの教育		6
第3章	重点施策 1 横浜らしい教育の推進	59
	重点施策 2 確かな学力の向上	26
	重点施策 3 豊かな心の育成	21
	重点施策 4 健やかな体の育成	42
	重点施策 5 特別なニーズに対応した教育の推進	20
	重点施策 6 魅力ある高校教育の推進	13
	重点施策 7 優れた人材の確保	16
	重点施策 8 教師力の向上	18
	重点施策 9 チーム力を活かした学校運営の推進	51
	重点施策 10 学校教育事務所の機能強化による学校支援	3
	重点施策 11 子どもの成長を社会全体で支える体制づくり	21
	重点施策 12 教育環境の整備	12
	重点施策 13 市民の学習活動の支援	16
	各施策における達成目標	
計画の進捗管理		0
資料編		0
計画全体に関するご意見		13
その他	① 教育に関するご意見	20
	② 計画との関連が見られないご意見	8
合 計		374

(3) ご意見への対応状況

	対応状況	意見数	割合
ア	ご意見を反映し、素案を修正するもの	11	2.9%
イ	素案と同趣旨及び賛同いただいたもの	59	15.8%
ウ	ご意見として参考とさせていただいたもの	268	71.7%

※ 全体の意見数（374件）に対する割合については、小数点第二位を四捨五入しています。

端数処理の関係で合計が100%とならない場合があります。

※ 施策体系別意見数のうち「その他」36件（9.6%）は除いています。

※ 「イ」には激励も含まれます。

※ 「ウ」には質問も含まれます。

(4) 市民意見とそれに対する考え方

ア ご意見を反映し、素案を修正するもの

項目	いただいたご意見 (概要)	考え方・対応
施策4	○放射線教育が欠落しているのは重大である。	○素案の施策4重点取組2に新たに「健康・安全教育の推進」を盛り込み、放射線教育についても記載することとしました。
施策5	○特別支援学校における教員の男女比率の是正。身辺自立獲得のための同性支援の徹底。 児童生徒は男7割対女3割で、先生は真逆の男3～4割対女6～7割です。小学部高学年になると、同性介助となり、着替えやトイレの支援は男児には男の先生が必ずすることになり、男児の数に対して男の先生が圧倒的に少ないので様々な問題が発生しました。 特別支援学校では、男児が多く、身辺自立が大事な課題である子が多いので男性教員を増やしてほしい。できれば子どもの比率のように、男7割女3割に近づけてほしい。難しいならせめて各クラスに男の先生は最低2人いてほしい。宿泊の時は同室に男の先生が2人以上いるようにしてほしい。	○同性支援につきましては、大変重要な問題と考えております。特別支援教育推進のための指導体制につきましては、素案の施策5重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見は、児童生徒一人ひとりのニーズに対応した特別支援教育を進めていく中で、改善に取り組んでまいりたいと考え、原案において記述をあらためさせていただきました。
施策5	○支援が必要な子どもの通級教室の拡大。 横浜市は子どもが多く、支援が必要な子どもも多くなってきている中、通級に通える人数が限られているようです。多くの児童が通えるように、教室の拡大をお願いします。	○特別支援教育の推進につきましては、素案の施策5重点取組1に盛り込んでおりますが、児童生徒一人ひとりのニーズに対応した教育を推進する中で、いただいたご意見についても対応してまいりたいと考えております。 原案の策定に当たっては、当該重点取組の具体的事業に、「通級指導教室の教育環境の充実」を追加させていただきました。
施策5	○小学校の普通級における特別支援教育では、通級指導教室に行っている児童の場合、通級指導教室と在籍校の先生そして家庭が連携して、子どもを支援しています。 しかし、地域によっては通級児童の増加にともなって指導時間が減ってしまい、月に1～2回しか指導を受けられない子もいます。これでは、せっかく通級に行っても十分な指導を受けることができません。よって、通級指導教室の増設と通級指導教室の教諭の増員を希望します。	○特別支援教育の推進につきましては、素案の施策5重点取組1に盛り込んでおりますが、児童生徒一人ひとりのニーズに対応した教育を推進する中で、いただいたご意見についても対応してまいりたいと考えております。 原案の策定に当たっては、当該重点取組の具体的事業に、「通級指導教室の教育環境の充実」を追加させていただきました。

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策5	<p>○今回の計画では「通級指導教室の再編、整備」についての記述がありません。そのため、通級指導教室の位置付けが不明確になった感があります。これまで10年以上にわたり、横浜市は特別支援を必要とする児童生徒の増加に対応し、通級を増設してきました。今後もその児童生徒の数は増加すると思われます。一方通級在籍者の数も増加しているため、必ずしも保護者の希望する時間数の通級指導が受けられないケースも見受けられます。また現状、一般学級には、専門的指導を必要としながら「通いたくても通えない子ども」が多くいます(通えない理由の一つは知能検査の数字が通級の条件となっていることですが、これが教育的な観点から合理性があるかは別途検討の必要があると思います。)このような状況で通級の増設、指導枠の拡大がなされないとなると、現在通級が担っている専門的指導を在籍校が担うケースが増えることとなります。今後通級はセンター的機能の役割を強化していく方針なのでしょうか?今後の通級の位置付け、ひいては通級と在籍校の役割分担について大局的な説明があればと思います。なお、その検討にあたっては、通級の教育的効果や課題を客観的に調査した上で、制度を評価していただきますようお願いいたします。</p>	<p>○特別支援教育の推進につきましては、素案の施策5重点取組1に盛り込んでおりますが、児童生徒一人ひとりのニーズに対応した教育を推進する中で、いただいたご意見についても対応してまいりたいと考えております。</p> <p>原案の策定に当たっては、当該重点取組の具体的事業に、「通級指導教室の教育環境の充実」を追加させていただきました。</p>
施策5	<p>○横浜市立の特別支援学校の高等部に対しての項目がなかったのですが、何故でしょうか?特別なニーズに対応した教育の推進では、中学部までのことは載っていますが、高等部に対しては書かれていないと感じました。特別支援学校の高等部は11校あります。特別支援学校高等部では、卒業後に向けて学校内で行う大事な教育があります。高等部だからこそその指針や目標もあります。なぜそれが盛り込まれないのでしょうか?魅力ある高校教育の推進にも、特別支援学校の高等部のことは書かれていません。私が見落としているのでしょうか?それとも、横浜市立特別支援学校の高等部に関しては扱わないということでしょうか。</p>	<p>○特別支援学校高等部については、素案の施策5重点取組1の就労支援に盛り込まれておりますが、原案においてより分かりやすい表現とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策9	<p>○今回の基本計画素案は、第1期の基本計画と同様に、様々な施策が、詳細に提示されておりこれらを実行すれば、現場は引き続き際限のない長時間勤務を行うことになる。</p> <p>現場の教員は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備をしっかり行って授業に臨みたい、</li> <li>・子どもたちとじっくり向き合っ個別指導と学年、学級経営に取り組みたい、</li> <li>・最も神経をすりへらす成績業務の作業は、子どもたちと保護者への信頼を築くためにもミスがないよう、時間的精神的余裕を持って行いたい、</li> </ul> <p>など、当たり前だが、最も重要な教育活動が十分にはできていない状態に置かれています。</p> <p>この原因として、「調査・報告等」や成績業務を含め仕事量が過大になっていること、中学校の部活が負担になっていること、教職員の十分な配置がされていないことなどがあります。</p> <p>市教委の諸施策は、このための解決策を中核に据えて提示されるべきであり「素案」のような、言わば「従来型」の施策の提示を行うことはこの流れに逆行するものと言わなければなりません。</p>	<p>○教職員の負担軽減については、素案の施策9重点取組3に盛り込んでいます。また部活動に関する負の軽減については、ご意見も踏まえ盛り込むこととしました。</p>
施策9	<p>○教員の勤務時間の適正化のため、市立中学校・高等学校の部活動の時間を平日は午後5時までとし、土・日・祝日などの活動を行う場合、指導は地域のボランティアなど外部人材の活用を図る。また、週に1回程度ノー残業デーなどとし、部活動や会議などを原則なしとする日を設ける。</p> <p>教員の勤務時間はおおむね午前8時30分から午後5時までであるが、昼食などの休憩時間や休息时间などは事実上とれていない。また、例えば中学校では放課後の部活動の時間が最長午後6時や6時30分までというケースが多いため、特に運動部の顧問になっている教員はその後授業準備や業務仕事などにとりかかると職場を出る時間が午後8時、9時になることがざらである。さらに、朝の練習があれば午前7時、7時30分くらいから出勤する。午後5時を過ぎてからの各種会議もしばしば設定される。勤務時間などあつてないようなものである。先日、記者発表にあった教員の多忙化の一つの原因に、このような現状がある。そこで、勤務時間外の活動に関しては、地域の有志などに指導を委託するなどの外部人材の積極的活用を図るべきではないか。そのときの管理責任者は管理職（校長、副校長）がとめればよい。</p>	<p>○教職員の負担軽減につきましては、施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただきましたご意見については、今後、部活動への外部人材の活用や科学的な指導、休業日の設定等の検討を進めることとし、原案で記載を追加させていただきました。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策 9	<p>○先生がとても忙しいということです。子どもと向き合いたくても、学校へ提出する書類が多量にあり、しかも手書きでは許されずに、パソコンで作成することで、かえって時間がかかるということです。どちらでもいいと思います。</p> <p>そもそも、提出する書類が多量にあるということ、それが本当に必要なものであるかを検討してください。提出書類がたくさんあることが、仕事をすると教育委員会は錯覚していませんか？ 本末転倒になっていることは明らかだと思います。</p> <p>中学校の部活も先生への多大な負担になっていると思う。大切な授業の準備のための時間は後回しにされていると思います。先生にはまず充実した授業をしてほしいと望むのは生徒だと思います。先生もそれを望んでいます。</p> <p>学校というところは、機械を作るのではなく、生身の人間、やわらかな人間を育てる場所です。大人の都合で、利害関係に子どもを巻き込んだり利用したりしないでください。子どもを実験台にしないでください。子どもの大切な時間は戻りません。</p>	<p>○教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策 9 重点取組 3 に盛り込んでいます。また、部活動に関して負担軽減の視点を踏まえて新たに追加することとしました。</p>
施策 11	<p>○子どもの安全、安心のために今必要なのは警察機関との連携を確実にして安全な街づくりが必要だと思います。</p> <p>いくら教育関係者だけで安全を考えても、凶悪な犯罪者や暴走車からは子どもを守ることは不可能です。本当に交通マナー違反や暴走車が多いと思うし、犯罪通知メール等も登録しましたが、横浜は本当に犯罪の多い地域だと思います。街が危険なのに学校だけ安全にはならないと思います。行政機関の壁を越えて、同じ国家で同じ県の機関であれば意見してほしいと思います。</p>	<p>○子どもの安全、安心に関しては、登下校時の見守りは素案の施策 11 重点取組 1、通学路の安全は施策 12 重点取組 1 に盛り込んでおります。</p> <p>また、ご意見をいただき、警察等と連携した取組については、施策 11 重点取組 4 に盛り込むこととしました。</p>
施策 11	<p>○この 2、3 年で私の近くの中学生在が一遍に様変わり致しました。体操服で登下校をし始めてから、だらだらと歩いています。その上道路にはみ出ても平気です。学校の先生は登下校の指導をしていただきたいと思っています。車でいつも戸惑っています。生徒を轢きそうになり困っております。</p>	<p>○子どもの交通安全に関する取組については、施策 11 重点取組 4 に盛り込むこととしました。</p>

## イ 素案と同趣旨及び賛同いただいたもの

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
2章	<p>○21世紀の祖国(日本)を背負って立つ子どもたちが成人して、世界に飛翔して世界のあらゆる檜舞台で活躍するときに、世界のエリート層を相手にしのぎを削る時に、“たじろぐ”ことなく我が祖国の歴史と伝統・文化に裏打ちされた青年男女として、我が国のために、存分に活躍できる『誇り高く・志の高い日本人』に成長してもらいたいと常々願っております。</p> <p>素案全編を通して、横浜市の子どもたち(児童・生徒)が『誇り高く・志の高い日本人』に成長してもらえるように、〔素案〕全編を通して芯柱を埋め込んでいただきたい。</p>	<p>○横浜の子どもの育成のために、着実に計画を推進してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○小中一貫の取組については、既に交換授業等で実感しており、良い取り組みだと思っておりますが、各校で細部の調整をしていただければと思っております。具体的には、小学校で重点的に取り組んでいる活動を中学校につなげていただきたい。子どもの通う小学校では、夏季休暇中にも水泳の講習を行ったり、記録会に参加したり熱心に指導してくださっているのですが、学区の中学校に水泳部がなく、活動が途切れてしまっています。また、駅伝や陸上の朝練等も開催し、大会への参加も積極的にしてくださっていますが、中学校で陸上部がなく、他校や私立への入学を検討される方もいると聞いています。せっかく小中一貫の取組があるのにも関わらず、児童に深く関わりのある活動が、中学校につながらないことを大変残念に思っております。</p>	<p>○小中一貫教育の取組については、素案の施策1重点取組1を始めとして、あらゆる教育施策において連携して取り組んでまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○ペーパーでの知識の習得も大事ですが、実技や体験がないと自分のものにはならないと思います。実技、体験の充実を要望します。</p>	<p>○実技や体験の充実については、素案の施策1重点取組2にあるように大切なものと考えており、ご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。</p>
施策1	<p>○本物体験はとても重要な学びの機会であり、授業でどれだけ本物に触れ合えるかが知識等の定着、また学習意欲の向上に繋がります。ただ、教科書の内容の全てを本物体験することはもちろんできません。よって、いかに本物体験に近い経験をさせられるかが重要なカギとなります。つまり、写真や図などを使って、五感で教科書にある情報をどれだけ伝えられるかが教師に求められているという事です。</p>	<p>○子どもたちの豊かな体験については、素案の施策1重点取組2にあるように大切なものと考えており、ご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。</p>

項目	いただいたご意見 (概要)	考え方・対応
施策1	<p>○キャリア教育で働くことの意義や尊さを理解していても、実際に働けない子どもや自分の夢を実現する事しか考えない子どもが育っています。ニートやバイト、契約社員で良いわけです。人のために働くことの大切さ、人にしてあげることが自分の幸せにつながるという事を教えなければならないと思います。社会全体でキャリア教育の意味や意義を共有し、もっと議論する必要があると思います。</p>	<p>○キャリア教育は子どもたちが将来に夢や希望、目標を持つことを目指して行っています。ご意見も踏まえながら、今後も取組を推進してまいります。</p>
施策1	<p>○地域防災拠点の訓練には小学校も参加したいと思っているが、実施している学校の実状を聞くと、ほとんどが地域の防災訓練を見ているだけとのこと。全校児童が参加する体制をどうするのか。手本となる実例を示す必要があると思う。</p>	<p>○家庭・地域と連携した防災訓練の実施については、素案の施策1重点取組3に事例も含めて盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○海外の姉妹都市等の小中学校とのインターネットを活用した交流については、大歓迎したい。</p>	<p>○ご意見として参考とさせていただきます、充実に努めてまいります。</p>
施策1	<p>○21世紀の神奈川県(横浜)を背負って立つ子どもたちの目指す教育水準に適合する、これからの時代に即した良い教育施策です。 そのための「重点取組4 国際社会で活躍できる人材の育成」の取組には、最大限の注力が必要です。是非に5年後、10年後の子どもたちへの成果を期待したいです。</p>	<p>○いただいたご意見も踏まえながら、グローバル人材の育成の充実に目指し、取り組んでまいります。</p>
施策1	<p>○「グローバル」のみを強調せず、「日本人らしさ」を大切にし、表現して下さい。国籍不明の「グローバル人間」は国際的にも、誰も尊敬しません。愛国心なき人間を利すれば誰からも信用されません。イチローが尊敬され、愛されているのは彼が毅然として「日本人」であることが大きく評価されている面もあると思います。</p>	<p>○グローバル人材の育成に当たっては、素案の施策1重点取組4にあるように、横浜の歴史や伝統・文化に関する学習も推進してまいります。</p>
施策1	<p>○情報過多社会で生き抜いていくために「メディアリテラシー」の能力をつけるよう考慮して欲しい。</p>	<p>○素案の施策1重点取組5に盛り込んでおりますが、効果的に情報を収集し必要な情報を選んで活用する能力、新しい技術を積極的に利用して課題解決する姿勢等を育めるよう、取り組んでまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策1	○子どもたちへのスマートフォン・携帯電話の普及が「ライン」を利用したいじめなどを引き起こしている現状では、教職員への研修、子どもたちへの「情報モラル・マナー」の教育はとても重要です。この面では、委員会から専門的な講師の派遣、研修機会の提供がさらに必要になると思います。	○いただいたご意見は素案の施策1重点取組5に盛り込んでおりますが、今後も情報モラル・マナーを育成する教育の推進を充実させてまいります。
施策1	○全体的にIT関連の活用が遅れていると感じます。教育関係者、機関が活用していないのに子どもに指導できるのでしょうか？学校での教育者が使う設備が5年～10年前の機器で、最新の教育が可能でしょうか？もう少し予算をかけてでもIT化する方が良いと感じます。今の日本のIT教育では普通教育の差がなくても、情報弱者は生まれてくると感じます。他の国に比べても非常に遅れていると感じます。	○ご意見の趣旨については、素案の施策1重点取組5に盛り込まれているため、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。
施策1	○ICT活用のための環境整備はできるだけ早く行うべきです。今後は使い方や使って調べる等だけでなく、パソコンやゲームのプログラムが人によって作られていることを知る授業も展開する必要があります。はまってしまいうゲームやインターネットでついついクリックしてしまいうシステム等がプログラミングされていることを知るべきです。トラブル回避にも繋がります。	○学校におけるICT環境の充実については、いただいたご意見も踏まえながら、検討を進めてまいります。
施策2	○小中一貫教育と併せて学力別クラス編成の導入を検討していただきたい。塾や予備校と大きく違う点が学力別でクラス編成をしていないことです。それによって、各児童によりマッチした学力向上に繋がると感じます。	○素案の施策2重点取組1では、強化による習熟度に合わせた授業の実施について盛り込んでおりますが、いただいたご意見も踏まえて進めてまいります。
施策2	○せっかくの図書館があるのに、活用されていない、本の管理がきちんと出来ていない、担当の教員も時間がなく、整備されていない学校があるのではないのでしょうか。図書ボランティアの保護者がしっかりした学校や担当教員の力量で図書室に差が出ないようにして欲しいことと、司書に任せることで教員の負担を減らすことができるのではないかと思います。	○平成28年度までに全校配置を目指す学校司書が教員や図書ボランティアと連携し、図書館の有効活用を図ってまいります。
施策2	○学習習慣の定着に向けた取り組みは、基本的に同意できる取り組みですが、あくまでも学校での授業や読書活動の充実が本来であって、その時間に成果が上がるのが大事だと思います。	○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図り、いただいたご意見も参考にしながら、さらに取組を推進してまいります。



項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策2	○現在、一元管理されている市内の図書館と同様、学校の図書館の蔵書管理についても一元管理して、他の学校の蔵書でも借りられるようにしてはどうか。	○学校図書館の蔵書管理の電算化とネットワークの構築については、素案の施策2重点取組1にも盛り込んでおり、今後の充実を図ってまいります。
施策2	○学校に図書館司書を置いてください。	○小・中・特別支援学校全校への学校司書の配置については、着実に進めてまいります。
施策2	○学校司書や理科支援員の配置は学校現場としてはとてもありがたい取り組みです。	○小・中・特別支援学校全校への学校司書の配置については、着実に進めてまいります。
施策3	○豊かな心の育成について、施策の方針・重点取組の文面で賛成だが、事細かい記述・指針等は不要である。	○ご意見として参考にさせていただきます。
施策3	○現状と課題の①に感銘いたしました。自己肯定感が高ければ、やってみよう！と能動的に行動することができ、そのたくまさが新しいモノやコトを産むと思います。生産によって、その人が、企業が、社会が、国が発展してゆくでしょうから、未来を担う子どもたちには、大人になる前にたくさんの達成感を体験し、人の役に立つ充実感を知って、自己肯定感を高めてほしいです。	○子どもたちの自己肯定感を高めるための取組を進めてまいります。
施策3	○学力は大切だが、精神面というか心の大切さをもっと教育する。そしてそれを評価する教育。道徳教育がより必要。	○道徳教育の更なる充実を目指し、取り組んでまいります。
施策3	○豊かな心の育成の重点取組の①「実生活に生きる道徳教育の充実」はとても重要な項目だと思います。ただ、言葉のみでは、子どもの心には残りません。やはり現在過去に生きた人物に光を当て、生きた手本として教え、感動をもって学ぶ事ができることが大切だと思います。オリンピックやノーベル賞のニュースから子ども達は多くの生きた道徳を学んでいることと思います。	○現在過去に生きた人物等を教材にした道徳教育を効果的に活用していく取組を素案の施策3重点取組1に盛り込まれております。いただいたご意見を参考にしながら、実生活に生きる道徳教育の推進に取り組んでまいります。

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策3	○国際社会で活躍するためのコミュニケーションの前に子ども間のコミュニケーション力が基本と考えます。	○コミュニケーション能力については、素案の施策1重点取組4だけではなく、施策3重点取組1での集団活動の充実や同重点取組3で仲間との良好な関係を築くための取組としても盛り込んでおりますが、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。
施策3	○いじめ問題。中学、高校で一番気がかりな問題だ。この問題の一番の解決方法は、「クラス力」にあるように思う。自分のクラスから絶対にいじめは出さない、クラス全体が立ち上がること。そのためには先生にも友人にもオープンにできる、これが一番大事なこと。オープンにした生徒を絶対に孤立させない。いじめは学校でも先生でもなく「クラス力」にかかっていると思う。そして先生も場合によっては警察の力も必要だと思う。”クラスのメンバー勇気をもて”そしてそれを先生は命をかけて守れ。	○いじめの根絶及び教員の負担軽減については、それぞれ素案の施策3重点取組3及び施策9重点取組3に盛り込まれておりますが、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。
施策3 施策4	○子どもたちの自己肯定感や規範意識の低さ、体力の低さについては、学校現場でも何とかしなければと思っている。	○素案の施策3重点取組1の取組に子どもの自己肯定感や規範意識については盛り込ませていただいております、「自分にはよいところがある」と答えた子どもの割合を増やすことを達成目標としております。また、体力の向上については素案の施策4全体を通して取り組んでまいります。
施策4	○子どもの体力向上のため、早朝の校庭の開放を実施するべき。	○各学校では、子どもの体力向上に向けて、「体力向上1校1実践運動」等に取り組んでおりますが、いただいたご意見につきましても、こうした取り組みを進める中で、参考にさせていただきます。
施策4	○中学校における部活動のあり方を検討し、是非、地域や外部人材の活用行うべきだと思います。	○部活動のあり方については、素案の施策4重点取組3に盛り込んでおります。その中で、いただいたご意見のように、地域や外部人材の活用を図り、部活動の支援を行ってまいります。
施策5	○発達障害者が増えています。小学校、中学校、高校とそれからつながる就職への対応をすすめ、社会構成員として立派に仕事のできる人間になるようなシステムを創ってください。	○障害のある児童生徒の就労支援については、素案の施策5重点取組1に盛り込まれておりますが、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策5	<p>○障害の重い子どもたちの学習において、タブレット端末の有用性は色々なところで報告されています。将来的には生徒各1台を目標に、当面はクラス毎に在籍全児童が同時にタブレット端末を使用した授業が出来る台数の導入をお願いします。</p>	<p>○タブレット端末の活用については、モデル校での検証も踏まえ、着実に計画を推進してまいります。</p>
施策6	<p>○是非、中高一貫校を増やしてください!!!横浜市内には数校しかありません。義務教育という過程で、もっと教育の選択の場を広げて欲しいと願っています。中学は心も体も大きく成長する時期。そんな大切な時期に、いろんな体験をすることで、豊かな心をはぐくみ、子どもたちにもっと、将来の夢を描く大切なチャンスを与えてあげたいです。特色のある中高一貫校を増やし、自ら学校を選べるようなシステムになればと期待しています。横浜は、全国に向けて、沢山のことを発信し、モデル都市にもなっています。</p>	<p>○中高一貫校の拡充については、施策6重点取組2に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策7	<p>○逮捕される教員を出さないでください。 去年度、小学校教諭が学校の本を盗んで窃盗の罪で逮捕されました。目標2 施策7にあるように優れた人材の確保をより充実させ、逮捕者が出るような恥ずかしいことはしないでください。</p>	<p>○優れた教職員の確保に努めるとともに、教職員の質の向上を図ってまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策7	<p>○定年退職後の教員を再任用教員や非常勤講師等として、学校現場でさらに活用することには賛成できる。</p>	<p>○素案の施策7の重点取組1で盛り込んでおりますように、退職後の教員についてはいただいたご意見も踏まえながら活用を進めてまいります。</p>
施策8	<p>○メンターチームの説明で、先輩教員や中堅教員が助言者となりとありますが、この層は学校内でも非常に忙しい状況があるため、若手の育成に退職者をより活用するという事は考えられないか。</p>	<p>○素案の施策7重点取組1に盛り込んでおりますように、学校現場で培った豊富な知識や経験等を持ち、意欲と能力のある教員を定年退職後に再任用教員や非常勤講師等として、さらに活用してまいります。</p>
施策8	<p>○教職員の心の健康の維持・向上は賛成。これこそ5年かけて、しっかり取り組んでもらいたい。この教育振興基本計画そのものが、心の健康の維持・向上を阻むものとなつてはいないか、ぜひ考えてほしい。</p>	<p>○素案の施策8重点取組3に盛り込んでおりますように、メンタルヘルスの予防・早期発見・早期対応や復職への支援を進めていきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策9	○校長・副校長と先生の関係はどのようなものなのか。毎日のように校長名で書類が送られてくるが、どれだけの父兄が読んでいるか…逆にこれでは校長は他に何もできないのではないかと。とにかく書類が多すぎる。校長も先生ももっと直接子どもと関わる方が良いのではないかと。	○教員が子どもと関わる時間を確保することについては、素案の施策9重点取組3に盛り込まれており、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。
施策9	○先生にもっと時間を、形だけのつまらない書類を1/10くらいにせよ。子どもは小さな天使だ。もっと直に関わることでできる時間を。そしてその先生を一番に評価するのだ。子ども時代を振り返ってみてください。心に残る先生のことを。	○教師が授業や児童生徒指導に専念できるように、現在負担軽減に向けて取り組んでおります。教員が子どもと関わる時間を確保することについては、素案の施策9重点取組3に盛り込まれており、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。
施策9	○ある中学では今年度に入って2人も若い正規教員が体調不良で年度途中で休養を取っており、臨時教員が配置となりました。先生方が部活動も含め、休み返上で子どもたちの面倒を見てくださっているのはよくわかります。先生たちの働きやすい職場づくりを進め、負担を軽減し、経験の浅い教員の育成を進めていくことも上述の「教員の適正な確保配置」につながるのでは、さらに重点をおいて進めるべきではないでしょうか？	○教職員の負担軽減及び経験の浅い教員の育成については、それぞれ素案の施策9重点取組3及び施策8重点取組1に盛り込まれており、いただいたご意見も踏まえながら着実に計画を推進してまいります。
施策9	○先生方も雑用に忙殺されているように見えます。教育ももっと世間でシェアすることも考えられたらと思います。	○教員の負担軽減については、素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策9	○「教職員の多忙や負担を軽減」「働きやすい職場づくり」「子どもと向き合う時間の確保」についての仕事のあり方の改善に是非取り組んでもらいたい。	○教職員の負担軽減については、今後着実に進めていきます。
施策9	○学校栄養職員未配置校に栄養士有資格者を配置してもらえることは大変ありがたい。	○学校栄養職員未配置校への栄養士有資格者の配置については、今後配置を充実させていきます。
施策9	○理科支援員の配置、教職員が働きやすい職場づくり、学校への調査依頼の見直し、Eラーニングの活用などは、どれも学校現場にとってはありがたい施策です。	○教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでいます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

項目	いただいたご意見 (概要)	考え方・対応
施策9	○小中学校等の教職員の任命権が横浜市に統一されるという事で、市民の要望に対する柔軟・迅速な教職員配置を行って頂きますようお願い致します。	○県費負担教職員の市費移管については、素案の施策9重点取組4に盛り込んでおりますが、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。
施策9	○県費負担教職員の市費移管については、是非学校現場のためになるような教職員の配置について、良い回答を期待したいです。	○県費負担教職員の市費移管については、素案の施策9重点取組4に盛り込んでおりますが、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。
施策10	○学校が自主的・自律的に運営できるよう学校の組織力について支援という内容はありがたい。	○学校の実情を把握し、自主的・自律的な学校運営のための支援を継続してまいります。
施策11	○一読して、これでは子どもの教育の全てが学校に押し付けられ、先生方は疲弊しきっていらっしゃるのではと危惧します。学校のみならず社会全体が変わらなければ実現が難しいことではありますが、不可能なことではありません。家庭や地域、学校が抱え込まず、家庭や地域の力を借りての教育を提案します。 道徳など心に関することは宗教同様ここに異なる評価に適しません。家庭や地域が機能せず、学校で教えなければ身に付けられないと考えて憂慮の末のことかもしれません。ですが、百人百様に点数を付けることは教育上すべきことではないと考えます。義務教育同様後日の人間力への入り口、アプローチ的に提示する事でありとても重要なことではあります。人間力を作る学校など、教育を応援します。	○子どもを社会全体で育てていくという考え方のもと、学校だけではなく、保護者や地域の皆さまにもご協力いただきたいと考えていますので、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策11	○施策11は難しいですが、本当はとても大切なことなので、もっと意識の向上が進んでくれると良いと思います。子ども達の遊び場、居場所となれる場所についての不足も、とても不自由を感じ、可哀相に思います。	○子どもを社会全体で育てていくという考え方のもと、学校・家庭・地域や他の関係機関が連携できる関係づくりを目指し、取り組んでまいります。
施策11	○約1年の学童保育現場に通っている立場より。子どもが好きな、地域の人たち(年齢関係なく)が、子どもたちと関わる機会を積極的に創造していただきたい。子どもたちと身近に接してみると、本当に手間をかけていかないとダメだなと実感します。仲間同士の世界が充実していればまだしも、我々アナログ時代を知る者たちの出番は必要と痛感します。もっと多くの大人たちが参画する横浜の教育環境を目指していただきたい。	○地域の人材を活かした学校運営の推進については、素案の施策11重点取組1に盛り込まれており、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策 11	<p>○小学校では特に見られると思いますが、勉強以外の児童の指導が、先生方にかなりのご負担になっていると思います。家庭でのしつけが行き届かず、食事のマナー（給食）、掃除、道具の扱い方など、生活面までご指導いただき、申し訳なく思っております。</p> <p>そこで、こういった場面で教員免許を持たないような大人が、お手伝いをするということではできないでしょうか。保護者、地域の先輩方、ボランティアでは集まらないかもしれませんが、元気なご年配方は子どもと関わり、元気をもらえるのではないのでしょうか。</p>	<p>○各校で地域の特性や学校のニーズに合った活動が展開できるよう「学校支援ボランティア」を今後も拡大していきます。</p>
施策 11	<p>○小中学校での出前授業に外部講師を招いての授業を多く取り入れてほしい。（命の大切さや世の中には様々な人々がいることを学べるような機会にしてほしい。）ただ、先生の業務が増えないよう市として支援体制を作ってほしい。</p>	<p>○外部講師を招いた授業などについては、土曜日の活用などを中心に、学校・地域コーディネーターの活用などを図りながら、地域の皆様にもご協力いただき、取組を推進してまいります。</p>
施策 11	<p>○教職員の負担軽減のためにも、学校・地域コーディネーターを活用すべきだと思います。</p>	<p>○教職員の負担軽減については、素案の施策 9 重点取組 3 で具体的に取り組んでいますが、学校・地域コーディネーターについても、今後養成や配置の充実、活動環境の整備に取り組んでまいります。</p>
施策 11	<p>○地域防災訓練への児童生徒の参加は増やしていきたいと思うが、具体的な方策が見えない。具体例の提示についても考えてもらいたい。</p>	<p>○地域防災訓練への児童生徒の参加については、コラムなどに実施校の事例等を記載させていただきました。今後、各学校において、こうした取り組みを進めてまいります。</p>
施策 12	<p>○学校への防災備蓄品の配備や学校施設の建替え、空調設備の設置、トイレの洋式化については、どれもありがたい取り組みです。</p>	<p>○防災備蓄品の配備、学校施設の建替え検討、空調設備の設置、トイレの洋式化については素案の施策 12 重点取組 1 に盛り込まれており、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。</p>
施策 12	<p>○学校の特別教室への空調設備の設置や児童生徒を学校に留め置くための飲食料等の配備は校長会の提言でもあるので、取り組んでもらいたい。</p>	<p>○学校の空調設備及び飲料水等の配備については素案の施策 12 重点取組 1 に盛り込まれており、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策12	<p>○通学区域の弾力化、学校選択制については、他都市での実施後の経過を見ると学校間格差を生む呼び水となっているので中止を原則とすること。学校規模の適正化については、学区域と地域住民の意向を十分踏まえて検討すること。</p>	<p>○学校規模の適正化については、地域の皆様の意向を踏まえながら検討を行ってまいります。</p>
施策12	<p>○横浜型小中一貫教育など、興味深い内容もありました。しかし、現況では、複数小学校が近接しているうえに、さらに新しい小学校ができ、また1つの小学校は単クラスであるにもかかわらず、他の小学校は5クラスという状況に違和感を抱いています。</p> <p>そのような不自然な人数の偏りを調整することも必要ではないでしょうか。(通学区域の見直し等)</p> <p>1学年で女子が13人や10人といった状況で6年間過ごすのはあまりにも過酷な気がしますが、どのようにお考えでしょうか。また、このような状況を把握されていますでしょうか。</p> <p>政府方針で、今後統廃合を進めていくような検討という事ですが、子どもたちは日々成長しており、小学生生活もあつという間に終わります。早急な動きが必要だと思います。</p>	<p>○学校規模の適正化については素案の施策12重点取組2に盛り込まれておりますが、刻々と変化するそれぞれの地域の現状を踏まえた上で検討を行ってまいります。</p>
施策13	<p>○「市民の学習活動の支援」に基本的に賛成ですが、「図書館サービスの充実」に関わって以下の点についてご検討いただきたいと存じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対的に不足している図書館サービスの拠点の整備・拡充を要望します。</li> </ul>	<p>○図書館サービスの充実については、素案の施策13重点取組2に盛り込んでおりますが、拠点の整備・拡充については必要な予算の確保に努めてまいります。</p>
計画全体	<p>○目標3、目標4、目標5については賛成</p>	<p>○着実に計画を推進してまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
計画 全体	<p>○子どもたちの未来将来、目に見えるものも見えないものも、心にとめて作成尽力して下さったことを感じ、親のひとりとして、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございます。拝読しながら、我が身と我が子たちをふりかえっております。</p> <p>子どもたちを信じると、大人も親も、こわばりがほどける感じがするのですけれども、いかがでしょう。</p> <p>我が子たちの通う公立中（横浜）の先生方に感謝しています。日々の小さな声かけ、時には先生ご自身の弱さや迷いに正直な姿なども含ませながら、情熱ある授業をなさる、子どもの何気ない将来への夢も応援してくれる、心にとめてくださる、覚えてくださる、子どもの心に届くはげましをしてくださる。先生方は当たり前のことをしてくださっているかもしれませんが、お忙しいなかで、子どもたちのみえない心もうけとめてくださって、人としての尊い営みだと存じます、先生方の人格が、人柄が、まさに「道徳」そのものです。我が子たちは、人としての温かさ優しさを、自然に伝えていただいて、吸収しています。</p>	<p>○いただいたご意見も踏まえながら、横浜の子どもたちのために、計画を推進してまいります。</p>



ウ ご意見として参考とさせていただいたもの

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
2章	<p>○日本中・世界中どこでも通用する常識を育成するのが初等・中等教育であることから“横浜の子ども”は“子ども”に変更すべきである。3つの基本：知・徳・体については目標として賛成。2つの横浜らしさは、わざわざとりたてて目指すものではないから削除する。</p> <p>「公」でいう「公共の精神を尊ぶことと・積極的に社会との関わり貢献すること」は3つの基本の「徳」の手段であり、「横浜を愛し」「貢献する」は、学習した子どもたちが判断し、行動することであり、為政者の押しつけになる。</p> <p>「開」については、「横浜の歴史や伝統・文化を」学ぶことは良いが、最初から「尊重する」では、批判的な価値判断の余地がなくなるから反対。「国際社会で活躍できる力を身に付ける」ことは良いことであるが、そのために義務教育で身につけるべき多くのものをないがしろにしている小学校低学年からの英語授業や、中学校卒業段階での実用英語技能検定3級相当以上の生徒の割合の目標値40%以上が施策になっているので反対。</p>	<p>○「横浜教育ビジョン」は、平成16年度に有識者の委員をメンバーとして設置した「横浜教育改革会議」における2年間の議論を踏まえ、平成18年度に策定されたもので、「知・徳・体・公・開」は、横浜の教育が育む「横浜のこども」として、この「横浜教育ビジョン」において示されたものです。</p> <p>本計画は、「横浜教育ビジョン」に基づいて策定しておりますが、いただいたご意見につきましては、計画における施策を実施する中で、参考とさせていただきます。</p>
2章	<p>○「たくましく生き抜くための力」のあとの「バランスよく育む」までを強調することで課題がはっきりする。</p> <p>「学校と関係機関との連携強化」の前に、「行政による人的配置をはかり校内指導体制の充実」を入れる。経験の浅い教員を「早急に育成」ではなく経験の浅い教員を「退職教職員等の力も活用して丁寧に着実に育成」とする。教員の育成はそんなに短期間にできるものではありません。</p>	<p>○教職員の人材育成は大変重要な課題であり、計画においても施策8において重点取組の内容等を位置付けております。いただいたご意見につきましては、こうした取り組みの中で参考とさせていただきます。</p>
2章	<p>○国民教育の視点が脱落しています。教育基本法第1条の「国家及び社会の形成者」たる「国民」の育成をしてください。「地方教育」の字句にもかかわらず、教育を実際に行うのは現場である「地方教育」であり、ここで、国民教育を行わずしては、国民教育の場はありません。</p> <p>「国立」の学校だけで国民教育を行うものではありません。「横浜を愛し」を「国や横浜を愛し」としてください。</p>	<p>○ご意見として参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
2章	<p>○今まで見逃され、学校の教育力向上を妨げてきた「教職員の負担」の限りない増大にまず歯止めをかけることが教育現場の活性化のために緊急に取り組むべきことである。</p> <p>社会のグローバル化への対応、オリンピック・パラリンピック東京大会を契機とした取組などは、政治的経済的要請が教育を引き回すことになるので、子ども自身の成長を第一に考えるべきで、少なくとも①～④の順序を入れ替える。</p> <p>① …「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」  ② …「教職員の負担軽減」、「県費負担教職員の市移管への対応」  ③ …「オリンピック・パラリンピック東京大会を契機とした取組」  ④ …「世界での活躍を実現する教育」</p>	<p>○施策9重点取組3にあるように、教職員の負担軽減を推進してまいりたいと考えています。その他、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
2章	<p>○「自助」「共助」と言われますが、自助・共助が現実的に難しい場面は多々あります。災害が発生した場合、災害の原因、発生時間、被災規模等により、避難や救助の内容や方法が諸種考えられます。いくつかのケーススタディーを行い、自助・共助で片づけられるもの、行政（学校）が主体的役割を果たすべきもの、学校・家庭・被災者の共同などを諸種検討しておく必要があります。自助・共助だけでなく広い視野に立った防災計画を検討すべきである。その際、必要となる防災器材や防災対策要員、避難施設等も当然のことながら検討すべきである。片手間の計画や対策とならないよう要望する。学校運営にあたって地域の理解と協力を得ることは重要である。しかし、教育内容に関わる事項についてはその編成権限はあくまで現場の先生方にあることに留意し、地域の協力という名で地域が介入しないよう配慮が必要である。学校は生徒一人ひとりに向き合い、授業や学校行事に一人ひとりの生徒が主体的に関われるようにエネルギーを使って欲しい。学校に対しては、ほとんどの地域がいつでも協力できる心構えを持っていると思う。また、地域コミュニティの活性化の問題は、学校運営に支障がない限りにおいて、地域に任せればよい。</p>	<p>○地域で子どもが豊かに成長できるよう、地域と学校が貢献し合う相互関係を構築していくことが重要と考えています。子どもの成長を社会全体で支えていけるよう取り組む中で、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○施策の方針部分  横浜を愛し→横浜及び各地域を愛し  横浜の歴史や → 横浜及び地域の歴史や</p>	<p>○「横浜」という表現には、「地域」も含まれていると考えています。いただいたご意見につきましては、参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策1	<p>○特別支援教育は当然として、市だけではだめなのでしょうけど、通常のクラスももっと多コース、複線を進める社会であればと思っています。当分は出生率も上がらないのでしょうから、一人ひとりの子どもたちが、自分の特性を十二分に伸ばせるような教育環境が大切と思っています。</p>	<p>○一人ひとりの子どもが個性を伸ばせるように、今後も横浜の教育の一層の充実を図ってまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○国の教育振興基本計画と照らし合わせると、大方の方向性は同じだとしても、肝心な先見的な計画といわれている「持続可能な社会」や「ESD（持続可能な開発のための教育）」などの〈未来志向〉の時代を先取りした施策が横浜版には十分に反映されていないのが残念です。国際的には、来年以後は、SDGs（サステナブル開発目標）が世界標準になる時代が到来します。ぜひとも未来志向的な方向性を施策の一環として明記されることを提案いたします。</p>	<p>○横浜では、豊かな体験を通じた学習の充実のために、ユネスコスクールの指定を受けてESDに取り組んでいる学校もあります。いただいたご意見を参考にさせていただき、今後も教育の一層の充実を図ってまいります。</p>
施策1	<p>○学校運営については、世界的に注目されているホールスクール・アプローチを参考に、学校全体で取組むことを施策として提唱できないでしょうか。とかく教室内の改革に焦点化される傾向のある教育改革ですが、学校全体での取り組みと有機的に連携することにより、校内の多様な問題が解決に導かれると言われていています。幸い、横浜市には先進的な取り組みをしている学校が存在していますので、そうしたネットワークを広げる基盤として、施策を策定できないでしょうか。</p>	<p>○今後も、チーム力を活かした学校運営を推進していきます。いただいたご意見を参考にさせていただき、横浜の教育の一層の充実を図ってまいります。</p>
施策1	<p>○「横浜版学習指導要領」の成果について検証をきちんと行うべき。平成24年度横浜市教育委員会点検・評価意見交換会の中で、「横浜版学習指導要領があることで、トリプルスタンダード（国の学習指導要領、横浜版学習指導要領、各学校の教育課程）になっており、現場にとって使いづらいものになっていると感ぜられる。横浜版の活用を効果を検証する機会を作してほしい。」という指摘があったが、その後検証が行われたという話は聞かなくてこない。功罪を明らかにせずに充実もないだろうと感ぜる。</p>	<p>○「横浜版学習指導要領」は国の学習指導要領を踏まえた上で、市立学校の教育課程の理念及び方向を示したものです。国の学習指導要領の改訂に合わせて「横浜版学習指導要領」の検証を行い、各学校が特色ある教育課程を編成していくため支援してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○小中一貫カリキュラムはこれ以上進める必要はない。土台が違う成り立ちのものをいくらつなげても継ぎ接ぎだけで本当の意味で「話がつながる」ことにならない、小学校の良さ、中学校の良さがあるのだから、カリキュラム等で体裁を整える必要はない。子ども同士、教職員同士の交流の充実で十分である。</p>	<p>○小中一貫教育は様々な成果が出ており、今後も横浜の特色ある教育として推進してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策1	<p>○小中一貫教育については、なぜ2校にとどまって進まないのかの検討から出発するべきである。</p> <p>素案では、小中一貫校については、現在の2校から2018年度末までに新たな設置準備、小中一貫教育推進ブロックへの非常勤講師の配置を現在の20人から26人に、小中一貫教育推進ブロックでのキャリア教育実践校を4ブロックから18ブロックへ、など掲げられているが、このような目標を掲げる前に、国と同様に現状を検証することが必要である。</p>	<p>○新たな小中一貫校の設置検討については、素案の施策1重点取組1に盛り込んでおりますが、国の動向も踏まえながら、検討を進めてまいります。</p>
施策1	<p>○同じような体験はいくつもあるかもしれないが、初めての体験の連続が人生である。小学校から中学校に進学する時には、不安感があれば期待感もある。これからの人生を生きていく一つの訓練の場でもある。小中一貫教育を推進するために、不安感だけを強調する理由が理解できない。小中一貫教育の妥当性は見られない。</p>	<p>○横浜の教育の特色である小中一貫教育は多くの成果も出ており、今後も推進していく必要があると考えております。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○「中1ギャップ」などあって当たり前、ある面で小学校の狭いしがらみを脱するチャンスでもあります。事前準備として、すでに生徒会役員が出向いて説明会などしたり、中学校見学の機会を設けています。共通のカリキュラムを作成したり、中学校教員が授業に出向くなど余分かつ膨大に負担を増やす取り組みは止めるべきです。</p>	<p>○横浜の教育の特色である小中一貫教育は多くの成果も出ており、今後も推進していく必要があると考えております。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○横浜型小中一貫教育校が小中連携ならよいが、一部のエリート養成のためのものであれば、公平さを標榜する公立学校としてはふさわしくないので反対。</p>	<p>○小中一貫校の設置拡充については、素案の施策1重点取組1に盛り込んでおりますが、国の動向も踏まえながら、検討を進めてまいります。</p>
施策1	<p>○小中一貫校について、今ある2校の実態はどうなのか。検証がされ、新たに設置する意味はあるのか。</p>	<p>○小中一貫校の設置拡充については、素案の施策1重点取組1に盛り込んでおりますが、国の動向も踏まえながら、検討を進めてまいります。</p>
施策1	<p>○『横浜の時間』には是非その地域のことを教材として利用して授業を行ってほしいと思います。その際、教師は地域のことを知らないで、その学校の「学校・地域コーディネーター」を活用して教材や人材を探し、特定のことや人ではなく広く地域を活用することが地域全体を巻き込んで地域が学校や子どもたちを育てる事にも繋がると思います。</p>	<p>○『横浜の時間』の実施に当たっては、地域の皆様に御協力をいただきながら取り組んでいますので、いただいたご意見も踏まえながら、事業を推進してまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策1	<p>○「キャリア教育の推進」・「中学校における職業体験プログラム」など、計画では1行で書かれますが、担当学年とりわけその担当責任者の負担たるや膨大なものがあり、総合の時間では足らず教科の時間を削ることもあり平常の教育を大きく阻害しています。生徒が職業の一端に触れる効果はありますが犠牲が大きすぎます。トラブルを避けるため事業主に絶対服従するように教えるマイナスもあります。キャリア教育は真っ先に削減すべき内容でしょう。社会科での労働基本権学習こそ拡充すべきです。</p>	<p>○キャリア教育は、子どもたちが働くことの意義や尊さを理解し、将来に夢や希望、目標を持つことを目指して行っております。いただいたご意見も踏まえながら、今後も取組を推進してまいります。</p>
施策1	<p>○防災教育については、「自助」「共助」の推進でよいのか。国と自治体による防災対策の現状と課題を知らせ、「公助」を含めて考えさせることがこの国と地方の将来を担う子どもたちにとって必要。</p>	<p>○防災教育において、児童生徒自身が身に付ける力の中では「自助」「共助」の視点を大切にしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○防災を自助・共助だけで乗り切るような誤った発想を子どもに植え付けないでください。大きな公助の枠があってその中で自助・共助が役に立つのです。</p>	<p>○防災教育において、児童生徒自身が身に付ける力の中では「自助」「共助」の視点を大切にしています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○地域防災訓練への児童参加を具体的にどのように進めていくのか。地域防災拠点へ積極的に児童・生徒を参加させている学校もあるが、全く参加していない学校もある。</p>	<p>○家庭・地域と連携した防災訓練の実施については、素案の施策1重点取組3に盛り込んでいますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○小・中学校が避難所として機能するためには、日頃からの配備が大切ですが、情報提供の方法、資機材の備蓄の点検、安否確認等々の具体的な訓練計画はできているでしょうか。防災を考えると、電話・メール配信が不可能という前提で計画を立てて欲しいです。いまだに子どもの引取り訓練を電話連絡・メール配信できるという前提で行っている学校が多いのにはビックリしました。「自助」「共助」に基づく防災教育の推進を唱えていますが、地域の自治会・町内会との協定に向けた話し合いはできているのでしょうか。自助＝緊急避難という事を徹底して教えてほしい。</p> <p>教師の判断の甘さが、子どもの生命を落とす場合もある。人命を守り、社会生活を営むため、自然災害・人災問わず混乱とパニックの中で生き延びる方策を、子ども自らが考えて行動する＝五感を活かす判断力、創造力、実行力を養うことが防災教育には必須です。</p>	<p>○防災教育の推進については、素案の施策1重点取組3に盛り込んでいますが、いただいたご意見につきましては、学校や関連区・局などとも連携して取組を進める参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策1	<p>○直下型地震や南海トラフの地震が予想される今、防災教育は重要です。しかし、負担の大きい「学校・家庭・地域が連携した防災訓練」などは推奨すべきではありません。むしろ関東大震災時にデマによって多くの朝鮮人や中国人が虐殺されたこの横浜の教訓を学ぶ必要があります。</p>	<p>○震災発生時の防災拠点の円滑な運営には、日頃からの地域と学校との連携が欠かせないものと考えています。そのための、発災時を想定した学校・家庭・地域が連携した防災訓練を推進してまいります。</p>
施策1	<p>○地域の防災訓練と学校の防災訓練が今は別々だと思います。震災は、同時刻に発生するのだから、土曜日などに連携して訓練することを模索すべきだと思います。</p>	<p>○震災発生時の防災拠点の円滑な運営には、日頃からの地域と学校との連携が欠かせないものと考えています。そのための、発災時を想定した学校・家庭・地域が連携した防災訓練を推進してまいります。</p>
施策1	<p>○「小学校英語リーダー教員」による校内研修の実施【新規】は反対である。新しい教科にもしなるなら国も該当学年担当教員の全員に研修を行うべきだし、横浜市も独自のYICAをうっているならやはり全教員を対象とした研修を打たなければ確かな施策とはならないだろう。</p>	<p>○全教員を対象とするためにも、集合研修だけではなくOJTを重視した施策にしております。英語教育については、素案の施策1重点取組4に盛り込んでおりますが、関連するご意見として、参考にさせていただきます。</p>
施策1	<p>○小中のスーパーイングリッシュプログラム、イングリッシュキャンプは不要である。理由は日本でそれをやってもまた日常に戻るからである。姉妹校交流など生の体験を重視するとともに、南高校に特進クラスをもうけて全員留学させるべき。補助はある程度するにしても英語力、思考力は高めるような教育をし、それでようやくグローバル人材となり得るかどうか、と言った程度のもので、TOEFLを受けることやイングリッシュキャンプはグローバル人材育成とはあまり関係ない。</p>	<p>○小中学校のグローバル人材の育成及び高校でのグローバル人材の育成については、それぞれ素案の施策1重点取組4及び施策6重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○小学校担任教員への英語指導力向上研修、AETの全中学校常駐配置は、小学校教員の負担増、中学校教員の負担増及び中学校の通常の英語授業の確保の観点から廃止を含め見直す必要がある。</p>	<p>○児童生徒のコミュニケーション能力の向上のために、教員の指導力向上やAETの配置は欠かせないものと考えています。英語教育については、素案の施策1重点取組4に盛り込んでおりますが、関連するご意見として、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
<p>施策1</p>	<p>○中学生、小学生を持つ親として意見させていただきます。</p> <p>5年後の達成目標の中学校卒業段階で実用英語技能検定3級相当以上の生徒の割合をだしていますが、小学校では遊び程度の英語であり、中学に入るとすぐに難しくなる為ついていくには、小学生から外で英語を習わないとついていけない現状をご存知でしょうか。</p> <p>次代を担うグローバル人材の育成、世界での活躍を実現する教育を検討されているならば、現在の教育状況をしっかりと理解し、実現できるような教育方針を立案していただきたいと思います。小学生のころから、中学生のはじめに行う様な英語授業や授業数の増加、英会話の検討。中学では英会話を中心とする授業の検討。また、統一した教育（すべて日本語を使わず授業する先生もいれば、教科書を読むだけの先生もいます。）中学一年で、受け持つ教員で英語に対する意識が変わってきてしまいます。</p> <p>優れた人材の確保、グローバルな視点を持った教員の育成を行ったとしても、現場での教育方針が変わらなければ「国際社会に寄与する開かれた心」は築けないのではないのでしょうか？</p> <p>国際交流が多い横浜だけに、進歩した語学教育が必要なのではないのでしょうか？2020年にはオリンピックが開催されますが、語学を通じて中学生、小学生が自信を持って活躍できる人材に育つよう教育方針の検討していただきたいと思います。</p>	<p>○横浜市では、小中9年間一貫した英語教育を行い、中学校卒業までに、相手の文化や考え方を理解・尊重しながら初歩的な英語でコミュニケーションを図ることができる子どもを育成することを目指してまいります。</p> <p>また、あわせて、素案の施策8重点取組2にあるように、グローバルな視点を持った教員の育成にも力を入れてまいります。</p>
<p>施策1</p>	<p>○国際社会＝英語教育＝英検に合格させるという考えなのではないでしょうか。いくら試験に受かろうが、他の言語を使用できずコミュニケーションがとれ、自分の意見を述べる事ができなければ活躍はできません。試験のための英語ではなく、自分の意見を述べるための英語を学ぶべきです。英語というのは国際社会で活躍するためのツールであって、英語を習得するというのが目的になってはいけません。英語をツールとして、みんなが聞き入るようなプレゼンができる能力が付くような教育を提供されることを期待しています。日本語で英語を教えるのはやめて欲しいです。1年生なら英語だけの授業でも内容が面白いものなら集中でき、回数を重ねるうちに自然とわかるようになるはずですが。</p> <p>また、国際社会＝英語というふうには考えがちですが、横浜市には英語圏以外の外国人の方々もたくさんいるので、それを生かした他国の文化や習慣を学ぶ機会を作らなければなりません。小さい頃から様々な国の人と接することで、他の国、言語に抵抗がなくなり、将来社会に出た際にそれが役に立ちます。</p>	<p>○横浜市では、小中9年間一貫した英語教育を行い、中学校卒業までに、相手の文化や考え方を理解・尊重しながら初歩的な英語でコミュニケーションを図ることができる子どもを育成することを目指してまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策1	<p>○グローバル人材育成の英語教育は母語をこれから修得していくべき大切な幼児期には母語修得の悪影響ばかりでなく母語と英語の両方が中途半端になり問題である。幼児期の限られた時間内には修得すべき知性、感性、体力、技能等々が沢山ある。また、日本に住む日本人に日本語は必須だが、英語は殆どの日本人には必要がない。英語を修得するには高校2年生頃に6か月近く集中訓練すれば効果的で大切なのは日本語の高い能力だと英語の専門家は皆知っている。</p> <p>また、英語を母語とする人達とで使う機会より外国語とする人達とで使う機会が多い。世界の言語は日本語のように母語が5音で主語に始まり動詞で終わる方が主流で日本語風の発音の英語は彼らに通じ易いとのこと。日本語を使う人口は世界で5、6番目に多い。我々は日本語を誇りに日本語の能力を磨きたい。言葉は文化。クールな日本文化はこの日本語から生み出されていることを今こそ再認識すべきである。</p>	<p>○横浜市では、小中9年間一貫した英語教育を行い、中学校卒業までに、相手の文化や考え方を理解・尊重しながら初歩的な英語でコミュニケーションを図ることができる子どもを育成することを目指してまいります。</p> <p>また、国語をはじめ、あらゆる教科等の学習を通して、言語力の育成を推進してまいります。</p>
施策1	<p>○国際社会で活躍できる人材の育成ですが、世界は、待たないで動いています。5か年計画でのんびりやっているわけにはいかないと思います。小学生の国際理解英語を使った授業を見に行きました。これを都度やっているだけでは、とても英語でコミュニケーションを取れる子どもにはなれません。もっと英語を使用した授業を増やすべきだと思います。小学生は「聞く」「話す」を伸ばす、と書いてあります、授業で話す機会は、指名されないとないですし、単語を言うだけです。お子さんによっては、英語のレベルが同じではないでしょうが、少人数、レベル別でもいいのではないかと思います。学校の中で、他の授業でももっと英語を取り入れるべきだと思います。さらに、具体的に英語を体験する授業、活動をやって欲しいです。他の教科と違い、言語は使用することが大切です。ひらがなと同じく、1年生からアルファベットを教え、フォニックスを教えれば、自然と英語を読めるようになり、日本語能力と並行して伸ばしていけるのではないのでしょうか？横浜という土地柄、教えるネイティブスピーカーの人材確保は難しいと思います。</p>	<p>○横浜市では、小中9年間一貫した英語教育を行い、中学校卒業までに、相手の文化や考え方を理解・尊重しながら初歩的な英語でコミュニケーションを図ることができる子どもを育成することを目指してまいります。</p>
施策1	<p>○少人数の児童生徒による英語だけのコミュニケーション活動とあるが、少人数とはどういう事か。それに対応する教員を増やすという事になるのか。</p>	<p>○少人数の児童生徒による活動は、現在全中学校に配置されている英語指導助手を活用して行ってまいります。</p>



項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策1	<p>○実用英語技能検定やTOEFLなどの外部指標の活用、「スーパーイングリッシュプログラム」などは子どもたちの負担とストレスを増幅しかねないこと、またエリート養成につながり、公教育の本来の役割から逸脱する。</p>	<p>○少人数の生徒とネイティブスピーカーが英語で話す時間をもつ「スーパーイングリッシュプログラム」等はコミュニケーション能力の向上に有効であると考えています。英語教育については、素案の施策1重点取組4に盛り込んでおりますが、関連するご意見として、参考にさせていただきます。</p>
施策1	<p>○「小・中学校における「実用英語技能検定」等の外部指標の活用」とあるが、小学校の英語は人と会話する為の気持ちを育てるものを大切にすることが第一に据えたいと思いますので、検定までは必要ないと思います。それから、日本の文化を英語で説明できるようにするのが大切ではないでしょうか。</p>	<p>○外部指標の活用については、ご意見として参考とさせていただきます。 また、素案にもありますように、横浜では英語で横浜の街を案内できるようにすることを目標として取り組んでいます。</p>
施策1	<p>○今年度から、中学校や高校での実用英語技能検定実施とあるが、具体的にどのように授業に取り入れていくのか明確なものがわからない。どのように授業をしていくのか保護者に説明をお願いしたい。（塾や英会話教室との違いなど）</p>	<p>○「実用英語技能検定」等の外部指標については、特に「聞く・話す」など、通常の授業の成果としての能力を客観的に把握するとともに、学習内容を検証・改善していくことを目的として導入するものです。今後、実施を進める中で、いただいたご意見につきましても、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○「実用英語技能検定」を実施するために通常の授業をつぶして行うことには反対。学校は学習指導要領で求められている授業時数を確保するために様々な工夫と努力をしているが、それも限界に近い。検定試験は希望者が学校外の一般会場で受験することとし、その受験料をチケット発行などの方法で市が負担するというやり方が現実的ではないか。</p>	<p>○通常の授業の成果を確認するものとして検定を考えています。ご意見として参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○コミュニケーション能力の育成として、小中学校での「実用英語技能検定」を活用し、中学卒業時に英検3級を4割以上の生徒に取らせるという達成目標は行き過ぎです。これは当然中学校英語科の教育内容に大きく影響することですが、英語科教員の合意など取っていません。実施するとしたら少なくとも英語科教員の意見を聞き、丁寧に進めるべき事だと思います。子どもにも教員にも大きく負担をかける内容を押しつけるのは止めるべきです。</p>	<p>○実施に当たっては学校の理解を得ながら進めていきたいと思っております。ご意見として参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策1	<p>○英検等の外部指標の活用は、検定をどう活かすかが問題になると思う。学力テストと同じように数値だけが一人歩きしないような導入が必要。</p>	<p>○実施に当たってはいただいたご意見も踏まえて進めてまいります。</p>
施策1	<p>○児童生徒については、グローバル化時代の学力として、問題解決学習のみならず批判的思考や長中期的思考などの重視策が、また問題解決学習については、近隣のアジア諸国との先行的関係改善のためにも、高校生同士が国境を越えるグローバルな課題を共同で解決するプロジェクトの推進が有効であり、かつ他の自治体のモデルにもなる。</p>	<p>○国際社会で能力を発揮するためには、問題解決能力や新たなことにチャレンジする姿勢のほか、国境を越えて人々と協働・共生するためのコミュニケーション能力を身に付けることが大切だと考えています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○進展するグローバル化に対応するためと言っているが、小中学生にとってのグローバル化とは何でしょうか。抽象的で一般受けするような言葉ではなく子ども達の実態に根差した教育を考えることが本筋です。子ども達には、先ず学ぶこと、表現すること、相手と通じ合うことの面白さを育てる必要があるはずです。</p> <p>アイデンティティーの確立のためには、自分自身を見つめたり他者と比較したりしながら自分を形成していくことが基本です。そのためには、子ども達に自己形成のための時間やゆとりが必要であり、英語教育を充実させることではありません。英語に偏重し自らの言語、母語をないがしろにする教育では、自らを表現することやコミュニケーション能力は向上しません。</p> <p>小中学校における「実用英語技能検定」等の外部指標の活用で子どもたちや学校を駆り立てるようなことでは、子ども達の自主性も真のコミュニケーション能力も育ちません。母語をきちんと身に付けられるような方向にすべきです。日本には諸外国からの留学生や観光客がたくさん来ています。海外の大学に進学しなくてもグローバル化の一端が見えるはずですし、コミュニケーションの場や機会も本人次第で十分獲得できます。グローバル化に対応するための海外大学進学はもはやそれほど意義があるとは思えません。</p>	<p>○グローバル人材の育成に当たっては、英語だけでなく、横浜の歴史や日本の伝統・文化への理解、文化や価値観が異なる相手との理解・協力する姿勢も必要であるため、ご意見も参考にしながら、取組を推進してまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策1	<p>○松本紘・京都大学総長はグローバル人材について「英語が話せて、ビジネスですぐ世界に飛び出せる人のことではない。日本人の価値と自分の思想。次に異文化を理解し、吸収できる力。そして、相手を理解し、自分の思いを伝えるための言葉。この『異』『自』『言』の三つがグローバル人材の条件。」と云っている。</p> <p>それには幼い時からの様々な体験が必須で資源の少ない日本には人材育成や独自性が重要である。そこで寺子屋方式や豊かな日本の伝統文化の継承と発展を提案したい。寺子屋の「読み」「書き」「ソロバン」で言葉による文化力。書による集中力、ソロバンで能力開発をしてきた先人の智慧を再認識して欲しい。江戸時代の退職した高齢者達がしたように、定年退職者達が幼児達を空き教室や店舗等で教育することを提案したい。読書カードでポイント溜めて読書名人表彰、朝の自習時間に教室の全員が日替わりで感想を発表、国語の成績加算等。畳の部屋で墨を摺り書いて上手いへた関係なく個性を重視してみんなの作品展を開き、みんなで作品について褒め合う会等。定期的なソロバン授業、ソロバン名人表彰、算数の成績加算等。それからラジオを聴いて想像力（創造力）を鍛える施策もお願いしたい。ラジオ拝聴に日誌や教室での発表、大会もあればやる気が増すと思う。努力が実を結び良いことがあることを実感させる施策を御願ひしたい。スマホやゲーム機依存ではネット時代の今、豊かで独特でクールな日本の伝統文化が急激に消えかけている。世界がマネ出来ない日本人の遺伝子を生かして独自の文化や技術を再認識し発展させることはグローバルの時代だからこそ元気で明るく豊かな日本の未来を創造できると思う。</p>	<p>○グローバル人材の育成に当たっては、英語だけでなく、横浜の歴史や日本の伝統・文化への理解、文化や価値観が異なる相手との理解・協力する姿勢も必要であるため、ご意見も参考にしながら、取組を推進してまいります。</p>
施策1	<p>○子どもは遊び感覚が必要な昔からの遊びを通して、頭、体、心を全て使って楽しく遊んで学力、体力、精神力、コミュニケーション力等を鍛えることができると思う。その遊び道具が日本製なら経済効果があると思う。東京5輪のお土産にも使え日本文化の紹介にもなるはず。5輪土産が外国製では外国人に申し訳ないし購買力が削がれるから。</p>	<p>○豊かな体験を通じた学習の推進は、素案の施策1重点取組2に盛り込ませていただいています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策1	<p>○横浜市民として横浜の歴史を学習することは大切だと思いますが、横浜は広く、港近辺の歴史だけでは違和感があります。学校のある地域の歴史も学習する必要があると思います。横浜は親の世代も新住民が多く、また教師も地域の歴史を知りません。地域と一緒に教材の研究を進めることが必要です。</p>	<p>○素案の施策1重点取組4において、「横浜の歴史や日本の伝統・文化に関する理解を深める」としており、市内地域の歴史や伝統・文化も含まれておりますが、いただいたご意見も踏まえて取組を進めてまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策1	○「横浜を愛し」は偏狭なので反対。「横浜の歴史や伝統・文化を尊重し」を「横浜の歴史や伝統・文化を学び」に変更。	○素案の施策1重点取組4において、「横浜の歴史や日本の伝統・文化に関する理解を深める」とさせていただいています。
施策1	○「先進的な」を削除 主な事業の部分も、外部指標を公立学校に持ち込むことになり、それに学校教育が歪められる恐れがあるので反対。	○ご意見として参考にさせていただきます。
施策1	○生徒に機器を使わせるには教える側がICTを使いこなせなければならず先生方への負担増が懸念される。機器の使い方だけでなく、そのような機器がどのようにして動いているかなども教えられると技術への関心が得られて良いと思います。	○ご意見として参考にさせていただきます。
施策1	○マナー向上は学校で行えることなのか？結局保護者が持たせている、管理できないものを学校が対応せざるを得ない現状がある。背景にはネット上、携帯電話、スマートフォンを使ったいじめ、嫌がらせ、裏社会との接点などの問題があり、これらに対応するのに学校教育では限界がある。サイバーポリスとの協力などにより、教員レベル、学校レベルを超えた対応が必要。	○ネット利用等に関するマナーについてのご意見として、今後の参考にさせていただきます。
施策1	○公立学校でのLINEの取扱いについて。運動会等のクラスの打ち合わせがLINE上で行われ、スマートフォンを持っていない子どもは、結果はメールで知らされるが、ミーティングに加われない。不公平である。LINE使用は生徒間では自由である。しかし、学校行事・部活動は教育に伴う活動である以上、意見交換はHRで行われるべきである。	○ネットやスマートフォンの利用についてのご意見として、今後の参考にさせていただきます。
施策1	○小学生のネット上での書き込みについて。近年中学生のみならず、小学生と思われる書き込みが散見されるようになった。小学生がスマートフォンを持ち、容易にネット空間を泳ぎ回っている証拠である。ネット上に書き込みをすることの危険性について、保護者に通知、さもなくば15歳以下の義務教育年齢に対して、立法によりスマートフォン所持を禁止すべきである。この程度の法律も通せないようでは、いくら立派な基本計画を作ったところで、絵に描いたモチ。私企業の利益のために将来の社会を支える人材をスポイルすることは許されない。	○保護者への啓発は、横浜「ケータイ・ネット」五か条、スマートフォン、ケータイに関するリーフレットの配布などを行っていますが、いただいたご意見も参考に、今後も充実に努めてまいります。

項目	いただいたご意見 (概要)	考え方・対応
施策1	<p>○スマートフォンや携帯電話等の機器に対して、大人が理解不足であることもトラブルの一つです。大人が理解するために、地域や家庭に対しての教育を充実させることも大切です。</p>	<p>○保護者への啓発は、横浜「ケータイ・ネット」五か条、スマートフォン、ケータイに関するリーフレットの配布などを行っていますが、いただいたご意見も参考に、今後も充実に努めてまいります。</p>
施策1	<p>○「先進的なICT教育の推進」についてですが、タブレット端末、無線LANなどの学習環境の整備とあります。500校以上ある横浜市立学校の現状をかんがみますと、いま話題のタブレット端末の整備よりも前に、重点的に行うべきことはあるのではないのでしょうか。それは、普通教室にプロジェクター等の拡大提示装置、実物投影機又はパソコンの「常設」です。まずは、教員がICTを普段使いできる環境を整え、一部ではなく多くの教員のICT活用指導力の向上を、促進すべきではないかと思えます。優先順位を間違えないようお願いできればと存じます。</p>	<p>○ICT教育の推進については、素案の施策1重点取組5に盛り込んでおりますが、ご提案の趣旨は、具体的な事業や取組を行うにあたっての参考とさせていただきます。</p>
施策2	<p>○「『横浜市子ども学力向上プログラム』に基づく」、の部分「各学校の編成した教育課程に基づく」に変更する。理由は、横浜市は農業・商業・漁業・工業・居住地域とさまざまな特色ある地域で構成されている。「地域に根ざす、地域と共にあゆむ」をうたっている今までの市の教育政策を考えると、一律に「横浜市子ども学力向上プログラム」に基づくではおかしい。</p>	<p>○各学校で編成した教育課程の内容を具現化するために、「横浜市子ども学力向上プログラム」に基づき授業を行っています。ご意見として参考にさせていただきます。</p>
施策2	<p>○『アウトプットする力』というものは、非常に大切な力です。しかしながら、現状の授業でこの力を教えること、訓練することは、ほぼありません。日本の教育において非常に大きな欠点の一つです。この『アウトプットする力』は社会に出て、世界に出て、自分の意見を相手に伝える。つまり相手と議論を交わすのにならなければならない力です。ですが、日本人はこの力に欠けています。なぜなら学校で教わらない、訓練しないからです。この力を訓練するには、ディベートやプレゼンテーションを数多くこなすのが良いでしょう。例えば、授業で単元の終わりに単元のまとめをプレゼンテーション形式で発表する。また、各学期に1回以上のディベートの時間を取るといったことで『アウトプットの力』を身につけ鍛えることができるでしょう。</p>	<p>○施策2の重点取組2では、学習したことを活用していく力や、自ら考える力、表現する力を育むことを推進しています。ご意見を踏まえながら今後も取組を続けてまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策2	<p>○是非、中学教育をもっと真剣に取り組んで頂きたいです!!!</p> <p>只今、小学校に子どもを通わせていますが、教育熱心な先生方のおかげで、子どもは元気にのびのびと楽しく通わせて頂いています。勉強だけでなく、社会性も身に付き、お友達との協調性も含めバランスよく色々なことを学ばせていただいていることに心より感謝しております。小学校から中学校、高校へと大切なステップを踏んでいく中で、中学は大人への階段を上る大きな第一歩となるはず。そこで、何をやるかで将来の夢にもつながるはず。一部の中学では、子どもと先生との間に敬語すらなく、まるで友達のような間柄とか…確かに先生と生徒が親しくすることは大切なことですが、先生に対してきちんとした言葉づかい、態度が示されないと、将来社会に出ていった時に一番困るのは子どもたちです。先生には毅然とした態度を取ってもらい、社会のルールを身に付けさせる上でも、先生への挨拶、言葉づかいは最低限のこととして、マナーの良い中学生を育ててほしいと思います。ある中学では、運動会のかけっこで、先生と手をつないでニコニコしながらゴールすると言ったシーンも…どうしたものでしょうか…幼稚園、小学校と、勝ち負けから得る大切なものを築いてきた子どもたちが、中学になってこんな状況に置かれると、何が大切かを見失う可能性があります。こうした状況を不安に思い、私立の中学を希望せざるを得ない判断を迫られる保護者も少なくありません。ここ横浜市から、多くの若者たちが、胸を張って輝く瞳で、社会へ、世界へはばたけるような中学校教育をお願いしたいと思います。</p>	<p>○施策2で小学校と同様、中学校の学力向上、施策8で教師力の向上を目指しております。具体的な取組として参考にさせていただき、横浜の教育の充実に努めてまいります。</p>
施策2	<p>○「今後は、基礎問題で更に全国平均を上回るよう、基礎・基本の習得に力を入れる必要があります」との評価がよくわからない。生徒自身が決め、意欲をもって自ら学習に向かっていくよう、興味や意欲を伸ばす工夫を考えて欲しい。</p>	<p>○基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、自ら問題を発見・解決し、表現する力を育成することができるよう、授業力の向上に取り組んでまいります。</p>
施策2	<p>○学校の授業だけでは十分に理解しきれず、塾に通わせています。ゆとり教育の修正を図るのであれば、隔週土曜を登校に充てるなりして頂かないと、学校の学習時間十家や塾での学習という事が当たり前になり、増々運動不足や友人とのコミュニケーション不足につながると思います。又、受験をするなら塾に行かなければならない現状もおかしいと思っています。学校内での基礎・知識の教育の向上を強く希望します。</p>	<p>○基礎的・基本的な知識・技能の習得については、学校での取組はもちろんのこと、家庭とも連携しながら取組を進めてまいります。</p>

項目	いただいたご意見 (概要)	考え方・対応
施策2	<p>○授業に関しては少人数 (15~20 人) が今の生徒及び先生の質を見て子の人数が限度だと考えています。</p>	<p>○少人数指導については、児童生徒一人ひとりの学習状況を踏まえ、学校の状況に応じて取り組んでまいります。</p>
施策2	<p>○学校での勉強の量、とりわけ課される宿題の量の少なさに日頃より驚いています。特に、反復学習の必要な計算や漢字の習得について、学校での学習では絶対量が不足しているように感じます。他県より越してきた方々も異口同音に宿題の少なさを指摘しておられます。</p> <p>確かに神奈川県の子どもの学力は全国平均を上回っているかもしれませんが、これは各家庭が家庭学習や通塾を熱心に行っているためなのではないかという疑問をもちます。公立の小中学校教育はあまねく全ての児童に一定レベルの教育を授けることが第一義としてあると考えます。この理念があまりにも形骸化していないか、現行の学習のあり方について現場の先生方と指導する立場にある教育委員会の方々に再度一考いただければ幸いに存じます。</p> <p>施策そのものは大変すばらしいものです。学校が主体となって児童・生徒に確かな学力の習得を促すことのできるような、個別の方策が立案実行されることを期待します。</p>	<p>○基礎的・基本的な知識・技能の習得や学習習慣の定着に向けた取組については、各学校の児童生徒の状況や家庭の状況に合わせて、取組を進めてまいります。</p>
施策2	<p>○学力の向上に対してですが、学校間で宿題の量にかなりの差があるように思います。今の学校では低学年から今に至るまで宿題はほとんど出さず学力の向上に真剣に力を入れているとは考えにくい状況です。これでは学習習慣の定着は困難と考えます。問題もあるかもしれませんが、やはり学力・学習状況調査の結果は公表し、学力の結果が悪い学校はそれを真摯に受け止め、改善策を保護者に説明する義務があると考えます。今の小学校においては「勉強したい人は塾に行ってください」と言われてしまう状況からみても、真摯に学力向上に取り組んでいるとは思えません。教師自らが学校は勉強を学ぶところである、という意識が低いように思います。これでは塾に通う余裕のある家庭の子どもとそうでない子どもの格差が広がるのは当然です。学校は学力の向上という目的にもう少し重点を置くべきではないでしょうか。</p>	<p>○基礎的・基本的な知識・技能の習得や学習習慣の定着に向けた取組については、各学校の児童生徒の状況や家庭の状況に合わせて、取組を進めてまいります。</p> <p>また、考える力を育むための授業力向上のための取組については、学校と教育委員会がともに充実を図ってまいります。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策2	<p>○子どもの小学校には4月から司書の先生が配置になり、大変活躍して下さっています。子ども達には、本とのかけはしのため、いなくてはならない存在だと思いますので、本当にありがたいです。私が参加している図書ボランティア活動にも、ご助言頂き助かっております。</p> <p>ですが、学校によっては、「司書の先生が来られたら図書ボランティアは必要ない」とお考えの先生(校長先生も含めて)がいらっしゃるという話を聞くことがあり、大変残念です。</p> <p>司書の先生一人では、手が回らない部分を、保護者のボランティアがお手伝いをする形が本来かと思えます。ボランティアの活動は、保護者同士の交流の場であることも多く、先生方にはボランティアの役割をしっかりと確認して頂いて、司書の配置の際にボランティアがなくなるということがないように対応して頂きたいです。</p> <p>新しく赴任された司書の先生とボランティアとの間で、お仕事の分担がうまくいかないような場合は、こども読書コーディネーターさんに間に入って頂き、調整をお願いするのはどうでしょうか。</p>	<p>○日頃から図書ボランティアとしてご協力いただき、ありがとうございます。本市では、学校司書の配置を進め、司書教諭・学校司書・図書ボランティアの方が一体となって児童生徒の読書活動の充実に取り組んでいるところです。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。</p>
施策2	<p>○学校図書館の活性化を更に推進すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校司書の処遇改善、専門化</li> <li>・蔵書の充実化(リユース、寄附)</li> <li>・公立図書館の支援強化</li> <li>・授業との連携</li> </ul>	<p>○ご意見も参考にさせていただきながら、学校図書館の充実に努めてまいります。</p>
施策2	<p>○教師によって授業の質がばらつく。また塾で忙しい生徒がいるからなどと宿題もあまり出さない教師がいたり、学習プリント類や作文なども添削が年度を越える教師もいた。その都度自宅に持ち帰らなければ家庭学習にも活かせない。クラスによって偏りが多くならないように学年や学校である程度統一するなど基準は作ってほしい。教師の個性や力量はプラスαで期待したい。</p>	<p>○学力向上の取組については、各学校の児童生徒の状況や家庭の状況に合わせて行っていますが、ご意見も参考にしながら進めてまいります。</p>
施策2	<p>○授業時数確保の観点から、中学3年生の「横浜市学力・学習状況調査」の国語、数学、理科は「全国学力・学習状況調査」が行われているので実施しなくてもよいのではないかと感じる。同じような調査を全国都市でダブルで実施していることは税金の無駄遣いであると感じる。ちなみに結果のフィードバックは全国のものの方がクオリティが高く活用しやすいものになっている。</p>	<p>○「横浜市学力・学習状況調査」は市立小中学校全児童生徒を対象に行っており、「全国学力・学習状況調査」にはない教科も実施しています。今後も各学校の児童生徒の学習状況について分析的・総合的に把握し、学力向上のための学習改善等に生かすよう努めてまいります。</p>



項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策2	<p>○「横浜市学力・学習状況調査」がそれほど学力向上に役立つものとは思えない。1つの傾向として参考にするのがせいぜいであり、現場が一番目の前の子どもの学力の実態を把握しているわけであるから、外から持ち込んだたった一回の調査に基づくということは現実的ではない。</p>	<p>○「横浜市学力・学習状況調査」や「全国学力・学習状況調査」の特色を活かした活用をしながら、今後も各学校が客観的なデータを活用した学力向上に努めてまいります。</p>
施策2	<p>○横浜市の中学においては、中間テスト・期末テストの結果についてクラス順位、学年順位を明確にし、公表は不要ですが本人と保護者には知らせてほしいと思います。順位がつけば、明確な目標となり勉学を頑張る励みになると思います。</p>	<p>○中学校における評価のあり方については、素案の施策2などを踏まえて適切に進めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策2	<p>○「中学校における公立高校進学への進路指導の充実」学校の個人面談に行っても何一つ高校受験に関するアドバイスが聞かれませんでした。校内での順位も平均点も偏差値も公表せず、どうやって分析、評価、指導するつもりなのでしょうか。最後は「塾での成績はどうですか？」と、こちらが逆に聞かれるのみでした。それは、皆さんどの保護者に聞いても同じ事でした。中学校の先生が、神奈川県の高校入試変革についていっていないのではないのでしょうか？</p>	<p>○中学校における評価のあり方については、素案の施策2などを踏まえて適切に進めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策2	<p>○内申点の全校均衡化と評価の方法改善、定期テストの内容見直し点数だけで評価されない、観点別評価にも疑問を持ちます。周辺の大手塾では過去問が出回り、定期テスト対策を万全に打っており、悪循環です。保護者は先生受けが良いようにと子どもを指導し、先生受けの良い子が良い内申をもらっているようです。</p>	<p>○中学校における評価のあり方については、素案の施策2などを踏まえて適切に進めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策2	<p>○公立中学校での進路指導の在り方。（塾任せで、塾に通っていないと実力が把握できない。学年での位置も教えてくれない。）  ○内申点の全校均衡化。（学校によって、先生によって差がありすぎる。）  ○観点別評価の見直し（ノートがきれいでないとダメ。声が小さい、などの細かい部分で評価対象として適切ではないものの廃止（禁止）すべき項目の確認。）  もう少し、現場の声をひろってほしいです。  一部の市立中学校だけ力を入れて、それもいいですが、もっと全体をあげていくべきではないでしょうか。</p>	<p>○中学校における評価のあり方については、素案の施策2などを踏まえて適切に進めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策2	<p>○各中学校間における内申点の付け方に差があります。高校受験の際は、とりわけ内申点が重要となるため、不平等を感じています。実際、内申点が取りにくい中学校の生徒は、内申が重要視される高校をあきらめるか、実力よりも低い高校を選ばざるを得ない状況です。また、内申点が取りにくい中学校に進学するのに不安をもち、私立中学受験を選択せざるを得ない場合もあるようです。「学力・学習状況調査」を活かして、横浜市どの学校にいても同じ内申点になるような仕組みや先生方の意識を作っていただきたいと思います。</p>	<p>○中学校における評価のあり方については、素案の施策2などを踏まえて適切に進めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策2	<p>○「学力調査」学校別データを保護者、地域に公開すべき。学校間の格差が明らかになっても、教員のせいだけではない。地域の特性も含めたデータを学校、家庭、地域が共有することによって、必要な対策が見えてくる。データを公開しないから学習塾に頼らざるを得ないという人が多い。</p>	<p>○素案の施策2重点取組3に盛り込ませていただいているように、保護者や地域の理解と協力による学力の向上を目指しております。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策2	<p>○保護者や地域の理解と協力による学力向上の取組は必要だと考えるが、具体的なイメージがわからない。</p>	<p>○「横浜市学力・学習状況調査」の結果による分析チャートに基づき、各学校が「学力向上アクションプラン」を作成しています。このプランを実現するためには、学校・家庭・地域の連携・協力が不可欠です。例えば、家庭での学習習慣の確立にご協力いただくほか、学校での学習活動に保護者の方の支援や参加をいただくことにより、学力向上に取り組んでまいりたいと考えています。</p>
施策3	<p>○豊かな経験をさせてあげたいですね。そして感動できる心を持つことは大切です。しかし、「礼儀や規律を重んじ」が次にくる言葉としてはふさわしくありません。自分も他人も大切な存在だと気づき人格というより人権を生命を尊重し人間関係を育てていく力を身に付けさせたいと思います。豊かな心をどうとらえるのか。子どもの権利条約の子どもの人権のとらえ方で育成をしてください。心は100人100様、多様性を認め合える人間を目指したいものです。他者が「心」を規定してはいけません。</p>	<p>○人権尊重や自他の生命を尊重する心は、とても大切なことと認識しております。また、社会で生きていく上で、礼儀や規律も大切な部分と考えております。周りからの押し付けでなく、体験等を通し、実感を持ってその大切さに気付くよう、いただいたご意見を参考にしながら取り組んでまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策3	<p>○国の「道徳教育教科化」に無批判に追随して、一定の徳目を子ども心に教え込むのはかなり危険です。教職員のさまざまな試行錯誤を許容し、子どもたちと共に考えていく教育にしていくべきだと思います。コラム「世界に認められる日本人の良さ」は、あくまでモースの感想に過ぎません。同時代の日本人が朝鮮で行ったさまざまな残虐な行為もまた事実です。このような一面だけを強調する教育は、かえって子どもたちの思考をゆがめます。また「道徳教育年間計画」で各教科との関連づけをさせていますが、算数・数学の目標と道徳の徳目を関連づけるような「無理なこじつけ」は全校での改訂に合わせてなくすようにしてください。</p>	<p>○道徳の指導については、国の動向も踏まえ、素案の施策3重点取組1により取り組んでまいります。</p> <p>道徳教育は「道徳の時間」を要として教科学習や学級活動等、学校の教育活動全体を通して進めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策3	<p>○文科省は来年4月から「道徳」を教科化して評価することとしていますが、これは政権の考え方を子どもたちに押し付ける危険があると思います。市の重点取組に「集団活動の充実」がありますが、そのために個人より集団の「決まり」が尊重されて厳罰主義となり、子どもの伸び伸びとした発達が阻害されることを恐れます。いじめをなくすことも、「道徳」の授業よりも日頃の生活から自然に体得していくように図るべきです。</p>	<p>○素案の施策3重点取組1、2にありますように、道徳教育は「道徳の時間」を要として教科学習や学級活動等、学校の教育活動全体を通して進めてまいります。「道徳の時間」等で身に付けた道徳性を実践する場として、学校での特別活動や地域での体験活動を活用してまいります。</p>
施策3	<p>○3つの基本の徳ということで、道徳の指導ということになるのですが、そもそも道徳を「指導する」ということに、違和感や恐怖を感じます。子どもを二重人格にするのではないかと懸念しています。</p> <p>学校は子どもが主人公のはずです。</p> <p>教育委員会、文部科学省は、子どもにとって大切なことは何かを考えることを仕事としているのではなく子どもを利用していると感じています。</p>	<p>○道徳の指導については、国の動向も踏まえ、素案の施策3重点取組1により取り組んでまいります。いただいたご意見につきましては、参考にさせていただきます。</p>
施策3	<p>○道徳の指導について、「道徳の時間」にどのような指導をするかは、国の政策を受けて具体化するのではなく、憲法が定める基本的人権や市民道徳的な内容を盛り込み、同時に各学校が創意・工夫した内容で指導することを認めること。</p>	<p>○道徳の指導については、国の動向も踏まえ、素案の施策3重点取組1により取り組んでまいります。いただいたご意見につきましては、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策3	<p>○「道徳」について、単科でなく、他分野と連動した時間での“響育”（ひびきあう育ち）を期待します。教師と生徒（児童）と共に、教材作りや発表など、こどもの主体性発揮を盛り込んでほしいです。授業や体験学習での“失敗”が認められ許され、安心して発言や挑戦ができる中での学びあいを期待します。大人が道をつけてこどもにたどらせるのではなく、子どもたち自身がそれぞれの感覚でつかむ“共育”（共に育つ）を期待します。（学習イメージ）</p> <p>・様々な国の文化や習慣を感じながら / 社会科、歴史、英語、家庭科、地理、公民、国語・世界の芸術文化や土地伝来文化に触れながら / 英語、校外学習、美術館映画音楽鑑賞、地域調べ、地理、公民、古文・いのちを感じながら / 闘病後復帰された方や赤ちゃんとふれあい、宇宙感じる観測、宇宙飛行士講演会・地域とのつながりながら / 祭り参加、地域の安全や安心のための提案、学習の発表、障がい児との共育共同・社会事例からアイデア出し合って / 新聞学習、大学や研究機関とジョイント異年齢学習、統計、ネット犯罪防止学習、貧困や差別改善策コンペ、被災地復興計画アイデア、世界の異常気象と自分の生活等検証・資格取得学習の中で / 気象予報士の学習、自分の生活を振り返る学び、見学・観察など</p>	<p>○素案の施策3重点取組1、2にあるように、道徳教育は「道徳の時間」を要として教科学習や学級活動、学校行事等の特別活動等、学校の教育活動全体を通して進めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
施策3	<p>○人権教育の基本は、教育環境の中で人権が尊重されているかどうかに関わってきます。校長先生が先生方の人権を尊重し、先生方同士も人権を尊重し合う。生徒の人権をきちんと尊重できれば、子どもは自然に人権の大切さを学びます。また、家庭の中でも、父親と母親がお互いの人権を尊重し合い、子どもの人権も大切にすることが人権教育になっていきますので、わざわざ「人権教育全体計画」で形を作るのではなく、もちろん評価などせず、大人が自分自身を振り返り、自分と考えの違う人、障害のある人、国籍の違う人、老人、子どもに対して本当に人権を尊重できているか考えてほしいと思います。</p>	<p>○子どもの人権を尊重した学校づくりについては、素案の施策3重点取組2で盛り込まれています。いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
施策3	<p>○「子どもの権利条約」の視点で計画をしてください。よろしく願いいたします。</p>	<p>○ご意見として参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策3	<p>○いわゆる「学級崩壊」対策について⇒個別指導へのマニュアル化が必要と考えます。まじめに勉強している生徒の妨げになる生徒を、個別指導するためのマニュアルを作成してほしい。先生の負担を軽減するために、保護者も参加するように配慮してほしい。個別指導に移行するための段階を、誰もが分り易く、納得できるマニュアル的なものがあれば、先生・保護者の対応が早くなると確信します。現在、私の子どもが通っている中学校では、一部の男子生徒の間で授業を妨害しているようです。注意している先生も、保護者もどうにも出来ないようです。その生徒に問題があるのであれば、早急に個別指導できる体制を取らないと、どんどん授業は遅れ、他の生徒にも悪影響を及ぼします。</p>	<p>○子ども自身が「自分づくり」「仲間づくり」「集団づくり」をしていくことができる学級・学校づくりについて、素案の施策3重点取組3で盛り込ませていただいています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策3	<p>○小学校の高学年（4～6年生）で同じ取組をすることによって、中学へ行って先輩後輩のいじめやいざこざも少なくなるのではと考えています。（クラブ活動ではなく、高学年全体で毎日一緒に活動できること、例えば朝活動で長縄とびをするとか、ボランティア活動をするとか。）</p>	<p>○いじめ根絶については、素案の施策3重点取組3に盛り込まれており、いただいたご意見につきましては、具体的ないじめ根絶に向けた取組を進める中で参考とさせていただきます。</p>
施策3	<p>○現在、小学生の我が子ですが、いじめを受けています。卑劣な行為は、やはり明確なルールを作り、学校の内いじめに対する強い意識を見せてほしいです。被害者は、学校を休み、傷ついています。その上学校に行けず学習も遅れてしまいます。それは、逆では、ありませんか！？加害者を一度学校を休ませ、家族で卑劣な事をしている事を考えさせるべきです。それでもわからないのであれば、加害者は、学校を変える事を学校側が進めるようにしなければ、絶対にいじめは、なくなりません！話して分かるようなら、いじめは、ありません！被害者を守るルールを作ってください！！</p>	<p>○いじめの根絶については、素案の施策3重点取組3に盛り込んでおります。いただいたご意見につきましては、具体的ないじめ根絶に向けた取組を進める中で、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
<p>施策3</p>	<p>○「人権共育」「いじめ」について  世界で批准されている「人権」「人間の尊厳」に関わる憲章や憲法の共有に期待します。日常的に紹介してほしい。</p> <p>「いじめ」根絶のためにはまず最初に、周囲の“大人の「いじめ」根絶。横浜は世界に誇れるグローバルシティ。横浜から世界をチェンジ「大人のいじめ（暴力暴言ハラメント戦い）根絶」宣言してほしい！教えるのではなく、強制するのではなく、大人から変わる！「いじめ」はすでに言葉が記号化?!してしまっているような、本質がみえにくく、わかりにくいです。「いじめ」の言葉ひとつで、情報開示が遅れないよう希望します。何気ない日頃の陰口、噂も、つながっていることを、親世代祖父母世代にも伝えてほしい。「いじめ」は言動の世代間連鎖、負のスパイラル。心にたまったものが吐き出される、心の傷の表現でもある。いじめた側の心（内面）の声を、かならず聞いてほしい、受けとめず罰するとさらに心の傷が悪化する。</p> <p>親の心の声も聞いてほしい。子は親の、その親はその前世代の親の影響を受けている、戦争など悲惨な経験も裏側あることもある。現保護者や先生が受けてきた、暴力的しつけ、厳罰的生活は、連鎖する。現保護者と先生を罰するだけでなく、その前世代にも警鐘をならしてほしい。先生の精神衛生、心の安定もサポートしてほしい。先生のハードなお仕事の見直し、希望します。被災後の子どもたちのケアを、お願いします。被災の大小でなく、その子ありのままに寄り添ってほしい。</p> <p>（学習イメージ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の子どもたち（学校）でつながり、メール交換やビデオ交流で、一緒に「人権」を考え合う</li> <li>・海外の子のホームステイ（親子ごと）などから、それぞれの国で生活で感じる「差別や貧困、その改善策」を交流する</li> <li>・「いのちの電話」「プレーパーク」に携わる大人や若い方と交流学習をする</li> <li>・学校内での宿泊などの機会に、いじめや人権を、劇やコントで役柄から感じ話し合う</li> <li>・異年齢異学年交流の機会を、上記様々な学習分野で増やす</li> </ul>	<p>○いじめの根絶については、素案の施策3重点取組3に盛り込んでおります。いただいたご意見につきましては、具体的ないじめ根絶に向けた取組を進める中で、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策3	<p>○項目は多岐にわたっているのですが、一つ、できれば加えていただきたい「教育」があります。【平和教育】です。海外に開かれた都市であり、外国籍の子どもたちが非常に多い横浜市は、人権教育と同じように【平和教育】、即ち、平和について学ぶことにもとても適した都市です。差別は戦争の原因にもなり得ます。あらゆる国籍の横浜の子どもたちが、平和を希求し多文化共生を当たり前のこととして育つよう願ってのお願いです。横浜市の教育の大きな特性としてぜひこの内容を《施策3》のどこかに入れてくださるようお願いいたします。</p>	<p>○平和教育という表現はしていませんが、素案の施策1重点取組2の「横浜の時間」等を活用して平和や多文化共生をテーマに学習に取り組んでいる学校もあります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策4	<p>○施策の方針の「『横浜市子どもの体力向上プログラム』に基づいた」を、「『横浜市子どもの体力向上プログラム』を参考」に変更。各学校・各地域の創造性を重視すべきである。それ以外は賛成。</p>	<p>○「横浜市子どもの体力向上プログラム」には、学校の実状に合わせた「体育・健康プラン」や「体力向上1校1実践運動」などが盛り込まれ、各学校や地域の創造性を生かせるものとなっております。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策4	<p>○現実的な課題として、子どもが運動できる場所がない。学校もなかなか一般開放をしてくれない。</p>	<p>○ご意見として参考にさせていただきます。</p>
施策4	<p>○運動に親しむ子どもは「体力向上プログラム」で育まれるわけではありません。小さい時から運動する環境が整っていたり、特に母親が運動好きの子どもは自然に運動します。そういう子どもたちを更に体力アップさせたり、運動しない子どもたちに少しでも運動させるためのものだとして理解しています。よって、子どもたちが自然に運動できる環境づくりや将来母親になる女子のスポーツ環境づくりが大切です。</p>	<p>○子どもが運動に親しむ環境づくりについては、素案の施策4重点取組1家庭や地域との連携等に生活習慣や運動習慣の大切さとして盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策4	<p>○本当に今の子は運動不足だと思います。毎朝ラジオ体操を横浜市で義務付けるとか、スポーツテストを年に数回取り入れるとか、運動不足については本当に学校・市で全体でやることを多く取り入れ実行していただきたいです。</p>	<p>○子どもの体力向上については、学校での取組や家庭・地域との連携についても素案の施策4重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策4	<p>○現在小学生を公立に通わせております。運動系の部活ゼロ、理由は先生がいない、長期休暇の宿題は一日で終わるドリルが一冊。クラスの担任によりだいぶ違うとも聞いています。つまり、現在、各家庭の方針次第でかなりの格差が出てしまう現状ではないかと心配しています。学業だけならまだしも、現在の、都会の子どもたちは親なしで気軽に公園ではあそべない治安です。であるならば、もう少し学校での体力向上に向けた施策が必要ではないかと思えます。有名なプロ選手を招いたイベントではなく、日常的な取組をどうぞご検討ください。</p>	<p>○子どもの体力向上についての学校での取組や家庭・地域との連携については素案の施策4重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策4	<p>○各学校における取り組み例で、土曜日授業を奨励するような表現は良くないと思えます。また、幼稚園・保育所と連携した体力作りで、データの受け渡しなどは肯けますが、保育士等との連携となると、双方に大きな負担が生じます。大前提の「本務以外の仕事削除」「仕事量削減」からすればカットすべきです。</p>	<p>○体力の向上のためには、学校だけの取組でなく、家庭や地域との連携が不可欠だと考えています。そのためにも、幼保小連携やデータの共有は有効であると考えています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策4	<p>○中学校昼食の充実とありますが、もっと幼いうちの小学校給食から充実させてほしいです。私の周りには、食生活に気を付けている人はいなくて、加工食品やファーストフードを多用しています。子どものおやつは、チョコ、キャンディ、スナック菓子にアイスやジュースばかりで心配になります。将来の為に、塾やお稽古にせさせと通わせても、病気になる食習慣を身に付けた子どもが不健康では、元も子もないと思うのです。医療技術は高くなっても、病人は減少せず、政府の医療負担制度はパンク寸前と聞きます。毎日の食習慣や健康教育が誤っているのではないのでしょうか？</p> <p>食べ物の選択が正しければ、免疫機能が活発に働き、病院の薬にも頼らず、学習能力ももっと発達すると思います。給食が食生活のお手本となるように、もっと和食の献立にしていきたいです。</p> <p>牛乳を強制的に飲ませるべきだとも思いません。どうしても飲ませたい家庭の子どもだけでいいのではないのでしょうか。給食の献立が変わることで、沢山の方々が食生活を見直すきっかけになることを願っています。</p>	<p>○小学校給食で進める食育については、素案の施策4重点取組2に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>



項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策4	<p>○鬱病にかかる社会人、アレルギーや免疫、抵抗力が弱い大人の幼少期から成長期に一番必要なことは何でしょうか。口から入れる食事や体づくりは最も大切だと思います。勉強はいつからでもできますが、健全な肉体の形成は小学、中学が一番大事だと考えます。すべての子どもがすばらしい教育を受けられますよう、どうぞご検討ください。</p>	<p>○子どもたちの健全な体づくりについては、素案の施策4に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましても、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策4	<p>○教師が食育の基本的な知識がないケースが多いので、学んでほしいと思います。</p>	<p>○ご意見として参考にさせていただきます。</p>
施策4	<p>○日本の大切な未来を担う子ども達は基礎体力低下、考える力不足、伝統文化無知無関心、引きこもり、虐待と自殺死、障害者増加、貧困問題等々枚挙にいとまがない程多くの問題を抱えている。これは子ども達だけの問題ではなく日本人全体の問題でもあると思う。</p> <p>その解決策の一つとして、「食べ物で体が作られる」ことから、健康的な食(伝統的和食中心の食事)を提案したい。その成功例として健康年齢長寿の長野県の「授業改革」「給食の改善」「花づくり」で成人病予備軍、アトピー、アレルギーなし、少年非行犯罪10年連続ゼロ、不登校10年連続ゼロ、中学校は限りなくゼロに近い実例を参考にさせて頂ければうれしい。</p>	<p>○素案の施策4重点取組2にあるとおり、食育の推進により健康な体づくりに取り組んでまいります。いただいたご意見につきましては、こうした取り組みを進める中で、参考とさせていただきます。</p>
施策4	<p>○いじめの根絶や平等・協調を図るためにも、中学校でも学校給食を行うべきです！</p> <p>横浜市は小学校までしか給食がありません。同じ学校生活の中で同じものを食べ、給食の時間もグループで活動するのはコミュニケーションを取る上でもとても大事だと思います。中にはお弁当を作ってもらえない子、輪に入れない子も多くいると思います。休み時間だけではなく長い時間の取れる給食(昼食)の時間はとても重要だと考えています。中学も学校給食を取り入れる事を強く希望します。</p> <p>小学校では、給食時には毎日1席ずつ移動してクラス全員と対面・会話ができる移動グループの食事が出来れば、一人ひとりの良さや個性を見つけられ、クラスの絆が深まるのではないかと思います。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。</p> <p>年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策4	○中学校給食導入を切実に願っています。所得格差拡大などによりバランスの良い食事を取らせることは何よりも重要だと思います。県内でも横浜市だけが導入できていない遅れをどうするのか、早急な取組を望みます。	○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。
施策4	○中学校の給食。横浜が一番遅れている。保育所も大事ですが、全校の給食を是非始めてください。クラス力を作るためにも絶対必要です。	○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。
施策4	○「中学校昼食の充実」とありますが、具体的に「中学校給食の実施の徹底」と書いてください。成長期の大事な時期に毎日弁当ですと、どうしても栄養が偏ってしまい、健やかな体の育成になりません。女性も毎日遅くまで働いている方が多くなってきており、少しでも家事を軽減させてください。	○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。
施策4	○夫婦共働き世帯が多い時勢に対応して、中学校での給食制度を強く希望いたします。少子化対策というと、出産や幼児期にばかり目が行きがちですが、小学生期／中学生期についても対策の一環として検討が必要だと思います。	○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策4	<p>○今年中学二年生になる子どもを持つ母親です。中学に入学すると家から持参のお弁当か、注文制の業者弁当となりました。朝早く家を出るため、お弁当のおかずを作る時間を確保することができず、冷凍食品をローテーションで持たせております。また帰宅が遅いため夜ご飯も作る時間はなかなか持てず、お惣菜やお弁当を買って帰ることが多いため、育ち盛りの子どもの栄養バランスについては非常に心配な状態です。</p> <p>仕事を持つ母親としては、正直子どもの体調や栄養バランスを考える余裕はなく、お弁当を持たせることだけで精一杯です。また非常に画一的な献立になっているのが実情です。</p> <p>働く女性が増える中、横浜市の中学校に給食を導入していないことは、社会情勢にも逆行していると感じます。また子どもを持つ家族に住みにくい印象を与え、横浜市のイメージダウンにつながっていると思います。</p> <p>学校給食法でも、「義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるように努めなければならない。」と定められている、学校給食の早急なる実施を強く望みます。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。</p> <p>年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○なぜ横浜の中学生は温かい給食を食べる機会を与えられないのでしょうか。</p> <p>市議会は弁当持参にこだわっているようですが、根拠が不明で古い考えだとしか受け取れません。財政が苦しいのであれば、実施にあたり保護者に給食費として負担が求められる試算を提示し、そこで更に議論を深めるなど実際の声が市議に反映されるようにしていただきたいです。</p> <p>早急に中学校給食を実施し、他県同様に横浜の中学生たちが給食を楽しみに登校できるよう具体的な実施計画の提示をお願いいたします。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。</p> <p>年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○小学校での学校給食の成果は言うまでもなく、ぜひとも中学校でも実施していただきたい。心身が大きく成長する中学期に、優れた栄養をとることは生徒の育成に大きく寄与するとともに、各家庭での栄養バランスのばらつきを是正することにもなると思う。働く母親の増加という社会背景から考えても、給食の実施は市の魅力として有益だと考えます。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。</p> <p>年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策4	<p>○東京都より横浜市に転入し、中学校において給食が実施されていないことを知り、驚きました。</p> <p>1. 女性の就業継続支援 女性が働きやすく活躍できるという観点より、就業しながら食べ盛りの子のお弁当を毎日作るというのはかなりの家事負担となり女性の就業継続の障害となる懸念があります。</p> <p>2. 子どもを社会全体で育む街の観点からも、給食であれば困難を抱える中学生も栄養面の心配はなく公費による補助も可能ですが、お弁当では個差が大きく、困難を抱える中学生は成長過程に栄養面で多大な懸念が生じます。</p> <p>他県でも中学校における完全給食は当然実施されていることであり、横浜市においても早急に実施されることを切に願います。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。</p> <p>年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○中学校昼食については、学校給食法第4条「義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるように努めなければならない」の趣旨をふまえた施策に修正すること。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。</p> <p>年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○中学校給食を実施してください。</p> <p>8割以上の自治体で中学校給食を実現しているのに、横浜市は遅れすぎている。中学校は義務教育であるし、身体の成長も著しい。栄養バランスの取れた食事が必要である。弁当では、冷めた固いご飯を食べなければならず、みそ汁などの汁物が取れない、などの欠点がある。目標1施策4の重点取組にも「中学校昼食の充実」と記載されているので大いに果たすべきである。既存の中学校に給食設備が配置できないのであれば、給食センターから運搬すればいい。給食センターを新設すべきである。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。</p> <p>年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○中学校での完全給食を実現してほしいです。お弁当でのいじめもあると聞きます。きちんとした食生活は健全な成長に欠かせないと思います。貧困格差社会の今、家庭環境に因らず（せめて給食でくらい）皆がきちんとした食事をとれるようにするべきだと思います。予算が足りないのであれば、新しい市庁舎建設よりも優先すべき問題だと思います。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。</p> <p>年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策4	<p>○中学校給食をなぜ進められないのでしょうか。文科省も義務だと言っていることに逆らって、横浜の「弁当教育が世界一」であるように叫んでいることは、教育者としてあるまじきことではないのでしょうか。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○「中学校での完全給食を望みます」 教育に関しては、各家庭により様々な意見がありますが、一貫して皆が口を揃えて言っているのが、「中学校での給食の実現」です。現在、横浜市では、弁当給食なるものを実現しようとしていると把握しています。しかしお弁当と給食では雲泥の差があります。お弁当では、食材や添加物の心配もあります。</p> <p>小学校では、目に見えるところで栄養士の先生や調理員さんたちが、あんなに丁寧に給食を提供してくれていて、食育にもきちんと取り組んでくださっているのに、中学生になったら、一気に食育なんて吹き飛んでしまうような状況になっていると思います。</p> <p>心も体も大きく成長する中学生時代の食育は大変重要と考えています。温かい物や冷たいものが食べられ、また、家では食べられないような食材や調理法の物も食べることができる給食は、子どもも大好きです。</p> <p>川崎市も中学校給食実現に動いています。それなのに、多くの子どもを抱える横浜市が、このような食育状況ではとてもやりきれない思いです。予算や調理室の問題などは、解決しようと思えば解決できる問題なのではないのでしょうか。</p> <p>本問題は周りの方々、みんなが口にしていない問題であることを、もう一度述べさせていただきます。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○小学校では各校で給食室で作った給食を提供していますが、中学校では、お弁当持参になる。是非、中学校でも給食を子どもたちに出していただきたいと思います。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○小学生の子を持つ者です。計画の中に「中学校昼食の充実」とありました。充実とは、具体的に何を指すのでしょうか。是非給食導入を検討して頂きたいと、ご意見致しました。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策4	<p>○達成すべき目標は、「格差をなくし、子ども一人ひとりにゆきとどいた教育を実現すること」、「35人以下学級を小学校3年生～中学校3年まで達成すること」、「中学校給食を年次計画でもよいから、完全実施すること。」</p> <p>今進めている中学校昼食は、喫食率が10%もいかないところが多く、日本で一番遅れている学校給食未実施を早急に解消すべきである。6人に一人の割合でいる貧困家庭の子どもは中学校では、栄養面から格差を解消すべきであるし、いじめや不登校のきっかけ解消にも寄与する事柄である。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。</p> <p>年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○中学校給食の実現については法律で定められていて、全国的に実施されていることであり、実施していないことが特殊問題になっている中学校給食について、検討すべきです。横浜市の中学校の不登校児の多いことは学校給食がないからといえる面もあるように思います。小学校では、給食時間に間に合うように登校してくる実態もあると聞いているからです。という事は、小学校時に不登校気味の生徒は、中学校では確実に不登校になっています。横浜市の中学生の不登校児が他都市と比べて異常に多いことは、給食のことも一因となっているかもしれません。ある中学校では、生徒・家庭の実態と学校周辺との関係から業者弁当の利用に踏み切りました。苦肉の策です。これが現在、全市的な実態になっていると聞きます。これなどは中学校の学校給食を実施すれば直ちに解決する問題です。保護者の一部に「愛情弁当」を作りたいという人がいることも事実でしょう。それらの人たちには、当局者が学校給食法に基づいて説得することは簡単なはずで、よって現在ただちに実現困難であっても、近い将来の実現をめざして、プランを策定しておくべきです。自校方式による実現の場合の必要予算について、当初施設・設備の費用とその後の必要経費の予算について、検討しておくべきです。それに基づき、だれが市長になると、法律に基づいた計画を提示すべきです。もし、今後実施しないというならば、中学校給食について、その実施しない理由を文書にして全市民に提示すべきです。それは次の点になると考えます。(1) 中学校給食の実害について 小学校給食との違いについて (2) 保護者の弁当作りの責任について (3) 市予算の執行上の不公正について そうでないなら、中学校給食実現のための方策、問題点をまとめて、全市民に提示し、協力を求めるべきです。その場合、次の点が問題になると考えます。(1) 全中学校に実施する場合の、施設・設備費等、予算案について(2) 一斉か順次か、何年計画か、その執行計画について</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。</p> <p>年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策4	<p>○「中学校昼食」の充実ではなく、中学校給食を実施して下さい。食育は中学校でも必要です。「栄養バランスのとれた温もりのある昼食を提供」するには、学校給食を実施し充実させることです。安全で温かい食材を基に提供される給食で、食材を始め栄養バランスや添加物などを学ぶことが食育であり食文化であると考えます。川崎市では完全実施されることになりました。横浜市での実施して下さい。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○延べ10年以上も働きながら子どものお弁当を作ってきました。共働きが増えている、片親の生徒も増えている中、本当に子どもたちの心と身体の健康を考えるのなら、安くて安全、同じものが食べられる学校給食が一番だと思います！！他都市から転居してきた方たちは、皆、横浜市の中学に給食がないことに驚いて嘆いています！！食べ盛り伸び盛りの生徒たちに、おいしい温かい学校給食をぜひ行ってください！学力も体力も運動能力も絶対に向上します！それが、真の食育の推進ではないでしょうか？</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○中学校での給食実施をしてほしい</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○この際、小中学校児童・生徒父母への中学校給食に関するアンケートを実施し、その結果も提示しながら行政として中学校の完全給食を一刻も早く実施することの長所・短所を明らかにし、それぞれ保護者・地域との連携・協力により、解決策を考えていくべきである。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○私の通っていた公立の中学校では給食がありました。給食がないというのは、親に負担です。専業主婦でも、ましてや、共働き片親、でしたらもっと負担です。中学生なので、お金を持たせれば購入して食べるとは思いますが、毎日ではどうか、と思います。親の作るお弁当が一番というのは、いつも作っていない人の幻想です。そのお弁当に手軽だからと添加物がたくさん入った食品を入れたら、何の意味もないのではないのでしょうか？一日も早く、きちんとした給食を実施していただきたいです。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策4	<p>○現在中学校の昼食は給食がありません。小学校と同様に給食制度の実施をお願いしたいと思います。私がかつて住んでおりました町は中学まで給食制度がありました。子ども心にも特に寒い時期に温かい食事が出来ることは、とてもありがたく良いことだと思いました。成長期の子どもの体を栄養士さんの管理のもと、献立が作成されるという事も大切なことと考えます。子どもたちの活力源となるように是非、中学校の給食制度を実施してほしいと思います。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。 年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○中学校の給食実施を計画に含めるべきである。子育てしやすく、女性が働きやすい社会には必要不可欠と考える。 現状の課題には、あいまいにふれられているだけのようですが、しっかりと検討して頂きたい。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。 年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○中学校昼食の充実について、「栄養バランスの取れた温もりのある昼食」はあくまで過度的な措置です。小学校のような自校給食もしくは究極的には学校食堂が目指されるべきだと思います。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。 年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>
施策4	<p>○中学校でも小学校の時のような給食を実施するのが望ましい。保護者が毎日お弁当を作るのには栄養バランスの点で限界がある。豊かな心の育成は豊かな食と切り離せない。</p>	<p>○本市では、家庭からの弁当持参を基本としつつ、一層充実した中学校昼食の充実に向けて、「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」の提供を検討しています。 年内を目途に、横浜らしい中学校昼食のあり方をまとめていきます。</p>



項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策5	<p>○施策の方針・重点取組の「校内指導体制の充実」においては必ず施設・設備の充実と教職員の増を伴うことと、「通学区見直しによる教育環境の充実」においてはマンモス校を作らないことと行政の予算削減のための見直しにならないようにすることを心がけること。</p>	<p>○教職員の増員については、国や県の基準に基づき適正に配置しています。また、通学区の見直しは教育環境や教育活動の充実を図るために実施するものです。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策5	<p>○通級指導教室に行くことが望ましい児童でも、家庭環境によって行けない子もいますし、通級に行っている児童でも在籍校での支援は欠かせません。そこで小学校での特別支援教育の更なる推進を希望します。そのためには、1学級1担任制では追いつきません。1学級2担任制にしてください。また、支援を必要とする全ての子どもたちが、どの小学校でも同じように支援を受けられるように、全ての教諭が特別支援コーディネーターとなることを希望します。</p>	<p>○特別支援教育の充実については、素案の施策5重点取組1に盛り込んでいますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策5	<p>○特別支援を要する児童への対応が冷たい学級担任や管理職がまだまだ多い。とりあえず、どんな子でも1年生の時は一般小に入ってもらってまずやってみる。支援員さんがいるのか、個別支援級がいいのか、通級がいいのか、特別支援学校がいいのか、ということはそれから考えるべき。なるべくインクルーシブな環境にまず置くべきで、保護者が嫌がらない限りは勧めるべき。</p>	<p>○特別支援教育については、素案の施策5重点取組1に盛り込んでおりますが、関連するご意見として、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
<p>施策5</p>	<p>○特別なニーズを必要とする子の母です。ユニバーサルデザインの視点に基づく授業とあります。私は、この方針に賛成します。ただ、授業だけでなく、学校自体もユニバーサルデザインの考えに基づいて作って欲しいと思います。掲示物の掲示の仕方、床への標示、提出物を出す場所、指示の出し方、等々。（構造化）</p> <p>障害を持つ子ども、健常な子どもと、完全な2つのグループに分かれるのではなく、グレーゾーンの子どもたちがたくさんいると思います。そのグレーゾーンの子どもたち全員への対応は、時間とお金がかかりますから難しいと思います。そういう支援のない子どもたちへの支援にもなり、沢山の子どもたちが充実した学校生活が送れるようになると思います。</p> <p>それから、はっきりグレーであるけれど支援が受けられない子どもたち。通級指導教室に通いたいけど、学力の関係で通級には行けない。通級にも行っていないので、在籍校での理解はない、でも支援は必要。個別級に行かせたいが、個別級に重度の障害のあるお子さんがいて先生が忙しくて軽度の我が子はほったらかしにされてしまうので行かせても無駄。などなど、支援が必要なのに受けられないお子さんはたくさんいます。支援と支援の狭間で一人苦しんでいるお子さんをたくさん見てきました。ユニバーサルデザインの考えを取り入れた学校づくりを進めれば、こういった子どもたちの苦しさが軽減されると思います。そういったことから、このユニバーサルデザインに基づく授業と言う考えに賛成します。どうか推進していただきたいと思います。</p> <p>ユニバーサルデザインを進めるにあたり、LD(学習障害)に詳しい方、作業療法士、心理士、児童精神科医の方なども一緒に進めていかれると良いと思います。</p>	<p>○特別支援教育については、素案の施策5重点取組1に盛り込んでおりますが、ユニバーサルデザインにつきましても重要な取り組みと考えており、特別支援教育の充実に取り組む中で、参考とさせていただきます。</p>
<p>施策5</p>	<p>○特別支援リーダーは必要だが、その前に病み上がり教員、臨任、非常勤を個別支援級に処遇する人事を止めるべき。</p> <p>特別支援学校卒で来ている教員はまず基礎免許の小か中に行ってから特別支援学校に配当されるべきだ。一般校に準ずる教育がなされるのにその元が分からないのでは困る。</p>	<p>○特別支援教育については、素案の施策5重点取組1に盛り込んでおりますが、関連するご意見として、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策5	<p>○県費負担教職員の市費移管につきまして、「移管後に児童生徒や学校・地域の実情に応じた教職員配置等となるような工夫について、検討します。」とありますが、検討の際には是非特別支援教育の観点からもご検討くださいますようお願いいたします。特別支援の実現には、たとえば複数担任制、TTの時間数の増加、非常勤講師の増員などそれを担うマンパワーが必要です。単に予算の権限を県から市に移すということではなく、子どもたちへの教育的支援の実現につながるような横浜市独自の制度設計をお願いします。</p>	<p>○県費負担教職員の市費移管に伴う対応については、施策9重点取組4に盛り込んでおりますが、ご意見も参考にさせていただきながら、今後対応を検討いたします。</p>
施策5	<p>○市立小学校・中学校の個別支援学級の担任及び特別支援学校の教員は、特別支援学校教員免許状保持者を配置すべきである。</p> <p>現在、市立中学校の個別支援学級の担任及び特別支援学校の教員のうち、特別支援学校教員免許状保持者はそれぞれ約3割、約7割である。この数字はここ数年あまり変化はない。近年、少子化で子ども全体の数は減少しているのに対し、特別な支援を要する子どもたちの受け皿となる個別支援学級に在籍する生徒や特別支援学校に在籍する生徒数は増加の一途をたどっている。発達障害をはじめとする子どもたちのニーズは多種多様化しているのに対し、そのニーズに対応するべき教員のうち特別支援学校教員免許状保持者が上記のような状況は、いかがなものか。例えば中学校の個別支援学級の担任は、大学を卒業したばかりの単に英語や数学などの教科の免許状保持者が担任になるケースも少なくなく、特別支援教育に関して専門的知識・技術がある即戦力としての力量（教師力）には疑問がある。中には、保健体育の教員が個人の経験だけで長く個別支援級の担任をつとめている場合もある。教員は専門職である。多様なニーズに応える特別支援教育を実践する専門家の一つの目安としての特別支援学校教員免許状の有無は、よりよい専門的な教育サービスを提供する上での条件ではないか。</p>	<p>○特別支援教育の推進については、素案の施策5重点取組1に盛り込んでおりますが、個別支援が必要な児童生徒一人ひとりの状況にあった教育が実施できるよう、専門人材の育成や支援体制の充実に取り組んでまいります。</p> <p>いただきましたご意見につきましても、こうした取り組みを推進する中で、参考とさせていただきます。</p>
施策5	<p>○横浜市内の個別支援学級では、在籍児童のほとんどの子どもが6年間同じ教室で過ごします。それにも関わらず、机といすは一般級と同様の物を使用しているのが実情です。</p> <p>ある学校では、個別支援学級児童の机と椅子は、木製で机・椅子とも高さを変えられるようになっていました。これこそ、ニーズに対応した教育環境ではないでしょうか。机・椅子は、在籍児童が6年間使用するに耐えるもので、高さの変えられるものを個別支援学級児童全員に貸与できるよう予算措置をお願いします。</p>	<p>○特別支援教育については、素案の施策5重点取組1に盛り込んでおりますが、関連するご意見として、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策5	<p>○現在、個別支援学級定員8名につき担任1名となっています。しかしながら、個別支援学級在籍児童の障害の多様化や症状の重い児童が増えてきているという現状は大変厳しいものがあります。1人の担任では5名が限度ではないかと考えます。</p>	<p>○特別支援教育については、素案の施策5重点取組1に盛り込んでおりますが、関連するご意見として、参考にさせていただきます。</p>
施策5	<p>○「就学・教育相談のための体制の強化」につきまして、学校の出口にあたる中学卒業後の進学、就労等の進路指導や他機関との連携については具体的に言及されておりません。一般学級在籍の子どもたちは、将来の狭い意味での「保護的な福祉」の対象外にあります。将来的に社会的な自立をすることが望まれます。そのためにも在学中からの丁寧な相談対応、進路指導を必要としており、ご検討いただければと思います。</p>	<p>○適正な教育相談を行うために、就学前から卒業後までを見通した相談体制を構築してまいります。</p>
施策5	<p>○特別支援学校の入学には定員を設けるべきだ。特別教室が使えないのでは学習機会が確保できない。</p>	<p>○学習機会の確保については、素案の施策5重点取組2特別支援学校の再編整備を進める中で取り組んでまいります。</p>
施策5	<p>○障害の程度による学校選択ではなく、より居住地の近くの肢体不自由特別支援学校への通学を推進し、送迎の長時間化や教室の狭隘化等の解消と、教育環境や教育活動の充実を図りますとありますが、現状でも各特別支援学校は教室の狭隘化しており、通学区域の見直しにより問題が解決できるとは思えません。</p> <p>どの様に教育環境の改善や充実を図っていくのかを教育委員会として具体的に示してほしいと考えます。</p> <p>また、子どもの数は減少傾向にあるのに、特別支援教育を必要とする児童生徒が増加傾向にあることを踏まえ特別支援学校の新設も検討してほしいと考えます。</p>	<p>○いただいたご意見も踏まえ、今後計画に基づく再編整備の方向性をお示しできるよう検討を進めてまいります。</p>
施策5	<p>○特別なニーズに対応した教育の推進のうちスクールバスはその通りだが、合わせて運行経路日々の利用を学校教員でなく民間に委託すべき。家庭の事情でポイントをどこにするのだの、荷物なり保護者の便乗、安全性の確認、迎えが来なかった者への対応（終点の車庫まで急行、保護者引き渡しまで同行）は教員の業務なのか。バス会社が責任を持って行うべき。医療的ケアも看護師が行うべき。教員の仕事なのか。</p>	<p>○特別支援教育に関するご意見として、今後の参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策6	<p>○南高校には当然、TOEFL少なくともPBTで550（旧）くらいの留学経験のある教員が当然市内から給料120%位でかき集められるべきだと考える。それが適材適所という事ではないだろうか。</p>	<p>○教員の確保・登用については、素案の施策7に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策6	<p>○次代を担うグローバル人材の育成について、日本史が全市立高校で必修科目になっていることに驚きました。</p> <p>国の「スーパーグローバルハイスクール」は何と訳すのでしょうか。横浜サイエンスフロンティア高校は「スーパーサイエンスハイスクール」でもあるとのことですが、世界に全く通用しないカタカナ英語はやめるべきです。</p> <p>横浜市教育委員会が、「教育＝人材育成」論だけに偏ってしまったのかと心配です。「教育＝人格完成」を目指す視点もぜひ重視してください。また、重点取組1の「TOEFL等外部指標の導入」30年度末8校という目標も気になります。各高校の英語科教員の意見は聴取した上で計画でしょうか。</p>	<p>○ご意見として参考にさせていただきます。</p>
施策6	<p>○高校での英検等の導入は今年度からだが具体的にどのように授業に取り入れていくのか明確なものがない。どのように授業をしていくのか保護者に説明をお願いしたい。</p>	<p>○外部指標は生徒の英語力を高めるための状況の把握と英語教育の検証・改善の為に活用してまいります。外部指標の活用については、各学校から保護者の皆さまにご説明させていただきます。</p>
施策6	<p>○施策の方針の「英語力の強化」を「語学力の強化」に変更。理由は、5年後の達成目標「全日制高校2年生終了段階で実用英語技能検定2級から準1級相当以上の生徒の割合を50.0%以上にする」の根拠になるから反対。定時制の生徒はどうするのかの記述がなく、また、外部の基準に学校教育を合わせるのをおかしい。5年後の達成目標は削除すべきである。</p>	<p>○外部指標は生徒の英語力を高めるための状況の把握と英語教育の検証・改善の為に活用してまいります。また定時制高校の対応については、全日制の導入状況を見ながら、今後検討してまいります。</p>
施策6	<p>○グローバル人材育成というなら、国際バカロレアの導入を明記すべき。スーパーグローバル大学が採択され、大学の入試にIBが活用される。東京、大阪、札幌等各地の公立も導入する。</p> <p>国際都市・ヨコハマでIBをやらない理由はない。市内にインターナショナルスクールもあり、IBの先輩として交流をすれば良い。</p>	<p>○本市では、海外大学への支援に向け、全市立高校から幅広く希望者を募り、「海外大学進学支援プログラム」を実施いたします。国際バカロレアについては、今後の国や導入校の動向を見ながら検討してまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策6	<p>○国際社会で活躍する人材を育てるために中高一貫校などで、国際バカロレアを導入し、国際社会で認められる資格を取れるように制度を整備すべきである。</p> <p>国際バカロレアは国際的に通用する大学入学の資格であるため、海外入試の際に生徒の将来の選択肢を広げることができる。また、国内の大学が国際バカロレアを活用した入試を行う傾向にある。以上の点を踏まえて、国際バカロレアを高校でもグローバル人材の育成のために取り入れるべきである。</p>	<p>○本市では、海外大学への支援に向け、全市立高校から幅広く希望者を募り、「海外大学進学支援プログラム」を実施いたします。</p> <p>国際バカロレアについては、今後の国や導入校の動向を見ながら検討してまいります。</p>
施策6	<p>○高校への国際バカロレアの導入。</p>	<p>○本市では、海外大学への支援に向け、全市立高校から幅広く希望者を募り、「海外大学進学支援プログラム」を実施いたします。</p> <p>国際バカロレアについては、今後の国や導入校の動向を見ながら検討してまいります。</p>
施策6	<p>○魅力ある高校教育の推進について。</p> <p>今年度新設となった市立戸塚高校音楽コースの説明を先日、学校説明会で聞きました。公立高校とは思えないすばらしい音楽教育環境に驚きました。</p> <p>ですが、詳しく話を聞くと今年度は音楽コースに欠員が出ており、音楽コース新設により普通コースの定員が減ったことで戸塚高校全体の受験生の数は例年より減ってしまったそうです。</p> <p>これは明らかに今の高校受験生やその保護者のニーズにまったく沿っていない高校教育の推進ではないでしょうか？多くの市民は普通科の高校の充実を望んでいるのです。なぜ横浜市民に必要とされていない、高校からの音楽コースにそれほど税金をかける必要があるのでしょうか？</p> <p>まして、中学校の教師配置の現状がしっかりできていないのに、高校でアカデミックな教育の推進をするのはおかしいと思います。中学校は義務教育です。子どもたちが学ぶことの基礎を作る場です。基礎ができていなければ、その上で高尚な教育をしても無駄なのではないでしょうか。</p>	<p>○魅力ある高校教育についてのご意見として、参考にさせていただきます。</p>
施策6	<p>○同じ市内の中学、高校に通う生徒の一部を優遇することとなる横浜サイエンスフロンティア高校の中高一貫教育校化は中止すること。</p>	<p>○横浜サイエンスフロンティア高校は、先進的な科学の知識・技術、技能を活用して世界で幅広く活躍する人材を育てるとともに、経済的負担の少ない公立の中高一貫教育のニーズに応えるため、中高一貫教育を導入することとしたものであり、ご理解いただきますようお願いいたします。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策6	<p>○横浜サイエンスフロンティアの学年2学級のための附属中は、高校では1/3のみの「中高一貫」であり、中途半端、不十分である。少なくとも中学入試で4学級規模に変更すべき。教室の改修で収容可能。（中：4×3、高5×3、高校入試1学級）</p>	<p>○横浜サイエンスフロンティア高校の取組をさらに充実・発展させるために中高一貫教育校化を進めてまいります。ご意見として参考にさせていただきます。</p>
施策6	<p>○横浜サイエンスフロンティア高等学校の付属中学について。自分は今現在横浜サイエンスフロンティア高等学校に通っている生徒です。多くの生徒から良く聞く意見として中学受験は根本的に親が決めるもので受験生本人の意思にそぐわない可能性がある中で、学習指導要領に従うとはいえ、かなり特殊な授業を行うのは「大人の満足」でしかなく子どもにいい影響を与えないというものがあります。自分としても横浜サイエンスフロンティア高等学校は、生徒のためではなく「大人の満足」のために有るような気がします。結論としては、高等学校の生徒は自分の意思で入学し、中学校で一般社会を知っています。それに比べ、中学生は自分の意志ではなく大人の意志により入学させられる可能性があり、小学校までの一般社会しか知らないことになるという問題があると思います。</p>	<p>○横浜サイエンスフロンティア高校の取組をさらに充実・発展させるために中高一貫教育校化を進めてまいります。ご意見として参考にさせていただきます。</p>
施策6	<p>○横浜サイエンスフロンティア高校は、教員、生徒、保護者など、関わる全ての人の中で、方向性の統一がなされていないように感じます。教員における意見の食い違いも多く、生徒が困惑する状況が多く見られます。この高校がどのような目的で設立され、どの方向で進むのか、イベントは何故行なわれるのか、などといったことを関わる人すべてで統一するだけでなく、世間に分かりやすく伝えていく必要があると考えます。行くべき方向性を定め、関係者がそれを共有した状態で進んでいかなければ、今後の発展は見込まれないのではないかと考えます。</p>	<p>○ご意見として参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
目標2	<p>○教員の採用時には、人間性をもっと重視してほしい。また、問題のある教師を校内でうやむやにすることがないように、相談できる機関を作ってほしい。場合によっては、外部から調査にくる体勢を作ってほしい。教育委員会に相談しても全く取り合ってくれなかった。らしい。娘の中学に昨年度転任してきた若い教師。娘の考えや話し、意見を聞かず、やる気をなくす発言ばかり。意見を言う娘を封じ込めるためか、毎日部活後一人だけ残され、反省ノートを書くよう強要。部活内でえこひいきをする。こういう考えの教師が教壇に立っていていいのでしょうか？学校には学年主任・副校長とも話し合いをしたが、今年度も担任を持ち、顧問も続けている。学年主任は「顧問はまだ若いから…。顧問もいろいろ考えて頑張っている」と言うが、生徒はこの教師の犠牲になっています。娘は部活が大好きだったが、顧問と合わないことで辞めざるを得ず、その後4人辞め、さらに1人2人と2年足らずで10人近く辞めてしまいました。部活の大好きな子どもたちが、顧問1人の為に、こんなに辛い思いをしているのです。教師を教育し直す機関はないのでしょうか？生徒や親は泣き寝入りするしかないのでしょうか？学校側もこの教師への苦情が多くて困っていると思うのですが。</p>	<p>○今後も、優れた教職員の確保に努めるとともに、教職員の質の向上を図ってまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
目標2	<p>○今、小学校に通っている子どもがいるのですが、教師がやる気がなく、子どもを見下しているように思います。これから少子化が進み、子どもが貴重な存在となっていくのに、情熱のかけらもない教師に教えられては、子どもがどんどん無気力になっていくと感じます。日本を支えていってもらわないといけないのに、これではこの先のこの国の未来も暗くなることでしょう。教師自身に、自分は宝物を育てているんだという自覚をもたせてほしいです。公務員だから、生活は保障されているんだという気持ちがあるから、仕事も雑になるのではないのでしょうか。プリントにしてもコピーが曲がっていたり、電話の取り方一つも知らない。世間から外れている教師が多すぎる。やる気がない教師は辞めてもらう制度を作ってもらいたい。熱心であれば、子どもに伝わるはず。子どもは先生にかなりの影響を受けているので、本当に責任がある仕事です。そう思っていない教師がほとんどです。教え方も下手な人も多い。目標2に期待しています。</p>	<p>○授業力や学級経営力、コミュニケーション力等の実践力の早期向上のため、校内で行うOJTや「メンターチーム」等の活用を推進していくことを素案の施策8の重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>



項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策7	<p>○しばしば教員の不祥事が報道される。そのたび、各学校には教育委員会から現場にさまざまなプリントが配布されるが、不祥事はくりかえされる。大多数の教員は毎日しゅくしゅくと業務を行っている教員であるが、一部には教員として不適切と思われる言動を行う人間もいる。例えば、部活動の指導のなかでたびたびおこる体罰も含め、生徒に対して暴言まがいの言葉をしばしば用いている場合がある。これは「信頼される教職員」とはかけ離れている。ぜひ、まず基本的な社会人としての姿勢を身に付け、その一員としての教職員の確保・育成をしてほしい。</p>	<p>○優れた教職員の確保に努めるとともに、教職員の質の向上を図ってまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策7	<p>○経験者でも初任者でも、赴任先の状況で実践的指導力が試され、向上していくものであるから、どの学校でも教職員が生き生きと教育活動ができるように、条件を整備することが先決である。パワハラ・セクハラがあるような職場は早急に是正することも大切である。施策の方針の「教師」としての使命感や情熱、実践的指導力等の資質能力を有する人材の確保だと、どこからか試されずみの教職員をスカウトするのかと思う。「教師」としての使命感や情熱、実践的指導力等の資質能力を有する人材の確保ではなく、「教師」としての使命感や情熱、実践的指導力等の資質能力が発揮でき、向上できるように、人的、物的条件を整備するに変更。同じく即戦力となる優れた人材の確保を目指した大学との連携推進は削除。</p>	<p>○授業力や学級経営力、コミュニケーション力等の実践力の早期向上のため、校内で行うOJTや「メンターチーム」等の活用を推進していくことを素案の施策8の重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策7	<p>○学校は勉強を教えてくれる人が授業をしに毎時間教室に来ればよいものではありません。先生と生徒という信頼関係があってこそ「真の学び」になるのだと思います。ころころと変わってしまう臨時教員では信頼関係は築けません。</p>	<p>○教員の確保については、素案の施策7重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策7	<p>○クラス担任である教員で非正規（臨採）が少なくないと聞きます。少なくともクラス担任は正規の教員とすべきです。非正規の場合、全くの新任であっても初任者研修を受けることなくクラス担任を受け持つと聞きます。子どもに向き合う同じ教員でありながら、身分の違いで力量向上の条件に差があってはなりません。子どもにとっては正規も非正規もなく、皆同じ先生です。教育に“臨時”はありません。担任を受け持つ非正規の教員については早期に正規にするようにしてください。</p>	<p>○素案の施策7重点取組1に示しているように、今後も優れた教員の確保に努めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策7	<p>○今の中学校の現状をきちんと把握されていない印象を受けたので意見申し上げます。</p> <p>なぜ、後任をしっかりと決めてから教員に転出許可をあてないのか？</p> <p>毎年、毎年、まるでありあわせで済ませるような教員の配置では、子どもたちは落ち着いて学習できるはずがありません。今後5か年の重点目標をいろいろ掲げる前に、まずは教員の適正な確保、配置が必要とされています。学校は教えてくれる先生がいなければ何も始まりません。</p>	<p>○教員の確保については、素案の施策7重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策7	<p>○小学校英語の教科化の際には小学校には英語担当教諭(専科)を置くべきである。専修ないし1種の中ないし高の英語免許を持つ、なおかつTOEICで最低600点くらいとれている小学校の免許も持っているような人を人事権を駆使してかき集め、厚遇すべきである。市費移管の話にもなるが、移管の際には英語、ICT、理科実験など誰もができるものでないことをする教員に手厚くすべきである。特殊スキルを持つ教員をもっと活用すべきである。</p>	<p>○県費負担教職員の市費移管に伴い、特殊スキルを持つ教員を活用することについては、素案の施策9重点取組4に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>
施策7	<p>○広報はあまり意味がない。首都圏でわざわざモンスターパーエントとか面倒だと考える若者の方が圧倒的だし、地方でなりたい人も採用されたら何年かで地元に帰る。初任から4年目くらいはうんと給料は抑え、5～25年くらいは給料を上げるべき。辞めないでいたくなる職場にしないとイケない。アイ・カレッジには大反対。教員になるかどうか、ましてや横浜市の教員になるかどうかかわからないものにお金をかけるのは税金の無駄である。</p>	<p>○優れた人材の確保については施策7に、教職員の人材育成については施策8に記述しておりますが、いただきましたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
施策7	<p>○大学の教員養成がふがいないから現状教員の力量不足が言われているので、教員養成をしている大学だからといってあてにできない。それなら現場でたたきこんだ方がいい。臨採や非常勤を増やして見極めるしかないのではないかと採用や人材育成を今の方式でやる限り、横浜は人材流出が止まらない。</p>	<p>○教員の養成・確保についての大学との連携は、素案の施策7重点取組2に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策7	<p>○優れた人材確保のために、大学と連携することは、教育委員会と大学との間での癒着につながるから、やめるべきだと思います。中途採用も含めて、広く人材を募り、透明性のある選考方法で採用するべきです。</p>	<p>○教員の養成・確保についての大学との連携に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策7	<p>○教師としての資質能力を有する人材を確保するためには、今までのやり方では難しいと考える。教育実習のあり方も含めて、よほど思い切ったことをする必要があると思う。</p>	<p>○教員の養成・確保についての大学との連携については、素案の施策7重点取組2に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策7	<p>○教育実習生の積極的な受入にあたっては、指導する学校現場の課題も十分に考慮した上で検討を進めてもらいたい。</p>	<p>○十分考慮して進められるように、いただいたご意見につきましては今後の参考とさせていただきます。</p>
施策7	<p>○大学生自身が望むのであれば、大学時代から教育現場を体験できる機会の拡大はあっていいと思うが、横浜市自身の教育制度の欠陥を補完するための大学との連携は、逆に大学生が大学でじっくりと学ぶ機会を奪うことに繋がる。</p>	<p>○教員の養成・確保についての大学との連携に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>
施策8	<p>○漠然とした「使命感」や「情熱」を子どもたちに一方的に押し付ける先生は信用しません。</p> <p>担任の機嫌を損ねる事を、保護者は口にも顔にも、決して出しません。褒め言葉しか聞く耳をもたない学校は信用できないので、本音は誰にも言いません。</p> <p>自分の失敗と真摯に向き合って、心からの反省ができて、自分のスキルアップにつなげている先生。上から目線ではなくて、子どもと誠実に付き合っ、一緒に成長していける先生。人間的にも、言葉遣いも穏やかな先生を尊敬します。</p> <p>男女とも先生たち全員、とりあえず言葉遣いを見直したらどうでしょう。子どもを深く傷つけてきた暴言や、軍隊まがいの命令口調を、まず反省できませんか。気付かなかったフリ・知らなかったフリや、責任逃れの言い訳を、やめませんか。高い理想を派手に掲げるより、現実的な取組を、丁寧に積み重ねてください。</p>	<p>○学校へのニーズや学校が抱える課題が多様化していることを踏まえ、学び続ける教員を育成していくことを素案の施策8の重点取組2に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策8	<p>○教師が常識的なことができないことが気になります。社会人として大人としての常識も身に付けてほしいと思います。(これは若い先生だけではありません。)先生方にも他人のために働く大切さを知っていただき、職場以外でも学び続けていただきたいと思います。</p>	<p>○学校へのニーズや学校が抱える課題が多様化していることを踏まえ、学び続ける教員を育成していくことを素案の施策8の重点取組2に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策8	<p>○指導の際に脅し文句と取れる言葉をよく使う先生がいらっしゃいます。中学生の指導は大変だと理解しておりますが、こういった指導を行うことで、生徒は萎縮し、反発心が芽生え、また、先生を尊敬する気持ちがなくなり、ひいては先生の言うことを聞かないといった悪循環がおきているように感じています。また、他の生徒がいる前で志望校を発言させる、保護者の出身地を聞くなどの行為などもあるようです。中には、先生が嫌で学校に行くのが億劫になってしまうケースすらあります。このケースは、教師歴の浅い先生が行っています。本方針で掲げられている「教師力の向上」は必須であり、指導で行ってはいけないことを明確にし、周知していただくことを迅速に行っていただきたいと思います。ただし、こういった話はなかなか表面化することはありませんので、それを伝える窓口を学校とは別に用意していただければと思っています。なぜならば、内申点を先生や学校が保持しているため、言いたくても言えず、泣き寝入りせざるを得ないからです。</p>	<p>○学校へのニーズや学校が抱える課題が多様化していることを踏まえ、学び続ける教員を育成していくことを素案の施策8の重点取組2に盛り込んでおりますが、いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。</p>
施策8	<p>○本質は教師の向上じゃないですか、一般社会で考えてください。優れた上司の居る会社は伸びますよ。学力向上ならいい教師を育てれば必ず達成できます。教師保護、教育委員保護の政策では無理です。社会人なら簡単にわかります。</p>	<p>○学力向上のための教員の指導力向上及び教師力の向上については、それぞれ素案の施策2重点取組2及び施策8重点取組1に盛り込んでおりますが、関連するご意見として参考にさせていただきます。</p>
施策8	<p>○「教師力」は一般的にはない言葉。教科指導、生徒指導、学級指導、保護者との対応、同僚との協力、自己啓発などなど、それぞれに深いものがあり、「総合的な研修体制の構築」とはあるが、学校の今の忙しさの中では、校内での研修も余裕をもってできないので、絵に描いた餅になる。勤務時間中の研修時間の確保、学校を離れての研修も保障すべきである。</p> <p>今、それぞれの市の各教科・領域の研究会・研修会に勤務時間中に無理なく参加できる体制をつくるのが第一歩である。</p> <p>大学や民間企業と連携した教員の学びの支援 グローバルな視点を持った教員の育成は削除。理由は、このための教育委員会事務局の下準備と、参加する教員の負担は今の横浜の教育には不要のものであるから。これでまた負担を増やすことはない。</p>	<p>○素案の施策9重点取組3に盛り込ませていただいているように教職員の負担軽減も考えながら、学び続ける教員やグローバルな視点をもった教員を育成してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策8	<p>○新卒で担任を受け持つ前に、1～2年ベテラン教諭のクラスで副担任などをして、教育現場や子どもの成長にじっくり接してから、担任を受け持つようにして欲しいと思います。現状では新卒の先生も大変そうだし、子ども達も授業が分かりづらいままで、家庭でのフォローが大変です。</p>	<p>○授業力や学級経営力、コミュニケーション力等の実践力の早期向上のため、校内で行うOJTや「メンターチーム」等の活用を推進していくことを施策8の重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策8	<p>○施策8の重点取組1への追加。 ④勤務時間内に授業を練るための教材研究の時間確保。教員がわかりやすい授業をするために、勤務時間内に教材研究の時間を確保し、日々の学習内容を向上を目指すよう取組を進めます。</p> <p>なぜならば、小学校では1年から6年の様々な教科領域を教えているが、経験の浅い先生にとっては毎日が新しい学習の連続になる。5時間あれば、5時間分の教材を考え、6時間あれば、6時間分の教材を考えています。今の勤務時間外の教材研究だけでは時間の確保がなく、ただ教科書どおり教えるだけで精一杯となって、学習の工夫どころではない。教える＝教材研究の時間が必要です。それなしで研修を増やしても、各校の授業力の研究会を増やしても、先生たちが自分で考えクラスの子どもたちに合うように工夫する時間、教科書という教材を読み解く時間がなければ、授業力向上につながらない。</p>	<p>○授業力の向上のために、OJTや「メンターチーム」の活用などを通して、特に若手教員の育成に向けた取組を推進してまいります。</p>
施策8	<p>○新任教員に対するOJTを、期間と責任者を明確にして行うべきだと思います。OJT期間は、少なくとも一年は取り、研修もこの期間に集中して行い、一定の達成度が得られなければ、さらなるOJT期間の延長を図るなど、OJTを充実させるべき。</p>	<p>○いただいたご意見も踏まえて、授業力や学級経営力、コミュニケーション力等の実践力の早期向上のため、校内で行うOJTや「メンターチーム」等の活用を推進していくことを、素案の施策8重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策8	<p>○豊かな経験を持った教員が不足しているのであれば、退職教員を厚遇で迎え若手教員に豊かな経験の実態を見てもらえばよい。教職員の過密労働を解消し、教職員が授業という本来の業務にじっくりと取り組める条件を作り、かつ、経験豊かな退職教職員を再雇用することにより、よりよい教育経験が継続されていくはず。</p> <p>本市での経験年数が10年までの教員が全体の約5割という現状の何が問題点で、何を解決すればいいのでしょうか。まず現状の問題点・原因・課題を教育委員会自身が把握することが重要である。</p>	<p>○素案の施策7重点取組1に盛り込ませていただいたように、学校現場で培った豊富な知識や経験等を持ち、意欲と能力のある教員を定年退職後に再任用教員や非常勤講師等として、さらに活用していくこととしております。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策8	<p>○「総合的な研修体制の構築」とはあるが、学校の今の忙しさの中では、校内での研修も余裕を持ってできないので、絵に描いた餅になる。勤務時間中の研修時間の確保、学校を離れての研修も保障すべきである。今の若い教職員は、美術館、博物館、映画館にもめったに行けない働き方になっている。まして研修旅行も「私事旅行」とされ「休暇」として扱われている現状を放置したままでは、研修体制の構築などはできない。</p> <p>今、それぞれの市の各教科・領域の研究会・研修会に勤務時間中に無理なく参加できる体制をつくるのが第一歩である。</p>	<p>○教職員にとって効果的で効率的な研修となるよう教員の研修体制の整備を進めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策8	<p>○(アイ・カレッジにお金をかけるくらいならば、)その分現職教諭が勉強したい時に出来るように内地留学をさせるべき。そして内地留学した教員にはもっと還元させるべきで、ときどきレポートを書かせるなどした方がいい。海外派遣も同様である。中学に限らず、小学、特別支援も含めて積極的に派遣し、講義なり、体験なりしてきた方がいい。企業研修には全く期待できない。民間にいたからと言って仕事ができるとは限らない。</p>	<p>○若い教員の大量採用が続く中で、即戦力となる教員を養成する「アイ・カレッジ」は有効であると考えております。</p> <p>教員の研修については、素案の施策8に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策8	<p>○大学もグローバル人材育成とかうたっているが、何がグローバルなのかあまり分かっていないと思う。そんなところと協働研究して何になるのか？それならば、海外に行った教員が総合的な学習の時間でTV会議で現地をつないだ方がはるかにグローバル感はある。</p>	<p>○グローバル人材の育成及びグローバルな視点を持った教員の育成については、それぞれ素案の施策1重点取組4、施策6重点取組1及び施策8重点取組2に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策8	<p>○海外での研修はただの視察では身につかず、お金の浪費なので、教師を3か月～半年ぐらい海外の大学で教育学や教育現場を学生として経験させる施策を実施して欲しい。海外研修は問題がある場合には国内で海外の授業が受けられる施策もあると思う。</p>	<p>○今後はさらに、グローバルな視点を持った教員の育成が大切だと考えております。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策8	<p>○学校を取り巻く社会状況が変化し、多様化していることへの対応として大学や企業への研修となっているが、大学や企業で研修すれば教育現場の課題を解決する能力がつくという考え方には疑問を感じる。</p>	<p>○大学や企業との研修だけではなく、授業力や学級経営力、コミュニケーション力等の実践力の早期向上のため、校内で行うOJTや「メンターチーム」等の活用も推進していくことを素案の施策8の重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策8	<p>○精神疾患の教職員が一人いるだけで、現場の教職員の負担が増える。小学校でいえば担任の疾病者がいれば、クラス全員分の児童数とその保護者、そして、5から6時間の授業内容と校内の仕事分担と加重量が多い。精神疾患の教職員が戻ってきたとき、非常勤は配置されるが、子どもたちに精神疾患のフォローをさせてよいのか。仕事につく場合は子どもと接しない場所も復帰の視野に入れてほしい。</p>	<p>○素案の施策8重点取組3に盛り込ませていただいていますように、メンタルヘルスの予防・早期発見・早期対応や復職への支援を進めてまいりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策8	<p>○教師の体罰、パワーハラスメントの根絶に対して明文化すべき。二年前に行った体罰の調査は、毎年実施すべき。</p>	<p>○子どもの人権を尊重した学校づくりについては素案の施策3重点取組2に、教師力の向上については施策8重点取組1に、学校の組織力については施策9重点取組1にそれぞれ盛り込ませていただいております。</p> <p>なお、体罰やパワーハラスメントについては、重要な課題と考えており、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策9	<p>○横浜市があれもこれもと命令するのではなく、先生方や学校の自発的な運営を重視すべきではないでしょうか。もちろん自発的運営が出来る教師集団がなければできないことですが、あまりにお説教的な教育を押し付けているのではないのでしょうか。</p>	<p>○自主的・自律的な学校運営については、素案の施策9重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策9	<p>○教育は管理ではない。家庭や地域、関係機関の協力を受けながら、学校が自主的・自律的に運営できるよう支援するという事は、管理することとは異なる。学校の経営は、校長を含む教職員の自主的な運営に委ねるべきであり、「中期学校経営方針」に基づいた学校評価は直ちに中止すべきである。生徒、教職員、地域それぞれが“My School”との意識を持てる事が、学校運営にとって大きな力となる。難関試験を通り教職員となった人達であるから、自分達の学校を自分達で運営するポテンシャルは十分備えているはずである。もし備えていないと考えるなら、そのような教職員を採用した側に評価する能力がなかったにすぎない。</p>	<p>○自主的・自律的な学校運営については、素案の施策9重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策9	<p>○教職員の過密労働を解消し、教職員が授業という本来の業務にじっくりと取り組める条件を作り、かつ、経験豊かな退職教職員を再雇用することにより、よりよい教育経験が継続されていくはず。</p> <p>学校現場で学ぶOJT等の強化などと言っているが、現状の過密労働を解消せずにOJTを行うことは、より一層の負担が現教職員にかかることになるはず。教育現場の現状分析が欠けており、誰が、何処で、何を、何時、何故、どのようにという5W1Hが欠落した机上の計画となっているのではないか。</p> <p>教育は管理ではない。生徒一人一人の人格の完成を目指すものである。民間企業の目指す利益や効率の追求とは全く異なり、一人一人の生徒に向き合い、生徒と教職員間に信頼関係、教職員間の信頼関係を築いてこそ、子どもの抱えている問題や悩みを理解し、教職員が一丸となって、子どもの成長と発達を促すことが可能になる。そのためには、教職員の自主性を尊重し、学校現場において自由闊達な意見交換や協議が行えることこそ必要なことである。教職員を過密業務から解放することは、その第一ステップとなる。</p> <p>何のためのマネジメント力向上か不明であるが、命令や指示の実施度合や目標の達成度合いなどを管理することは、教職員に無益な負荷をかけるだけでなく、子どもと向き合う時間さえ奪ってしまうことになり、教育の弊害になるだけである。ましてやマネジメント力向上のために民間企業への派遣など教育活動とは相反する有害無益なものである。</p>	<p>○管理職のマネジメント力の向上については、素案の施策9重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>



項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策9	○大阪でも横浜でも民間校長の評判はあまりよくない。全てではないが比率で言うとひどい。生え抜きを重んじるべきである。	○民間出身校長の経験や能力の活用については、素案の施策9重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策9	○管理職のマネジメント力を向上させるための研修、選考方法を考えるべき。例えば、企業での管理職経験者を校長に採用するなどの施策が考えられます。	○管理職のマネジメント力の向上については、素案の施策9重点取組1に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策9	○素案として基本的な方向性には異存はありません。ただし保護者の一人として子どもを通じて学校と関わる上で思うことは、学校はまだ閉鎖的であるということです。保護者の意見を受け入れるシステムもありませんし、意見が反映されている印象もありません。学校側は何かあったら言ってくださいと言いますが、言うことでわが子が何か嫌な思いをするのではないかと考えてしまう保護者もたくさんいます。第三者的な機関や場を設け保護者の意見が活発に話し合える場が必要ではないでしょうか。	○学校と保護者の意見交換については、素案の施策9重点取組2に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策9	○教職員の負担軽減と一人ひとりの子どもによりきめ細かい指導をするために35人学級の実現を国に強く働き掛ける。 ○教職員の多忙化を軽減するにも、教職員の増員をしてもらいたい。 ○学校への指導主事訪問が定期的にあるが、現場の先生方の悩みを吸い上げるような訪問になってもらいたい。 ○多忙化に拍車をかけるようなものなので、勤務日でない日に小学校の市球技大会など行わないようにする。	○人員配置については、国の動向を踏まえながら対応を検討してまいります。また、教職員の負担軽減については、素案の施策9重点取組3に盛り込んでおります。さらに、学校訪問については先生の授業や悩みをサポートすることに重点をおいて実施していますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策9	○横浜の時間、地域連携、外国語活動、幼・保・小連携、小中連携、いじめ対策、不登校児童への対応などかつてない多忙感を教育現場にもたらしていることが危惧される。すべて学校の中で、枠内で行おうとすると教員がパンクしてしまう。本来は充実した教科指導、児童・生徒指導を行うために使う時間、労力も奪われてしまっているのではないかと？学校は何でも屋や託児施設ではなく、教員にも休憩が必要である。夏休みは7月20日から9月1日まで、学校は完全週休二日制とし、教員個々の課題として地域（学校でも居住地でも）でその教育力を還元するような取組が行えないだろうか。	○教職員の負担軽減については、素案の施策9重点取組3に盛り込んでいますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策9	<p>○企業や外部団体（小中連携含む）との連携による事業は、平常の当該学校の教員による充実した授業こそが、子どもの教育活動の基本であること、そのために一学級の児童生徒数を少なくしたり、教職員数を増やすことが施策の中心に据えられるべきであること、企業や外部団体と連携して実施する事業の準備と打ち合わせが子どもと教職員および相手方担当者にかかなりの負担を強いていることなどの視点から、抜本的な見直しと削減が必要である。</p>	<p>○外部人材の活用や地域との連携は、児童生徒の育ちや学校運営の充実に効果があると考えており、素案の施策の様々な部分に盛り込んでいます。また人員配置については、国の動向を踏まえながら対応を検討してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策9	<p>○現場の忙しさを聞くアンケートを取ったと聞きました。アンケートを書くのも一苦勞のはずなのに改善があったのでしょうか？</p>	<p>○教職員の負担軽減については、調査結果を踏まえた対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでおります。具体的な改善については、今後着実に進めてまいります。</p>
施策9	<p>○事務作業やその他の雑務の多さによって本来の職務に影響が出ているのではないかと感じる事が多くあり、他者に任せられる事務仕事は任せられるシステムを作り、生徒にしっかりと向き合える余裕が失くならないようにバックアップできるための必要な人員を増やす。</p>	<p>○教職員の負担軽減については、素案の施策9重点取組3に盛り込まれております。また、人員配置については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策9	<p>○自分が尊重され、大切にされていることが実感できれば、自分を大切にするとともに相手を尊重することもでき、いじめは確実に減少する。 教職員が生徒一人一人にゆとりを持って向き合うことができないのが原因と思う。管理・被管理業務を削減し、教職員を大幅に増やしてこそ、生徒一人一人に時間をかけて向き合うことができ、生徒も大切にされていることを実感できる。その結果いじめも減少していくことになる。</p>	<p>○いじめの根絶については、素案の施策3重点取組3に盛り込んでおります。また、教職員の事務負担を軽減し、教育活動に専念できるような支援を行ってまいります。その中で、人員配置については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策9	<p>○概要の新たな視点にも教職員の負担軽減がうたわれています。OECDの調査を見ても、日本の教員は世界一多忙です。それは横浜市も例外ではありません。教員は子どもたちに向き合う時間がなく、長時間労働で疲れ果てていると嘆いていますが、これでは行き届いた教育ができず、子どもたちにとっての不幸です。教員の負担軽減は急がなければなりません。多忙化の原因に対する具体的な対策が見えません。調査報告等一般的事務や部活動の指導などが多すぎて、肝心の教育が疎かになっていると聞きます。教員の仕事を精選し、人を増やすこと、少人数学級の実現が必要です。「女性が輝く社会」が掲げられていますが、現状では結婚し、子どもを育てることは難しく「優れた教員の確保」も「教師力の向上」も望めないでしょう。</p>	<p>○少人数学級については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。また、その他の教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでいますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
<p>施策9</p>	<p>○現場の状況については、教職員にアンケートをとられたり現場の声を直接聞くなどして、理解しようとしてくださっていることは今までになかったことなので、感謝とともに期待しております！！中学校は初任から、部活指導や生徒指導に忙しく、ほとんど休日もないままに普段の日でも、22時は当たり前、終電まで学校にいる方も多いと聞いています！近隣の中学校も遅くまで明かりがついております。小学校でも、同様です、毎日学級事務に追われ、研修研修に追われ、子どもの話をゆっくり聞く暇もなく、毎日自転車操業状態で、十分な教材研究が出来ずにいます。帰宅も8時、9時、10時、土日も出勤です！</p> <p>このような現状の中で、教師力の向上や教職員の心の健康の維持・向上など望めるでしょうか？？豊かな優れた教師になるためには、自分を高めるために優れた実践を学んだり書物を読んだり、様々な体験をしたりすることにより人間力を高めていけます。教職員の豊かな感性や情操の醸成も大切です。また、教材研究を学びきちんと行っていくことにより確かな学力の向上にも繋がります。心のゆとりを持って、子どもと向き合っていくことにより、いじめを未然に防いだり、不登校の児童生徒に寄り添えたりすることができます。豊かな心の育成につながります。</p>	<p>○教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>施策9</p>	<p>○根本的にこの計画では間違っていると思うこと。市教委は、今年6月に「教職員の業務実態に関する調査」をされ一人平均 2.5～3時間/日の長時間（時間外）勤務が結果として示された。そのことに対して、「教職員の負担軽減を考え教育の質的向上につなげていきます。」と明言されたのではないのでしょうか。この基本計画の内容と数値目標を本気になって達成しようとするなら、増々教師は多忙化になるのではないのでしょうか。</p>	<p>○達成目標は計画の成果を測る一つの方法として設定したものです。教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでいますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>施策9</p>	<p>○教員については、教員生活の営みそのものを持続的にするために、校務文書などの形式的な書類の半減を目指したりして、教材研究や生徒との時間を増やしたりする努力が喫緊の課題ではないのでしょうか。生徒が元気になる（＝自尊感情が高まり、希望をもつ）には、教師がまずそういう存在にならなくてはならないのだと思います。横浜市は、国際的にも低い日本の生徒の自尊感情を教師自身の変容から変えていく優良事例となってほしいと願っております。</p>	<p>○教員が授業や児童生徒指導に専念できるように、現在負担軽減に向けて取り組んでおります。教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見 (概要)	考え方・対応
施策9	<p>○教職員が働きやすい職場づくりに是非取り組んで欲しい。働きやすい職場となるためには、先ず、ただ働きの無い当たり前の労働時間になること、勤務時間内に授業研究や生徒と向き合う時間が確保できること、校長、副校長を始め教職員全員が真摯な議論を通して学校運営に関われること、更には教育委員会が現場の先生の声に耳を傾け、学校運営に反映させること等が保障される必要がある。現状がそうならないなら、先ずはそれらの状況を改善すべきである。</p>	<p>○教員が授業や児童生徒指導に専念できるように、現在負担軽減に向けて取り組んでおります。教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策9	<p>○どんなに優秀な教師であっても、学校での活動が多岐にわたりすぎ時間的な余裕がないとすると、授業の準備に費やす時間もなくなり、授業の質の向上は望めなくなるのではないのでしょうか。学校での授業以外の活動、教師の研修も良いのですが、研修へ行ってる間はその先生のクラスは自習になり授業はなくなります。本来のあるべき姿として教師が授業に専念できる環境を再考していただきたいです。</p>	<p>○教員が授業や児童生徒指導に専念できるように、現在負担軽減に向けて取り組んでおります。教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
<p>施策9</p>	<p>○計画作成の基本姿勢について。業務実態調査結果を活かせ！一読して大いに落胆しました。私の現職時代と変わっていないどころかさらにひどくなっていると感じられます。最大の問題は、今回も計画作成に当たって現場教職員の声を少しも聞いていないことです。現場から離れた方たちが、従来の計画に諸般の情勢を加味して作成した中身を上から現場に下ろし、しかも保護者・市民に一斉に配布して意見を問うという形です。本当に現場の声を事前に丁寧に聞き出してみれば、少しは現場教職員を励まし現場に役立つ計画作りにつながったはずですが、それを欠くために、この計画も現場を苦しめるだけの物になってしまうと思います。現場教職員がこれを読んで、励まされたりやる気を高めると本当に思っているのでしょうか。そんなことは眼中にないのではとさえ思われます。はっきり言って今までと同様にこのような計画に何の期待も持たず、全128ページを読み通す気などないのです。我慢して読んだ人も「もっときつくなるのか」と相当ゲンナリしたはずで、「教育を司る」はずの現場教職員を無視した計画で良いのでしょうか。昨年11月から今年2月にかけて行われた「教職員の業務実態に関する調査」の結果が出ています。計画作りに当たってこの結果をどこまで深刻に受け止めているのでしょうか。午後の9時10時まで職員室の明かりが付いている学校が普通となっていますが、平日の平均勤務時間が11時間27分で、2時間57分の時間外勤務という結果です。その異常な超過勤務がどれだけ教職員を疲弊させ教育の質を損なっているのか、また何がその超過勤務を引き起こしているのかを徹底的に調査・分析し、その対策を考え大胆に実行することこそが求められます。「教職員の負担軽減を教育の質の向上につなげていきます」という調査結果発表の際の言明は、単なる努力目標ではなく至上命題でなくてはならず、今回の「横浜市の教育振興基本計画」は、労働時間の違法状態を無くすための「業務改善計画」としても機能するものでなくてはなりません。また、調査結果は「教職員は、児童生徒の成長にやりがいを感じ、授業を最も大切にしています」とし、最も大切だと考えている業務は「授業」(87.2%)や「授業準備」(53.5%)であるにも関わらず、「勤務時間内に「授業準備」にかかる時間が十分にとれていません。」としています。ここから見えてくる改善の方向は自ずと明らかです。「教職員が十分に授業準備に時間をかけ、授業に全力を注げるように、それ以外の枝葉の部分に極力削減する」ということです。また、時代の要請によって避けられない新たな業務については、十分な人員配置をすることが必要です。そうした観点からすれば、今回の計画素案はまるで逆行していると言わざるを得ません。枝葉の部分がさらに増えただけで肥大化し、しかもそれらを達成目標までつけて実行させようとしています。日々約3時間の時間外勤務を強いられている現状なのにさらに仕事を増やす方向です。心と体を病む人が今以上に続出しますよ。市教委は教職員をスーパーマンだと考えているのでしょうか。その意味で、勤務の違法状態をなくすよう、抜本的な計画の見直しを要請します。</p>	<p>○計画策定に当たっては、現場との意見交換なども行いながら、現場の声を踏まえて策定しております。また、教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策9	<p>○「誇りや使命感に満ちた信頼される教職員を確保・育成します」と言っていますが、残念ながら現状の横浜の教職員は、日々「誇りや使命感」をすり減らして元気を失っているように見えます。何故でしょうか。一つには、子どもの教育という本来の仕事以外の雑多な用務に振り回されとにかく多忙なのです。平日の平均勤務時間が11時間27分、2時間57分の時間外勤務がそれです。二つ目には、ミスをするな、保護者ともめ事を起こすな、何でも管理職に知らせろという強烈な圧力があるせいです。少しも自由でなく、自分で考えて行動するのはとても危険だと思わせられています。何でも上意下達。この基本計画が見事にその形です。計画ができた段階では、多分管理職も「先生方、大変でしょうがこれをお願いします。」などと言い、主幹教諭や担当者はやむなく実施計画を立て、皆は一応それを実施（したこと）にする。情熱を傾けて取り組む仕事にならないのです。全国どこでもこのような傾向が強まっているのではと思われませんが、「横浜は特にヒドイ」と言われてしまっています。横浜から県内他都市に異動した人などからそんな噂も広まるわけです。</p>	<p>○教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでいますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策9	<p>○「教師力の向上」について、各ページに重点取組や取組事業の内容や説明が記載され、「学校が取り組む事業」、「学校教育事務所が取り組む事業」、「教育委員会事務局が取り組む事業」が列記されていますが、先生方の多忙という根本問題の解決がない限り、更に先生方を追い詰めるか、机上のプランの列記で終わってしまいます。先生方は教育委員会から降りてくる事業の推進やそのための準備、報告に時間がとられ多忙の極みにいます。これは教育委員会が行い、新聞にも結果が載ったアンケート調査でも明らかです。</p> <p>真に「教師力の向上」を願うならば、そのために先生方が教材研究や仲間との学習に使う時間を確保出来るよう、これを保証することが、「教育委員会事務局がまず取り組むべきこと」ではないでしょうか。</p> <p>先生方を追い詰めた挙句にメンタルヘルスのサポートを行うのでは、やっていることが逆ではないかと心配です。</p>	<p>○教員が教材研究や授業準備に専念できるよう、現在、負担軽減に向けて取り組んでおります。教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策9	<p>○教務主任の専任化には基本的に賛成だが、教務主任と決めて加配をする方がいいのか、学校の裁量で自由に活用できる加配がいいのか、十分に検討した上で実施してもらいたい。</p>	<p>○教職員の配置については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策9	<p>○団塊世代の先生方が大量退職し、最近若い先生が増えてるように思います。</p> <p>今後、若い先生方は男女どちらにかかわらず、結婚、妊娠とともに産育休に入ると思います。その際、教育委員会から赴任される臨時任務の先生は、学校に在籍されていた先生ではなく教育委員会から送られてくる方です。子どものことどころか、学校の事さえよく分からないまま赴任されることに強い不安を覚えます。</p> <p>学校の教室運営の視点から見ると、先生が若いかな否かにかかわらず、担任の先生を2人（一人は副担任として短時間でも良いです）配置し、常時、各学校には余裕の先生を置いていただき（短時間であれば複数人）たいです。休職・休業する際に臨時任務の先生を受け入れる体制を準備し、ともに担任業務を務めることができるような体制を作ってほしいと願います。</p> <p>学年の途中でクラス担任が変わることは、単に担当が変わるだけのことではありません。まさに「変化」だという視点に立っていただき、クラス運営、ひいては学業充実などにも影響することと考えます。</p>	<p>○育児休業取得者等の増加による人材確保については、素案の目標3の現状と課題に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策9	<p>○正規の教職員（非正規が多くなっているの）を増やすこと。当たり前の働き方の条件を整えてください。（長時間勤務を改めること。特に、成績業務の作業は時間的、精神的にゆとりをもてるような環境で行えるように。）</p>	<p>○教職員の配置については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。</p>
施策9	<p>○児童支援専任教諭及び少人数指導や習熟度別授業のこれ以上の拡大ではなく、小学校3年生から中学校3年生までの市予算措置を伴う少人数学級を早期に実現していくことを明記する。</p>	<p>○少人数学級については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。</p>
施策9	<p>○一クラスの人数を30人程度としていただきたいと思います。現在3年生の息子は、昨年度まで28人のクラスで学んでおりましたが、転出の関係で今年度から39人のクラスとなりました。参観日などの限られた機会ではしか拝見しておりませんが、一人ひとりの発表（発言）時間は減りますし、クラス内にやんちゃなお子さんがいらっしゃる場合は特に、どうしても先生の目配りが行き届いていないように感じます。先生の資質ではなく、物理的な問題のように感じております。</p>	<p>○少人数学級については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
<p>施策9</p>	<p>○学校現場では配慮の必要な児童が入学してきても、個別支援学級に入らないと一般学級に入って担任の先生の手をそのお子さんととられてしまいます。担任の先生はいつも一生懸命に指導して下さるけれども、あまり学校に顔を出す機会のない保護者にもその大変さが分かります。手のかかるお子さんを責めたいのではなく、学校現場にあまりにも余裕がないと思います。</p> <p>優れた人材を確保するとか教師力を向上させるとかの名目は分かりますから、そのために人手を確保するような手立てをしてください。横浜市は全国に比べて授業日数が多いですね。こういうことを横浜市独自でするなら、学級定数を35人とするという画期的な施策を期待します。</p> <p>1学級21人と40人では一人の子どもに担任の先生目が向く時間がとても違い、絶対不公平です。これは教師がどんなに頑張っても学校の組織力を高めても解決できることではありません。「予算がない」という話は良く聞きます。でもお金がなかったら子どもたちにかかる手立てを削ってもいいのですか？また、頑張っている先生たちが次々と療休に入ってしまう現実を委員会はそのままにしておくのですか？</p>	<p>○少人数学級については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。また、その他の教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>施策9</p>	<p>○今後5か年で重点的に取り組む施策を実現させるにあたり、教員のゆとりがなければ実現は机上の空論で終わると思います。子どもたちの家庭教育力の低下や豊かな日本での教育の在り方など、様々な要因による子どもたちの現実を踏まえると、教員は教材研究や児童・生徒指導にもっと力を入れなければなりません。また、保護者対応にも地域によっては苦勞しているのが現実です。あれもこれもそれもと委員会や国から指示が来ても、教職員は対応が追いつきません。ノー残業デーや休憩時間の確保、振り替えの休みを取りましょうなどと言われていますが、年休さえ消化できないのに、はっきり言って無理です。土日仕事をしている職員が多いのが現状です。</p> <p>そこで、ぜひ施策の一つに、教職員の人手を増やすことや30人以下の学級実現など、教職員側の心のゆとりが持てる施策を入れていただきたいと思います。</p>	<p>○教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、具体的な改善については、今後着実に進めてまいります。少人数学級については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>施策9</p>	<p>○最大の柱は、少人数学級の実現ではないでしょうか。適正なのは30人以下になることで、そうなれば子ども一人ひとりを尊重した教育が進むと思われれます。併せて先生方の負担が軽減し、過労死的な状況から脱せるのではないのでしょうか。</p>	<p>○少人数学級については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。</p>



項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策9	<p>○直接教育に係る横浜市として、3年生以降の学年に35人学級を実現する手立て、予算を組み、実現することの必要性を文部科学省に要求すべきです。教育を現状にあわせるのではなく、現状を変えていくために計画にしていきたいと思います。同時に、横浜市として非常勤講師の配置等で、3年生以降の学年の35人学級実現の計画を提起すべきです。</p>	<p>○少人数学級については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。</p>
施策9	<p>○横浜市独自の少人数学級の実現を切に望みます！！中学校三年生までせめて35人以下学級、できれば30人学級にしてください！！これは現場の教職員、また保護者の切なる願いです。そのことによって、5年後の達成目標にも近づく近道であるのは明白です！！</p>	<p>○少人数学級については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。</p>
施策9	<p>○一人ひとりに応じた学習の充実、これこそが学校教育の本務で、教育委員会と教職員が結束して取り組むべき内容です。この実現のために決定的に必要なのはクラスあたりの生徒数を減らすことでしょう。国の制度の壁がありますが、県費から市費への移管に併せて教員の増加に取り組んでください。加えて、「余分な（本務でない）」仕事を極力減らし、そこに割かれている教職員の力を発揮させる手立てを市教委も積極的に推進して欲しいです。</p>	<p>○少人数学級については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。また、その他の教職員の負担軽減については、対応策を素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。</p>
施策9	<p>○考える力を育むための授業改善の推進、この点でもクラスあたりの児童生徒数を減らすことが求められます。40人学級ではなかなか討論型の授業など困難で、説明・講義型になりがちです。さまざまな努力をされていますが、学級定数減に向けた委員会としての努力を希望します。</p>	<p>○少人数学級については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策9	<p>○近年多種多様化する学校現場の課題を解決するために、さらにスクールソーシャルワーカー(以下SSW)の積極的な活用を図る。SSWは、福祉と教育の両面での専門的知識・技術が必要なので、優秀な人材確保のために現役の教員の中で福祉の専門的知識・技術を持ちあわせている人間(社会福祉士や精神保健福祉士の国家資格保持者)を有効活用する。</p> <p>SSW活用制度が始まってまだ年数が浅いが、徐々にその効果は表れている。しかし、福祉と教育の両面での専門的知識・技術をもちあわせているSSWの人材確保が困難と聞く。例えば退職校長などがSSWとして配置されても、すぐに福祉の専門家になるのは難しいのは容易に想像がつく。加えて週に何回かの非常勤勤務の形態で、じっくりと時間をかけて課題解決に取り組むには不十分である。退職校長の非常勤2人分の人件費で、きちんとしたSSW(教育と福祉の専門家)常勤1人を雇用できるのではないかと。その際、あらたに採用式円を実施すると費用が掛かるため、今いる人材をより活用した方が、税金を大切に使う意味でもコスト削減になる。さらに、SSWの積極的活用は児童・生徒のみならず、教員のコンサルテーションの機能もあるので多忙な教員の負担軽減につながり、教員の心の健康の維持・向上にも役立つ。現在SSWは神奈川県教育委員会(県費職員)と横浜市教育委員会(市費職員)で雇用している。横浜市立小学校・中学校の現任教職員が県費職員から市費職員はスムーズに移管出来れば人材確保の一つの方法になるのではないかと。</p>	<p>○スクールソーシャルワーカーの配置充実については、素案の施策9重点取組3に盛り込んでおりますが、いただいたご意見も踏まえながら、着実に計画を推進してまいります。</p>
施策9	<p>○ICT活用については、例えば、「通知表の作成は、手書きの方が、現行よりもミスが減らすことができ、幾重もの点検時間が削減できるので所要時間が減る」などの声が現場から起こっていることを勘案した施策に修正すること。</p>	<p>○いただいたご意見については、現場の声も踏まえ、取組を進めてまいります。</p>
施策9	<p>○教職員が時間的・精神的余裕を持ってあたりまえの教育活動に専念できるようにするために読書活動活性化拠点校、授業力向上推進校を設置しないこと。</p>	<p>○教職員が時間的・精神的余裕を持てるような取組について、素案の施策9に教職員の負担軽減に向けた取組として盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策 9	○教員の事務負担の軽減の考え方には賛成するが、定時退庁日の実施については、かえって休日出勤を増やすことになりかねないのではないか。	○教職員の事務負担の軽減については、対応策を素案の施策 9 重点取組 3 に盛り込んでおりますが、いただいたご意見にきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策 9	○給与等の政令市移管に伴って、今までの給与、権利、福利厚生が低下しないようにする。	○県費負担教職員の市費移管については、素案の施策 9 重点取組 4 に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策 9	○県費負担教職員の市費移管への対応、教職員の旅費について。先生の交通費は修学旅行ひとつで予算がなくなってしまい、あとは先生の自腹のようです。市の予算で先生の交通費を保障して教育活動に活かしてください。	○県費負担教職員の市費移管については、素案の施策 9 重点取組 4 に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策 10	○学校教育事務所への人員配置に養護教諭も入れる。現在 4 つの教育事務所に養護教諭経験者がいない。不登校、怪我や事故等学校の中で養護教諭が児童生徒や保護者とかかわる場も多い。適切な人的配置に養護教諭もメンバーに必要でないか。	○学校教育事務所へは必要な人材を配置しております。いただいたご意見につきましては、今後の人材配置の参考とさせていただきます。
施策 10	○学校教育事務所によるワンストップの学校支援体制とあるが、事務所と事務局のしっかりした住み分けがある方が望ましいのではないかと思います。	○事務局各課・室と学校教育事務所の間で適切な役割分担を行いながら、学校運営を支援してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策 11	○家庭・地域・学校が連携し子どもの成長を支える体制づくりは、生活が苦しかったり共働きの増えれば難しくなります。	○家庭や地域、学校が単独で子どもの成長を支えることは難しいことですが、それぞれが協力し合うことが重要であると考えているため、そのための取組を推進してまいります。

項目	いただいたご意見 (概要)	考え方・対応
<p>施策 11</p>	<p>○学校・地域コーディネーターですが、認知度が低く、地域からも学校からも認識されず、辛い思いをしています。また、無報酬であるにも関わらず、いつまでやればいいのかも分からず、そういうことが原因で辞めていく人が多くいますし、なり手を見つけるのが大変です。その為に学校にとっても地域にとっても有効な活動が出来なくなるという悪循環も生んでいます。学校（校長先生）から声をかけられてコーディネーターとして子どもたちや学校、地域を支援したいと思って活動を始めた人たちが犠牲になるのはおかしいと思います。コーディネーターを有効に活かす仕組みづくりが必要です。</p> <p>学校は養成講座に参加することで初年度は3万円、その後は申請をすれば委託金を手に入れることができます。運営委員会を作り、そこが申請をすることになっていますが、学校がその作業をしているところがあります。活動の実態やコーディネーターの実数等の調査をすべきだと思います。</p> <p>また、コーディネーターが一人では辛いことが多いので複数名が必要です。全校に複数名配置、また数年で更新する仕組みづくりが必要です。更にお互いの情報を共有するネットワークづくりが必要です。今後今の活動以上のことを求められるのであれば職務としての待遇も検討すべきと思います。</p> <p>全校に複数名の配置をする。任期を設ける。フォローアップの講座を行う。ネットワーク作りに協力する。</p> <p>学校によっては、キャリア教育や様々な授業等に企業や地域の方々を結びつけています。企業やNPO法人として活動する団体の資源を教育に結びつけるためのコーディネーターとしての活動をより活性化させるために、学校地域コーディネーターの有志で、「Yokohama 学校地域コーディネーター・フォーラム」を開催しています。自分の地域だけでなく、横浜市内の子どもたちみんながその恩恵を受けるべく活動しています。是非フォーラム自体も支援していただきたいです。</p> <p>土曜日の活用が始まり、その需要は増えるはずですので、協働していくことが大切だと思います。横浜の場合、多様な活動になっているために、活動が様々でコーディネーター同士がつながりにくい面があります。しかし、コーディネーター養成講座では地域のことのみをしている学校でも将来的にはキャリア教育を担ってもらいたいとお話があり、そのようなことを念頭に置いて養成しているのであれば、活動しやすい状態にしていきたいと思います。</p>	<p>○学校・地域コーディネーターの認知度が低いことは課題としてとらえており、今後も認知度の向上に向けた取組を行ってまいります。また、その他にいただいたご意見についても、今後のより効果的な学校・地域コーディネーターの活用に向けて参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策 11	○学校・地域コーディネーターの配置のスピードが遅い。早く全校配置すべきである。実態を調査して充実・活性化を図ることを期待する。	○学校・地域コーディネーターについては養成・配置、活動環境の整備を進めていく計画になっていますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策 11	○学校・地域コーディネーターをどうしたいのか、具体的でないし研修終了後のフォローが全くされていない現状を見ても、横浜市としてこのコーディネーターに何をしてほしいと制度化したのかも疑問になってしまう。しっかりした施策を熟望する。	○学校・地域コーディネーターについては養成・配置、活動環境の整備を進めていく計画になっていますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
施策 11	○児童生徒が地域の行事に参加できるような校長の方針にしてほしい。地域に貢献するような学校の方針にするよう周知してほしい。	○学校の方針は各学校が決めるものですが、横浜市として、子どもの成長を社会全体で支える体制づくりを行っていきたいと考えておりますので、計画の推進に当たっては、学校現場にも丁寧に説明してまいります。

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
<p>施策 11</p>	<p>○地域活動への参加には、大変賛成いたします。地域防災訓練の児童生徒の参加を増やすということについてですが、地域防災訓練は自治会ごとに小学校の校庭で行われており、子どもの通っている小学校では、我が家の自宅住所の自治会ではない自治会が防災訓練を毎年行っています。今まではその防災訓練の案内のお便りが学校から配布され、毎年参加可能な日は、親子（親は過去にPTA本部役員として参加）で参加しておりました。何かあったときは、通学している小学校に避難するように子どもに伝えております。通っていない小学校には知り合いが少ないため、避難場所にはしにくいのが実情です。</p> <p>ですが、3年くらい前から、防災訓練をしている自治会以外の住所の児童には、学校配布の防災訓練のお便りが届かなくなり、我が家は防災訓練に参加できなくなりました。学校側が、防災訓練の参加地域を線引きすることは、この施策に反しているように思われます。東日本大震災の際には、学校が避難場所になり、避難場所の運営は学校の先生とPTAと地域の方々がやっていたという話を聞くと、PTAとしてお手伝いをしていきたいと思うお母さんも多いと思うので、住所での線引きがいいとは思えません。</p> <p>複数の自治会で小学校が成り立っている場合や、1つの自治会がいくつかの小学校にわかれている場合がたくさんあります。ほとんどの家庭で自治会に入っていないというマンションがあるのも事実です。防災訓練の児童参加をさせる場合は、このようなケースも考慮して対応して頂きたいと思います。</p>	<p>○通学区域と地域防災拠点の関係については、関係局や区役所にも情報提供を行い、今後の取組に対するご意見として参考にさせていただきます。</p>
<p>施策 11</p>	<p>○子どもたち（中学生）の生活態度レベルが低いように感じられます。また、集団生活の規律を守れないお子さんが多いように感じられます。</p> <p>やはり根本は家庭にあるのではないのでしょうか。親と子の関係が良ければ、子どもたちの心は安定し、幸せを感じられそれが、社会へ出ても相手への思いやり、礼儀、秩序を持った行動へとつながるのではないのでしょうか。</p> <p>そして豊かな心が持てて、初めていろいろなものへ目を向けたり興味を持ったりし、それがよりよい学力へとつながるのではないのでしょうか。</p> <p>是非、横浜市の子どものためのより良い環境をつくっていただきたいと思っております。</p>	<p>○豊かな心の育成については、学校での道徳教育の充実には素案の施策3重点取組1に、家庭での教育については施策11重点取組3に盛り込まれていますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見 (概要)	考え方・対応
施策 11	<p>○「家庭の教育力向上のための支援」について。現在、年々家庭内虐待が増加し、また、殺人件数のほぼ半数が家庭内で起きているという報道を知り、心を痛めています。現在ほど家庭教育の再建が急務なときはないと思います。そこを深刻に受け止め、「子の教育について第1 義的責任を有する父母その他の保護者」の教育的支援が急務だと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「将来親になるための心構えと教育」が、高校以降のカリキュラムに入れられることを望みます。</li> <li>・現在、親である人たちへ、子どもの発達段階や、障害をもった子どもへの早い時期からの気付きと対応の仕方についての、きめ細やかな指導と支援が必要であると考えます。</li> </ul>	<p>○ご意見として参考にさせていただくとともに、関係局にも伝えさせていただき、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>
施策 11	<p>○家庭教育が全ての教育の出発点であるという考え方については大賛成ですが、このことを後押しするために教育委員会としては学校にどのような協力をしてくれるのでしょうか。この原点が理解できていない保護者に現場は悩まされているのが実情なので、具体策を考えてもらいたい。</p>	<p>○今回の計画では、子どもの成長は学校だけではなく、保護者や地域の皆様とともに支えていくものだという考えのもと作成しています。保護者の皆様に家庭教育の大切さを伝える取組は、今後学校現場とともに検討してまいります。</p>
施策 11	<p>○貧困家庭が増えています。公助を最大限に活用し、教育の機会獲得を進めてください。現状では、日本の国力が低下する一方です。</p>	<p>○就学援助や奨学金等については、国の動向を踏まえながら、対応を検討してまいります。また、学校と関係機関が連携した児童生徒の支援については、素案の施策 11 重点取組 4 に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 12	<p>○3～4階建の校舎は給食用のエレベーターを作らないのでしょうか。</p>	<p>○学校施設に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>
施策 12	<p>○横浜市では、“横浜の子ども”の健やかな体の育成の実現に向けた重点取組として、食育の推進などによる「健康な体づくり」を推進しております。市立小学校においては、健やかな体づくりに向けて、学校給食が大切な要素であることは言うまでもありませんが、児童の給食を支える、給食室で従事される方々においても、給食室での作業環境性の向上は重要です。また、学校給食調理業務の民間委託を推進しておりますが、給食室での作業環境性の向上は、民間委託後も変わらず重要と考えます。学校給食室の作業環境向上を提案します。</p>	<p>○学校施設に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策 12	<p>○小学生は防災ずきんがありますが、中学生はなし。折りたたみヘルメットを準備するのはどうでしょうか。</p>	<p>○防災ヘルメットについては、素案の施策 12 重点取組 1 に盛り込まれており、小学生を対象に平成 26 年度より配備を開始しています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 12	<p>○横浜市では、「横浜市公共施設の保全・活動方針」の中で、ライフサイクルコストの最適化等の「経済性」を推進しており、学校整備においても「経済性」は重要な要素と言えます。また、東日本大震災以後、多くの市民が「防災性」と「節電」について関心を高めており、学校整備においては、子どもたちの安全確保に加え、地域の避難所としての役割が大切になり、「防災性」を兼ね備えた学校が重要と考えます。加えて、震災以降の電力不足に対応した「節電」への取り組みについても教育機関として継続していく必要があると思います。</p> <p>これら「経済性」「防災性」「節電」といった重要な要素を踏まえ、具体的な提案と関連する技術について、以下に掲載させていただきます。</p> <p>「空調設備の設置」を「経済性、節電に配慮した空調設備の設置」と記載することを提案します。</p>	<p>○空調設備の設置については素案の施策 12 重点取組 1 に盛り込まれておりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 12	<p>○「市立小・中学校の体育館について経済性、防災性、節電に考慮した空調設備の設置」を記載することを提案します。</p> <p>体育館内は夏、高温多湿になりますが、高温多湿の環境下で、児童が運動を行うことは、必要以上に児童の体に負担がかかり、児童が熱中症にかかる危険性も高くなります。児童が熱中症にかかるリスクを低減する為、学校体育館への空調設備導入は不可欠と考えます。また、横浜市では、「横浜市防災計画 都市災害対策編」の中で、地域防災拠点として市立小・中学校が指定されております。その中で体育館は、被災した地域住民の避難滞在場所としての機能を期待されることから、体育館の空調設備には、経済性、節電だけでなく、防災性にも配慮することが大切であると考えます。</p>	<p>○空調設備の設置については素案の施策 12 重点取組 1 に盛り込まれておりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 12	<p>○特別教室（図書室・理科室・美術室（図工室）・調理室（家庭科室））への空調設備の設置とあるが、技術室（木工室、金工室）も加えてほしい。技術の実習は安全上の配慮から夏場でも長袖着用で行っている。生徒の集中も持続せず教育効果を上げることが困難な状況で授業を行っている現状を改善してほしい。技術室に空調設備を設置しないなら、その理由を答えていただきたい。</p>	<p>○空調設備の設置については素案の施策 12 重点取組 1 に盛り込まれておりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>



項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策 12	<p>○学区の見直しを検討していただきたいです。学区の境界付近に住んでいる家庭には通学路や各家庭の事情も考慮して、自宅付近の小学校から選択できる様にしたいと思います。学区外への越境についても、当時の校長先生の考え次第で、今年は良くても、次に来た校長先生が越境を認めなければ、その年はダメとか、越境するなら校長先生の出す条件に従わなければいけない…という感じでした。そして越境しても中学校はまた学区指定の学校に戻されてしまうと言われました。小中一貫というのなら、小学校を越境した子は、その小学校の子どもたちと同じ学区の中学校に進学できるようにすることはできないのですか。柔軟な対応を期待しています。</p>	<p>○通学区域に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○本を読ませるだけでは不十分なので、「地域全体で読書活動を推進します。」を「地域全体での学習活動を推進します。」に、「区の地域性に応じた読書活動」を「区の地域性に応じた学習活動」に変更。</p>	<p>○読書活動については、素案の施策 13 重点取組 1 に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○想定事業量の 3 つ目の「読書活動団体等」を「学習活動団体等」とする。</p>	<p>○読書活動については、素案の施策 13 重点取組 1 に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○学校図書館を放課後も開放してほしい。区の図書館は学区外にあり、友達と放課後に行くには遠い。学校図書館が放課後に利用できれば、読書がもっと身近になると思います。</p>	<p>○学校図書館の活用については、素案の施策 13 重点取組 1 に盛り込んでおりますが、いただきましたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○区役所・図書館・学校の連携により、地域全体で読書活動を推進しますに、市民図書室の記載がありませんが、市民図書室を有効に活かしてほしいと思います。</p>	<p>○読書活動の推進については、素案の施策 13 重点取組 1 に盛り込んでおりますが、市民利用施設や読書活動団体との協働により読書活動を進める中で、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策 13	<p>○地域の特性に応じた読書活動の推進－「横浜市民読書活動推進計画」の推進について。</p> <p>本年度4月より「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」が施行され、各区での取組が少しずつ動き出していることを聞いています。教育委員会事務局が取り組む事業の一つとして、区役所・図書館・学校の連携による区ごとの活動目標の策定とありますが、できれば、この部分から市民に参加をさせていただきたいと願います。というのは、この活動目標の策定という項目の下に列挙されている読書活動団体等との連携、ネットワークづくり、ボランティア向け講座など、すでに取り組んで実績・経験を積んでいる市民の方々・グループが数多くあると知っているからです。これらの市民の方々に計画策定の段階から関わっていただければ、より具体的で市民の読書の実情に即した計画が作れると思うのです。また、市民が関わって作られた計画ということであれば、連携やネットワークづくりなどはよりスムーズに運ぶのではないのでしょうか。</p>	<p>○読書活動の推進については、素案の施策 13 重点取組 1 に盛り込んでおりますが、各区で現在策定を進めている区の読書活動の活動目標については、区民の方や読書活動団体のご意見を伺いながら、策定を進めているところです。</p> <p>いただいたご意見につきましては、引き続き、読書活動を進める中で、参考とさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○横浜市は、他の大都市と比較して市民1人当たりの蔵書が大幅に少ないようです。そのため、蔵書を増やすための予算を従来以上に増やしてもらいたい。その予算を児童を含めた市民の読みたい本に重点的に充ててもらいたい。</p>	<p>○図書館サービスの充実については、素案の施策 13 重点取組 2 に盛り込んでおりますが、蔵書の充実に努めてまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○「市民の学習活動の支援」に基本的に賛成ですが、「図書館サービスの充実」に関わって以下の点についてご検討いただきたいと存じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>蔵書の質の不足を実感しています。10年前に比べ半額に減額された資料購入費の増額と、市民の多様なニーズに応え電子書籍、CD など多様なメディアの資料の収集拡充を希望します。</li> </ul>	<p>○図書館サービスの充実については、素案の施策 13 重点取組 2 に盛り込んでおりますが、蔵書の充実に努め、電子書籍への対応についても検討してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○「市民の学習活動の支援」に基本的に賛成ですが、「図書館サービスの充実」に関わって以下の点についてご検討いただきたいと存じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館レファレンス機能の拡充を進めていく上で、遠隔地からの利用の利便性を高めるため図書館（区役所）駐車時間の減免措置の再検討を要望します。30分では返却貸出だけで終わってしまいます。本を選び、司書への相談、資料調査などをするには最短でも1時間は必要です。</li> </ul>	<p>○図書館サービスの充実については、素案の施策 13 重点取組 2 に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
施策 13	<p>○「市民の学習活動の支援」に基本的に賛成ですが、「図書館サービスの充実」に関わって以下の点についてご検討いただきたいと存じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在行われている指定管理（山内図書館）、業務委託（都筑・戸塚図書館）は市全体の図書館の一体的運営、市民協働による持続的運営の観点から、市が責任をもって行う方式に戻すことを要望します。</li> </ul>	<p>○図書館サービスの充実については、素案の施策 13 重点取組 2 に盛り込んでおりますが、今後指定管理者制度の効果・課題を検証し、効率的な図書館運営のあり方を検討していきます。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○図書館サービスの充実について。</p> <p>市民の生活課題解決に役立つリファレンス機能の強化と書かれています。個人的に医療や健康情報を得ても、どう役立てるのかわからない場合も多いと思います。次に自分がどう動くべきなのかを図書館として示していただければよりベターだと思いました。例えば、医療・健康に関する相談窓口として福祉保健センターがありますが、これは各区役所にあり、図書館と同じ行政の管轄下にあります。都筑図書館などは同じ総合庁舎内です。どちらも税金を使って運営している行政機能なのですから、うまく連携して問題を抱えて戸惑う市民が一人でも多くその課題を解決できるように動いて下さると嬉しいです。ICTタグや業務委託なども運営効率化の一助となるでしょう。しかし、そのような設備に頼る前に、行政の各部署が効率よく連携してくれることも非常に大事なことだと思いました。団塊の世代がまもなく一斉に後期高齢者となり、介護サービスのニーズはますます大きくなっていくでしょう。そのような時、強力な味方として、区役所の各機能と連携して動いてくれる頼りがいのある市立図書館であって欲しいと思います。</p>	<p>○図書館サービスの充実については、素案の施策 13 重点取組 2 に盛り込んでおりますが、今後図書館が区役所と連携して取組を進める中で、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○公立図書館の振興・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区センターとの連携・ネットワーク</li> <li>・ 蔵書の充実化（図書館ファンド）</li> <li>・ 市民との協働の推進</li> <li>・ 読書活動推進計画のPDCA管理</li> <li>・ 図書館長の公募</li> </ul>	<p>○図書館サービスの充実については、素案の施策 13 重点取組 2 に盛り込んでおりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○重点取組名を「横浜の歴史に関する」から「横浜及地域に関する歴史及文化に関する」に変更。</p>	<p>○「横浜」という表現には、「地域」も含まれていると考えておりますが、ご意見として参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
施策 13	<p>○小学校にある歴史資料館を活用すべきだと思います。資料室はその地域の特性があるのでそういう部分も生かしてもらいたいと思います。またそのような資料室のネットワーク作りも行う必要があると思います。</p>	<p>○歴史学習の機会の充実については、素案の施策 13 重点取組 3 に盛り込んでおりますが、本市の外郭団体である「(公財) 横浜市ふるさと歴史財団」では、小学校に保存されている歴史資料を整理展示し、歴史資料館として活用できるよう支援をしております。</p> <p>いただいたご意見につきましては、こうした取組を進める中で、参考とさせていただきます。</p>
施策 13	<p>○横浜の歴史に関する学習の場の充実          ここは市民の学習に関する取組ですが、同時に「学校教育で活用できる学習プログラムの充実も図る」としています。横浜市歴史博物館や横浜開港資料館は、市民にも馴染みが深く、特に特別企画展は興味深いものが多く、子どもたちの学習にも適していると思っています。</p> <p>普段、学校では学ぶのが難しい歴史や平和の実地教育に役立ちます。幕末の開港から現代に至るまでは勿論、横浜市には多くの古代遺跡があります。子どもたちに現場を見せてあげる取組事業を入れてください。歴史に対し一挙に好奇心が湧くはずですよ。</p>	<p>○歴史学習の機会の充実については、素案の施策 13 重点取組 3 に盛り込んでおりますが、今後、博物館において、学校教育で活用できる学習プログラムの充実に取り組む中で、いただきましたご意見につきましても、参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
<p>施策 13</p>	<p>○読書活動の推進の方針とのことですが、それら図書に関しての意見があります。図書について、横浜市で扱われている図書に疑問があります。最近メディアや、国際的にも議論を呼んでいる「従軍慰安婦」「性奴隷」や「日本軍による強制連行」などの記載のある図書に関してです。現在、市立図書館には、吉田清治による虚偽の証言などが、そのまま事実であるかのように記載されている図書が見受けられます。横浜市として、そのような図書が今までも、これからも、このまま子ども達が読んで良いとの判断をされるのでしょうか。</p> <p>横浜市立図書館で見受けられる、そのような事実と違う内容の記載の問題や、証拠の不確かなごく一部の主張などを記載する図書についての在り方を改めて検証していただき、子ども達が間違った認識を持つことや日本人としての罪悪感を抱く恐れのある図書については、削除や訂正、または追加記載などの対応をされた上で、改めて読書活動の推進を行っていただきたいと考えております。</p> <p>横浜市としての教育の責任を、今一度考え直していただきたいと切に願っております。横浜市を故郷とし、横浜市の歴史に誇りを持ち、これから生きていく子ども達が横浜市から清く豊かな健やかな教育を受け、人々の為に、日本の国のために、世界の国々のために、立派に羽ばたいていくことを期待しております。</p>	<p>○ご意見として、参考にさせていただきます。</p>
<p>達成目標</p>	<p>○5年後の達成目標とありますが、目標値を達成するために、子どもへの強制や負担が増え、子どもを委縮させると思えます。目標値を設けることをやめてください。</p>	<p>○達成目標は計画の成果を測る一つの方法として設定したのですが、いただいたご意見も踏まえ、学校現場には丁寧に説明してまいります。</p>
<p>達成目標</p>	<p>○達成目標の数値を削除してください。目標のうち、「将来の夢や目標を持つ」生徒「自分には良いところがある」と自己肯定感を持つ子どもが増えるようにしなければなりません。目標を数値で決めることは難しく、教育的ではありません。学力テストのポイントを上げることが教育の目標でもありません。子どもたちが自己肯定感や将来に希望をもつことができる教育はどうしたらよいか、述べたことをまず実現してください。</p>	<p>○達成目標は計画の成果を測る一つの方法として設定したのですが、いただいたご意見も踏まえ、学校現場には丁寧に説明してまいります。</p>
<p>達成目標</p>	<p>○学力を全国と比較しても意味はないと思います。小中では県レベルが良いと思います。</p>	<p>○あらゆる視点から学力を分析していくことは大切だと考えております。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
達成目標	<p>○全国学力・学習状況調査では「2018年度までに全国平均よりも3ポイント以上、上回る」と目標値を掲げているが、そもそもこの調査の点数が学力を正しく反映しているとは言い難いこと、平均点を上げるために調査前の授業が過去問題を解くことに偏る危険があるなど弊害が大きすぎるので、目標値の提示を削除すること。</p>	<p>○達成目標は計画の成果を測る一つの方法として設定したのですが、いただいたご意見も踏まえ、学校現場には丁寧に説明してまいります。</p>
達成目標	<p>○全国学力・学習状況調査で目標値を掲げていることに違和感があります。一つの調査で学力が正しく反映されるものでしょうか。平均点を上げるための授業が行われ点数が上がったとしても、子どもたちの学力が上がったことになるのでしょうか。教育委員会は、教員の負担を軽減し、学級の人数を減らし行き届いた先進国並みの教育条件整備に何よりも力を注いでください。</p>	<p>○達成目標は計画の成果を測る一つの方法として設定したのですが、いただいたご意見も踏まえ、学校現場には丁寧に説明してまいります。</p>
達成目標	<p>○全国学力・学習状況調査について、「2018年度までに全国平均よりも3ポイント以上上回る」という目標など何を考えているのかと憤りさえ禁じ得ない。これを達成しようと思えば今までも間違った事例がいくつもあったように必要な授業を削いででも過去問を解く時間を入れたりすることになる本末転倒の教育を招きかねないと思います。</p>	<p>○達成目標は計画の成果を測る一つの方法として設定したのですが、いただいたご意見も踏まえ、学校現場には丁寧に説明してまいります。</p>
達成目標	<p>○達成目標にある全国学力テストについては、数値だけにとらわれすぎないようにお願いしたい。数値だけで学力を評価するのであれば、学校の評価を絶対評価ではなく、相対評価にすべきではないか。世の多くは絶対評価ではなく他者との比較です。そうであれば、子どものころから相対評価でもいいと考えます。もしそうでないならば、全国学力テストだけ他者との比較というのはいかがなものでしょうか。</p>	<p>○達成目標は計画の成果を測る一つの方法として設定したのですが、いただいたご意見も踏まえ、学校現場には丁寧に説明してまいります。</p>
達成目標	<p>○5年後の達成目標に「自分の住んでいる地域には良いところがある」と答える子どもの割合。をどこかに入りたい。</p>	<p>○地域に対する思いについては、素案の施策1重点取組2に「地域の行事に参加している子どもの割合」でも把握できると考えておりますが、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見(概要)	考え方・対応
達成目標	<p>○5年後までに横浜の教育が達成すべきことは、子どもたちや学校に数値目標を達成させることではない。直近の目標値を30年度の目標値に引き上げるための方策は、「今後5年間で重点的に取り組む施策では、条件整備がうたわれず、学校現場と教職員、保護者の努力と、外部機関との連携ばかりが挙げられている。これでは、ますます学校現場に余裕をなくし、負担を増大させるばかりである。目標達成のためにどれだけの人的配置と施設設備の設置と改善をするかが述べられていないのでは絵に描いた餅であり、このまま計画が決まれば、さらなる学校の疲弊に突き進むだけである。</p> <p>達成すべき目標は「格差をなくし、子ども一人ひとりにゆきとどいた教育を実現すること」、「35人以下学級を小学校3年生～中学校3年まで達成すること」、「中学校給食を年次計画でもよいから、完全実施すること。」「人格の完成を目指し、人権意識を高め、平和を希求する精神を涵養する教育ができる環境を整えること」</p> <p>今の教育振興基本計画は、学校や子どもたちから、ゆとりと創造性を奪い、為政者の求める偏狭な数値目標の達成を掲げている。教育は、時の権力の「国家」構想を実現するための道具であってはならない。子どもたちが平和的で民主的な社会の形成者として育つためのものでなければならない。</p>	<p>○達成目標は計画の成果を測る一つの手法として設定したのですが、いただいたご意見も踏まえ、学校現場には丁寧に説明してまいります。</p>
計画全体	<p>○横浜市教育振興基本計画(素案)はどのように敷衍していくのか。校長か、先生か、父母か…全体的印象として、お役所的な表現で作文として良くできているように思いますが、具体的に何をどのようにして進めていくのか分からない。このように網羅的なものより、もう少し的を絞り子ども達によく解かるようにしたらどうか。</p>	<p>○今後の計画の説明や広め方、具体性などについてのご意見として、参考にさせていただきます。</p>
計画全体	<p>○計画素案では、立派な紙で立派なことをお書きになっていますが、何一つ具体的に見えてきません。本当に現場を見ていらっしゃるのか疑問です。</p> <p>いくら、研修を重ねられても、現場の実状にあってなければ意味はない。中学生全員が公立高校へ行けるように指導してほしい。もう少し具体的に対策案となることも加えてください。民間の塾に対策を聞くのも手だと思います。</p>	<p>○第2期横浜市教育振興基本計画の現状把握及び具体的な対応策の記載に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>

項目	いただいたご意見（概要）	考え方・対応
計画全体	<p>○基本計画素案のスタンスに関して 基本計画のスタンスとして、以下のことを要望します。</p> <p>①本計画では大綱（骨子）を提示することにとどめること。</p> <p>②大綱（骨子）についてはどの内容を採用するか、採用した内容をどのように具体化するかについてはあくまでも各学校の採用に委ねる趣旨を明言すること。</p> <p>③素案 P111 に掲げる「達成目標」を削除すること。</p> <p>④同時に、大綱（骨子）教職員が、どうしたら基本的で当たり前の教育活動に専念できるか、教育条件の改善も含めて提示すること。</p>	<p>○第 2 期横浜市教育振興基本計画の内容全般に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>
計画全体	<p>○パブコメが既に始まっている段階で、区連合町内会に報告するのではなく、もっと前に説明してもらいたい。</p>	<p>○計画策定過程に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>
計画全体	<p>○学校主催の学校運営協議会等において、計画に対して地域からの意見を出す場を設け、それを校長経由で教育委員会に届け、反映してもらいたい。</p>	<p>○計画策定過程に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>
計画全体	<p>○細々とした計画を立てるのではなく、基本的な在り方のみ止める。</p> <p>日本の学力の劣っているところは「思考力」と言われています。知識はあっても自分の頭で考え、新しいものを生み出す力に欠けています。なぜそのようなことが起きるのか、それは教師自体が考える余裕がなく、決められたことをやることに追われているからではないでしょうか。もっとシンプルにしなければ子どもも教師も育たないというのがその理由です。「達成目標」を見ただけで、学校の独自性・自主性は発揮するどころではなく、こなすのに必死でしょうね。教師の悲鳴がいや悲鳴を上げることさえできないのが今の教師だと聞いています。昔は、生徒の私たちも先生を意識しないで話せたのだと思います。でも、今は心の中までが評価されるのだから、本音は出せないでしょうね。それに教師と児童・生徒とのそんなのんびりした時間は取れないようです。その解決の方法があれやれ、これやれと決めるより重要なのではないのでしょうか。もっと学校や教師を信じて任せることが大事で細々とした決め事や目標はやめるべきだと思います。</p>	<p>○計画全般に関するご意見として、参考にさせていただきます。</p>



項目	いただいたご意見 (概要)	考え方・対応
計画全体	<p>○学校現場の教職員は、授業以外に様々な管理業務の報告書作り等過密な業務に忙殺され、十分な授業の準備もできず、子ども達と接する時間もほとんどない状況と開いています。</p> <p>そんな状況の中で、『第2期横浜市教育振興基本計画』の実務実施担当者は誰なのでしょう。教職員の業務の現状を認識したうえで策定された計画なのでしょう。この計画を実行していくうえで、必要となる人員(教職員)、資機材、研修等の予算は年度ごとにどの程度なのでしょう。現場の教職員の実情に基づいていない計画であれば、見直してください。</p> <p>また、第1期横浜市教育振興基本計画で達成された内容、未達成の内容、問題点や課題の記述は見当たりません。単に時期が来たから、第2期の計画を策定するというだけでは、経験から何も学んでいないことになります。第1期の横浜市教育振興基本計画の実施における問題点・課題・原因と改善・解決すべき内容を、先ず明確にしてください。</p>	<p>○計画の策定は、学校現場からの意見も聞きながら行ってまいりました。</p> <p>また、現横浜市教育振興基本計画の振返りについては、教育委員会で報告し、ホームページに掲載していますので、ご覧いただければと思います。</p> <p><a href="http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/vision/kyoshinn.html">http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/vision/kyoshinn.html</a></p>
計画全体	<p>○いろいろな施策はすべて「良かれ」と思っていることでしょう。しかしながら、現場の思いと大きなずれ違いが生じているように思います。もっと、現場の声を聞くべきではないでしょうか。教職員は萎縮してしまっているのです。これでは現場の本当のことが委員会に伝わらないし、委員会の本来の意図も現場に伝わらなくなります。ずいぶんとぶしつけな意見を述べましたが、こんな見方もあるということでご検討くだされば幸いです。</p>	<p>○ご意見として参考にさせていただきます。</p>
計画全体	<p>○公立学校の従前にあったイメージは時代とともに変わってきました。新しい公立学校の果たすべき役割を明確にした教育施策を立案すべきだと思います。</p>	<p>○公立学校の果たすべき役割を明確にした教育施策を立案しております。ご意見として参考にさせていただきますながら、計画を推進してまいります。</p>
計画全体	<p>○横浜市は面積・人口共に大きく、一つのものとして取り扱うのには適当とは思えないので、(横浜・各地域)のくくりで取り扱って行きたい。</p> <p>① (2つの横浜らしさ) → 2つの (横浜・地域らしさ) とする。</p> <p>② (公) 横浜を愛し → (横浜及地域を) とする。</p> <p>③ (開) 横浜の歴史や → 横浜及地域の歴史や とする。</p>	<p>○「横浜」という表現には、「地域」も含まれていると考えています。いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p>

○その他のご意見

教科書採択やわかるヨコハマ、PTAのあり方、教育委員会のあり方、エネルギー問題、高校試験制度、大学教育に関するご意見や、カジノ建設、保育のあり方など他局所管の施策に関するご意見などがありました。

### 3 参考

「横浜市中期4か年計画2014～2017」パブリックコメントについて

横浜市では、「横浜市中期4か年計画2014～2017」の策定にあたって、パブリックコメントを実施しました。「横浜市中期4か年計画2014～2017」には、教育に関する内容が含まれており、「第2期横浜市教育振興基本計画」とも連動していることから、パブリックコメントで寄せられたご意見も参考とさせていただく予定です。

○実施期間 平成26年9月1日（月）～9月30日（火）

※実施結果については政策局において集計中

### 4 資料

パブリックコメント実施用はがき

見 込 み は が き

2 3 1 - 8 7 9 0  
017

料金を着入し郵便  
横浜港郵便局  
9 3 1 4

〒226-8501  
平成26年10月10日  
まで  
(郵便不届)

横浜市中区港町1-1

横浜市教育委員会事務局  
教育政策推進課  
「横浜市教育振興基本計画」担当 行

〒226-8501 横浜市教育委員会事務局 教育政策推進課

■以下は、さしつかえない範囲でご記入ください。

①お住まい 市内（      区）・ 市外

②年 代 （      歳代）

③保護者 ・ その他（      ）

第2期横浜市教育振興基本計画（案）へのご意見

1 第2期横浜市教育振興基本計画（案）の施策について  
【施策：      】 ※ 1～13までの施策番号を記載してください。

【施策：      】 ※ 1～12までの施策番号を記載してください。

2 そのほか、第2期横浜市教育振興基本計画（案）について



平成 26 年 11 月 発行  
横浜市教育委員会事務局 総務部 教育政策推進課

〒231-0017 横浜市中区港町 1-1  
電話 045-671-3243  
FAX 045-663-3118  
URL <http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/>

